

平成 15 年度 「緑の国土軸」推進基本調査
緑地資源を活用した地域づくり事例集

自然環境資源を活用した地域づくり事例

自然環境資源を活用した地域づくり事例

目次

秋田県	森吉山における自然再生と観光振興による地域づくり	1
京都府	内山ブナ林等での市民参加による自然再生の取り組み	5
兵庫県	「上山高原エコミュージアム」の推進	7
青森県	鱒ヶ沢町 世界遺産白神山地の恵みを生かしたグリーン・ツーリズムの取り組み	10
富山県	大山町 有峰森林文化村推進事業	13
新潟県	佐渡市 トキのふる里再生事業	15
富山県	イヌワシとの共生推進事業	18
富山県	雷鳥保護対策	20
兵庫県	豊岡盆地 コウノトリと共生する地域づくりの推進	23
兵庫県	豊岡市 地域参加の森づくり	26
鳥取県	米子市 米子水鳥公園（中海ノ彦名干拓地）	28
富山県	氷見市 イタセンパラ保護増殖事業	30
富山県	氷見市 希少トンボの保護育成に向けたため池等周辺の環境保全の取り組み	32
福井県	福井市 テクノポート福井ふれあい自然公園（仮称）整備事業	34
福井県	武生市 地域と連携した里地希少野生生物保全対策事業	36
山口県	豊田町 ほたる飛び交うきらら川づくり調査事業	38
秋田県	五城目町 環境と文化のむら	40
山形県	鮭川村 エコパーク	42
山形県	朝日村中山間地域等直接支払制度 西大鳥集落協定	44
山形県	山形ニュータウン中核エリア整備事業	46
富山県	婦中町 自然博物館ねいの里 ビオトープ事業	48
富山県	朝日町 自然体験学校 やまびこの郷 夢創塾	50
富山県	自然解説員（ナチュラリスト）活動業務	52
富山県	ナチュラリスト協会主催による自然観察会	53
富山県	特定非営利活動法人 富山県自然保護協会主催による自然観察会	54
京都府	宮津市 地球デザインスクール	55
兵庫県	美方町 里山林の整備活用（おじろの森）	57
兵庫県	日高町 里山林の整備活用（上郷・植村直己里山林）	59
富山県	立山黒部アルペンルート	61
富山県	中部北陸自然歩道の整備	63
富山県	中部北陸自然歩道の整備	63
富山県	大品山自然歩道の整備	65
青森県	森田村 生活環境保全林整備事業(森田地区)	67
富山県	大山町 立山山麓家族旅行村の整備	69
富山県	福岡町 とやま・ふくおか家族旅行村の整備	71
富山県	砺波市 県民公園頼成の森の整備	73
富山県	上平村 桂湖野外活動施設の整備	75
富山県	滑川市 東福寺野公園整備事業	77

石川県	山中町	石川県県民の森（森林公園）	79
石川県	輪島市	石川県健康の森	81
石川県	河内村・鳥越村	白山ろくテーマパーク	83
福井県	今立町・武生市・鯖江市	三里山自然と文化の公園整備事業	85
鳥取県	鳥取市	森林公園「とっとり出合いの森」整備	87
新潟県	安塚町	雪を資源とするまちづくり	89
山形県	最上地方	「巨木の里最上」づくり	92
山形県		やまがた花咲かネットワーク推進事業	95
新潟県		『にいがた「緑」の百年物語 木を植える県民運動』	97
富山県		さくらの名所づくり	99
兵庫県	但馬地域	全県花いっぱいモデル助成事業	101
兵庫県	南但馬地域	の花と緑による景観構想	103
青森県	三厩村	増川川ふるさと砂防モデル事業（増川地区）	105
富山県	朝日町	ハーブ公園 ハーバルバレーおがわ	107
石川県	鳥越村	渓流再生事業・うるおい空間整備事業 上出合川	109
山口県	長門市	頭振川砂防・河川環境整備による地域づくり	111
福井県	大野市	真名川水辺の楽校	113
兵庫県	和田山町	水辺の楽校 円山川（竹田）	115
秋田県		雄物川カヌー観光交流推進事業	117
山形県		最上川夢の桜街道	119
山形県		河川アダプト導入モデル事業	121
兵庫県		たじまの森・川・海再生プランの推進	123
兵庫県	但馬地域	円山川水系自然再生計画	126
山形県	南陽市	白竜湖周辺田園風景保全事業	128
山形県	鶴岡市	庄内自然博物園（仮称）構想に係る大山下池地区地域用水環境整備事業	130
石川県	小松市	木場湧水と緑のふれあいパーク	132
鳥取県	鳥取市	湖山池公園湖山池自然再生公園整備事業	134
鳥取県		東郷湖羽合臨海公園（東郷湖）	136
秋田県		能代海岸砂防林「風の松原」	138
山形県		庄内砂丘海岸林における住民参加による海岸林保全活動	140
山形県		飛島クリーンアップ作戦	142
山形県	鶴岡市	油戸地区魚の森づくり	144
富山県	朝日町	自然公園環境整備事業	147
但馬・因幡広域		「私のお薦めビューポイント」写真コンテスト	149
福井県	福井市	国見岳風力発電事業	151
福井県		環境に配慮した住宅設備（太陽光発電設備等）への補助	153
兵庫県	但馬地域	環境グリーンロード作戦の推進	155
島根県	多伎町	キララトゥーリマキ風力発電所整備事業	157

秋田県 森吉山における自然再生と観光振興による地域づくり

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

阿仁町、森吉町の2町

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	森吉山県立自然公園及びその周辺
種類	森吉山県立自然公園
規模	阿仁町と森吉町を合わせた面積は 713 k m ² 。両町にまたがる森吉山県立自然公園は 150 k m ² で、山麓一帯には原生的自然と渓谷美が広がっている。

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

阿仁・森吉地域は森吉山県立自然公園に代表されるように、自然豊かな山村地域である。昭和 62 年、地域経済発展の起爆剤として大きな期待を担い、阿仁・森吉両スキー場がオープン。その後、さらなる誘客の向上を図るため、リフトの増設やコースの新設などの整備拡充も進めてきたが、全国的なスキー人口の減少と景気の低迷もあいまって厳しい状況となっている。こうした中、森吉山の自然資源とゴンドラを活用した「樹氷まつり」、「花の百名山森吉山紀行」、「森吉山紅葉観賞」などのイベント等を企画し好評を得ている。

一方で、花の百名山ブーム、ゴンドラ運行等による利用者増とともに、登山道の洗掘、植生の衰退等が起こっており、現状の施設ではこれ以上の利用者増は自然環境に著しい影響を与える状況となっている。また、森吉山麓では、奥森吉青少年野外活動基地周囲の自然環境の保全や希少種保護と自然環境学習の両立を図るため、利用者等の協力を得た自然再生事業が望まれる。以上のような理由により、自然とふれあう活動を推進し、利用者数の増加と活動内容の充実を図るため、植生復元等を行うとともに登山道等を整備する必要がある。

(目的)

自然再生

自然とのふれあい活動を支援するために、施設（登山道、駐車場等）の整備を行い、利用者の増加を図るとともに、森吉山野生鳥獣センター（環境省）、奥森吉青少年野外活動基地と連携して自然再生を行い、同施設の活用と自然環境の保全を図る。

観光振興

森吉山の自然環境を保護するとともに、スキー場を核とした観光資源を有効に活用するための対策を協議することを目的に両町で昨年「森吉山通年観光対策協議会」を組織。森吉山の自然環境保護と推進、観光資源利活用の企画と施設整備の促進、観光地宣伝と情報の発信等の活動を行う。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

自然再生

既存施設：奥森吉青少年野外活動基地

森吉山野生鳥獣センター（環境省）H16.6月上旬オープン予定

計画施設：(1) 森吉山山頂部植生保全事業

森吉山山頂付近の植生復元を主眼においた登山道及び植生復元施設の整備

H16 登山道整備、植生復元

H17 バイオトイレ、登山道整備等

(2) 森吉山麓高原自然再生事業

奥森吉青少年野外活動基地内における広葉樹林の再生

H16 自然環境調査（植生、動物相等）及び実証試験等

H17 基本計画等の策定

H18以降 広葉樹植栽事業、広葉樹育林事業

観光振興

整備施設：阿仁スキー場ゴンドラ山頂駅の隣接地に休憩室及びトイレを設置

森吉山野生鳥獣センター（今春オープン予定）

計画施設：自然環境学習センター事業、観光拠点誘導看板設置事業、観光ルート基盤整備事業

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

自然再生

(1) 森吉山山頂部植生保全事業：平成16年度～19年度

・山頂域での植生復元、植生復元施設による植生へのインパクトの軽減、迂回路の設置によるオーバーユースの回避、バイオトイレ化による利便性の向上と自然環境保全への配慮

(2) 森吉山麓高原自然再生事業：平成16年度～22年度

・自然再生協議会による基本方針、自然再生実施計画の策定、自然保護団体などと連携した森吉山麓高原の広葉樹林化、自然環境学習への活用

観光振興

阿仁町・森吉町・西木村・田沢湖町・角館町・雫石町を範囲とする秋田岩手広域地域連携観光交流推進協議会が国土交通省の平成15年度の観光交流空間づくりモデル事業に選定された。

阿仁・森吉に係る平成19年度までの主な事業は次のとおり

- ・インタープリター、スキルアップ事業
- ・森吉山環境保全管理基金事業
- ・2次アクセス改善事業
- ・阿仁川水産資源利用適正化事業（キャッチアンドリリース）
- ・スキー場施設目的外利用事業（高山植物、紅葉）
- ・情報共有化、発信機能向上事業
- ・自然環境学習センター（クマサンクチュアリ建設事業）
- ・マタギ経済特区構想
- ・観光拠点誘導施設看板設置事業
- ・観光ルート基盤整備事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

自然再生

- (1) 森吉山山頂部植生保全事業 秋田県
- (2) 森吉山麓高原自然再生事業 秋田県が主体となり協議会を構成し、地元市町村(森吉町)、自然保護団体等と連携のうえ広葉樹林の再生を実施する。

観光振興

阿仁町、森吉町、森吉山通年観光対策協議会、森吉山阿仁・森吉スキー場、阿仁町観光協会、(財)森吉町観光開発公社、阿仁町商工会、森吉町商工会、森吉山を美しくする会、森吉山の自然を愛する会、秋田内陸縦貫鉄道(株)、内陸線沿線町村協議会、ふるさとあに観光案内人の会、もりよし山の案内人の会、阿仁町山岳会、森吉町山岳会

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

自然再生

本事業の森吉山麓高原自然再生事業は、自然再生推進法に基づき実施する自然再生事業の中で、温帯性落葉広葉樹林の再生を主目的として実施する初めてのケースである。また、事業を実施する奥森吉青少年野外活動基地は、H15年に国指定鳥獣保護区に指定され、隣接地である国指定鳥獣保護区特別保護地区には希少種であるクマゲラが生息している。この地区において自然環境の保全や希少種保護と自然環境学習の両立を図り、利用者等の協力を得た事業の推進を行うこととしている点は特徴として評価できる。

観光振興

スキー人口の減少、景気低迷など、スキー場を取り巻く環境が厳しさを増す中で、樹氷の観光資源化のほか、スキーのオフシーズンのゴンドラを活用した高山植物・紅葉観賞など、自然を積極的に活用した取り組みによって地域活性化を目指している。

図版・写真等



担当（紹介）部署

秋田県生活環境文化部自然保護課

森吉山通年観光対策協議会事務局（阿仁町役場商工観光課内）

京都府 内山ブナ林等での市民参加による自然再生の取り組み

位置

京都府宮津市・大宮町

緑地資源の概要 活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	内山ブナ林
種類	ブナを主体とする冷温帯の落葉広葉樹林
規模	約 200ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

本地区はシデ・ナラ類等の広葉樹二次林が広大な面積で広がりねアカマツ林が主に標高 400m以下の山頂や尾根筋等に小面積で点在する。また、里山ブナ林が分布する近畿地方で数少ない地域のひとつである。主な産業は稲作中心の農業で、集落周辺を中心に棚田が広がる。1970 年代頃まで薪炭林利用をはじめとする里山的利用が繰り返されてきたが、今日の過疎化の進行で、管理水準の低下により質の低下が懸念されている。

(目的)

今後さらなる過疎化の進行によって、基盤となる集落が喪失していくことが予想されるため、地域住民の里山利用や管理形態の再生だけでは対応が困難であるため、都市住民等との連携による資源の維持管理体制の構築が求められている。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

共育の森事業（平成 13～14 年度）

本事業の実施に際しては、都市と農村の住民（約 20 名）が参画した「共育の里づくり事業推進協議会」の設立を義務付けている。小野小町のゆかりの地である大宮町五十河地区の協議会では、都市住民の大宮町ファンの輪を拡大させ、信頼できるネットワークづくりを行うなどの 3 つの基本方針を掲げ、「小町公園、内山ブナ林などの地域資源を有効に活用する」、「都市住民に地域の農産物等への理解を深めてもらい、販路を拡大する」などの目的を設定した。平成 13・14 年度に延べ 11 回の活動を行っている。活動の特徴としては、都市住民をお客様として受入れるのではなく、双方が対等の立場で継続的な交流を図るため、全ての作業を都市と農村住民が協力して実施している。

自然環境保全地域（平成14年3月）

地元市町から保全地域指定についての要望書が府に提出されるほか、地元の小学校がブナをテーマにした学習を展開するなど、ブナ林の保全に対する地域の気運が高まってきたことから、地域指定されることとなった。指定後の取り組みとして、自然環境保全監視員を地元の人々に依頼して違法行為を監視

するほか、保全管理のための事業を地元区に委託して実施するなど、地域の住民と協力しながら保全ための取り組みが展開され、また、ブナ林の貴重性や保全の必要性についてポスターやリーフレット、案内板、自然観察会などが実施されている。

自然公園区域指定の検討

平成 11 年現在の自然公園指定面積 8,702ha を平成 22 年には倍増させることを目的として、自然公園倍増計画が推進されており、当地区一帯も指定検討箇所となっており、今後検討が進められることとなっている。

丹後スペースクラブ

「大宮町緑の少年団」として発足した「丹後スペースクラブ」では、丹後地域を中心に夏冬の平成5年から全国星空継続観察に参加するとともに、植樹活動・ブナ林の観察会などの自然環境保護活動を行っている。平成10年度には、会員の寄付と会の活動の趣旨に賛同した企業の支援により、天象観察台「開星館」を開設している。

大宮町

大宮町は平成元年度から、京都府『緑と文化の基金』を活用し、内山山系の植生調査、ブナハウス内山の建設等、ブナ林の保全事業の実施や、ブナ林の保全を考えるシンポジウムなどを開催してきている。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

地域住民だけではなく、都市住民や専門家も参加し、自然環境の保全と里山文化の継承を目的として、里山管理や環境教育の場として里山利用を推進している。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

過疎化が進行する中、地域住民や都市住民、専門家などが、森林の保全にとどまらず、里山の文化の継承に努めといる点が評価される。また、府や町等が、連携して事業を推進している点も評価される。

図版・写真等



担当(紹介)部署

京都府企画環境部企画総務課 土木建築部公園緑地課

兵庫県 「上山高原エコミュージアム」の推進

位置

兵庫県美方郡温泉町

緑地資源の概要 活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	上山高原エコミュージアム
種類	ススキ草原、ブナなどの広葉樹林、渓谷、貴重な動植物(ツキノワグマ、イヌワシなど)、麓の集落・田園
規模	温泉町上山高原 373ha 及びその周辺地域

活用の目的等 活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

- ・昭和 60 年代から滞在型リゾートとしての開発の可能性や方向性を検討した。
- ・近年の社会経済情勢の変化や自然保護意識の高まり、また、平成 11 年度に実施した自然環境調査によりイヌワシをはじめ貴重な動植物の生息状況が明らかになる。
- ・当地域は豊かな生態系を持つ県民共有の財産として、後世に残すべき貴重な自然であることが判明した。
- ・平成 12 年度、自然環境保全・利用のモデル拠点づくりエコミュージアムを進めるため「上山高原自然環境保全・利用方策検討委員会」を設置。
- ・平成 13 年度、「上山高原エコミュージアム(仮称)基本計画」を策定。

(目的)

兵庫県北部、鳥取県境の扇ノ山山麓に広がる上山高原やその周辺地は、自然性の高いブナ林と人の営みの中で育まれてきたススキ草原があり、イヌワシやツキノワグマなど貴重で多様な生態系が育まれてきた。

上山高原エコミュージアムは、この豊かな自然や麓の集落などをまるごと生きた博物館ととらえ、かけがえのない自然を県民共有の財産として守り・育むとともに、自然と共生した暮らしを学び、実践する場づくりを、地域住民をはじめ、多様な主体の参画と協働により進める。

主な施設 活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

ハード施設整備(自然環境の保全を主とする観点から、必要最小限の規模・機能とする)

高原部(国定公園内)の整備(H14 実施設計 H15 着手 H15~H17 完成)

山小屋(H15 完成)

遊歩道、サイン整備(H15~H17 で整備、順次供用開始)

山麓部の整備(H14 基本設計 H15 実施設計 H16 着手 H18 完成)

サブ拠点整備(駐車場と休憩所の建設 2箇所 H16 年度末完成)

ビジターセンター整備(H17 年度~の予定)

ソフト事業

自然復元活動(ススキ草原復元、ブナ林復元、モニタリング)

自然観察会等の利用プログラム試行

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

上山高原エコミュージアムの推進を図るため、

H13 年度 「上山高原エコミュージアム(仮称)基本計画」策定

H14 年度 地元運営準備組織「上山高原エコミュージアム準備会」立上げ
自然復元活動、自然観察等プログラムの試行開始

H15 年度 運営組織の NPO 法人への移行準備
山小屋の整備、遊歩道の改修開始(～H17 年度)

H16 年度 自然再生事業本格開始
県による NPO 法人認証(7 月頃の予定)
サブ拠点整備、ビジターセンター展示計画策定・教材開発

H17 年度 「エコミュージアム」オープニング
ビジターセンター着工

H18 年度 ビジターセンター完成予定

(事業)

活用事例に適用されている事業

平成 13 年度から試行的に実施してきた自然保全・復元活動を、16 年度から「自然再生事業」として国庫補助を導入しながら本格的に実施。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO 組織、業界団体、民間事業者の関わり

今後の事業主体は、H16 年 7 月頃認証が予定される「上山高原エコミュージアム NPO 法人」であり、地元温泉町及び兵庫県が参画・支援する計画である。地域住民、地域内外の交流を図り、多様な主体の参画と協働により進めることが必要である。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

貴重で多様な生態系を育む上山高原の自然が地域住民をはじめ県民共有の財産として保全され、次代に継承されるとともに、自然の保全・復元についての具体的手法とその効果を情報発信することにより、他地域における取組に活かされる。

地域住民を中心に、様々な主体が協働する運営体制を整備することにより、地域コミュニティづくりにつながるるとともに、「参画と協働による環境保全・利用のモデル」として他の取組を先導する。

図版・写真等

温泉町
上山高原

鳥取県 岡山県 兵庫県 京都府 大阪府

日本海

上山高原山頂
高原部山小屋

山小屋

霧ヶ滝溪谷ゾーン

扇ノ山・畑ヶ平ゾーン

小又川溪谷ゾーン

上山ゾーン

おもしろ昆虫化石館 (八田コミュニティセンター)

観点施設 (八田中学校)

サブ観点施設 (海上冬季分校)

サブ観点施設 (両下公民館)

オートキャンプ場跡地

里エリア

- エコミュージアム全体の活動拠点
- 自然と共生した暮らしの体験・学習・研究・研修・実践フィールドとしての利用

● ブナ林、ススキ草原、イヌワシ、ツキノワグマ等の高標地の生態系の維持・回復

● モニタリングと取組へのフィードバック

● 研究・研修・実践活動等のフィールドとしての活用

高原エリア

- 貴重で豊かな自然の保全・復元
- 自然への負荷にも配慮した体験・学習・研究・研修・実践フィールドとしての利用

▲ 扇ノ山

兵庫ホームページ アドレス <http://www.ueyamakogen-eco.net/>

担当（紹介）部署

兵庫県健康生活部環境局自然環境保全課（兵庫県但馬県民局県民生活部環境課）

青森県 鱒ヶ沢町 世界遺産白神山地の恵みを生かしたグリーン・ツーリズムの取り組み

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

鱒ヶ沢町

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	白神山地
種類	グリーン・ツーリズム
規模	343km ²

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

鱒ヶ沢町にある世界自然遺産白神山地への観光客が着実に増加しており、観光振興及び地域経済への波及効果を考える上で、滞在型観光に対応し得る観光地づくりが急務となっていた。

このことから、町内における観光地の質的、量的な向上を図るとともに、周遊観光やリゾート観光、アウトドアやグリーン・ツーリズムなど観光客のニーズに合わせた滞在型観光の環境整備を図っていくことが必要となっていた。

(目的)

町では白神山地を中心に、自然、人、文化資源を有効に活用・連動させ、世界自然遺産『白神山地』にこだわった人材育成、産業振興、観光交流、環境に配慮した景観づくりを推進し、観光交流拠点としての『白神・ツーリズム』を推進している。

最近、白神山地を訪れる人たちは、単なる観光旅行から、白神山地での体験や地元の人たちとの交流を希望する人たちが増えており、これらを地域の活性化につなげるよう目指している。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

ミニ白神の整備状況

事業名 資源活用林業構造改善事業

施設名 森林体験・交流促進施設(ミニ白神)

実施年度 平成6年度～平成8年度

事業費 257,400千円 (うち国庫補助 128,700千円)

整備内容 野鳥観察舎、森林浴歩道、東屋、山火事防止施設、管理棟(くろもり館)1棟 251 m²

事業主体 鱒ヶ沢町

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

白神・ツーリズムのメインとなる白神山地トレッキングは、世界遺産地域の周辺部に5つの基本コースを設定し、「あじがさわ白神山地ガイド倶楽部」のメンバーが案内している。冬期間についてもコース限定で実施しながら、通年のトレッキングを目指している。さらに、ガイドの資質向上と倶楽部の体制強化を目的に、森林インストラクターを招いて講習会を実施したり、各種講習会への参加、森林インストラクターの資格取得などに取り組むとともに、新たな森林活動ガイドの養成等を行ってきた。

また、グリーン・ツーリズムについても農林漁業体験をはじめとする様々な自然体験活動を指導するグリーン・ツーリズムインストラクターの養成を行ってきた。

今後は、これらの指導者が連携して多彩なグリーン・ツーリズム体験ができるような企画・運営を行い、白神の魅力を伝えていく。

多彩なグリーン・ツーリズム体験の実施【体験メニュー】

農業体験： りんご農家体験 畑の農作業体験

林業体験： 林業体験 木工体験

漁業体験： 漁船乗船体験 アユ釣り体験 サケの採卵体験

酪農体験： ジャージー牛の乳搾り、手作りバター、田舎料理、田舎文化体験 そば打ち、豆腐作り、味噌造り、わら細工、藍染

白神山地トレッキング： ミニ白神、赤石溪流、くろくまの滝、ブナ保存

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

平成14年に官民一体となり「白神・ツーリズム実行委員会」を立ち上げ、白神山地トレッキングとグリーン・ツーリズムを組み合わせた新たな体験滞在型観光に取り組むことになった。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

白神・ツーリズム実行委員会と鯨ヶ沢町役場では、地域の活性化と観光産業の振興といった目標を共有し、それぞれの役割で企画～実行までを行うなど官民一体となった取り組みを行なっている。とくに山、川、海を一つの町で体験できる利点を生かし、10種類もの体験メニューを揃えており、観光客のニーズを的確に反映させるなど、集客努力にも余念がない。

また、インストラクター資格取得による指導者の資質向上に努めるなど、受入体制や接客に対する資質向上にも努めている。



H P : <http://www.ajigasawa.net.pref.aomori.jp/greentourism/index.html>

担当（紹介）部署

青森県農林水産部構造政策課

富山県 大山町 有峰森林文化村推進事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

大山町 有峰

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	有峰森林
種類	森林、ダム湖
規模	11,600ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

有峰は、優れた天然森林が広がる標高約 1,100 メートルの高原盆地で、有峰湖や薬師岳と調和し、静寂さが保たれているが、遊歩道やキャンプ場なども整備されており、人々が心身の健康を取り戻すことができる森となっている。有峰には中世から大正 9 年の電源開発着手まで数十戸に住民が居住し、厳しい自然環境のなかで気高い森林文化が形成されていたが、現在ではこうした森林文化が失われようとしている。

(目的)

共生と循環の社会への復帰が求められているなかで、豊かな森林を有する有峰において、森林と人との密接なかかわりの中であつた森林文化を継承するとともに新たな森林文化を創造することを目的として活動する地域の広がりを「有峰森林文化村」とし、基本理念「水と緑といのちの森を永遠に」に賛同する村民が森林環境学習などを通じて共生と循環について学び、新しい森林文化を創造するとともに豊かな森林を守り、次代に引継いでいく。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

既存施設：遊歩道、キャンプ場、多目的広場、テニスコート、ビジターセンター（展示施設）、有峰ハウス（宿泊施設）、展望台、駐車場
整備施設：H15 年整備猪根山荘（村民活動・休憩施設）（遊休施設を活用）、H16 年完成予定有峰ハウス（建替え）

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成 12 年度	基本構想策定
平成 13 年度	基本計画策定

平成 14 年 7 月 開村、有峰森林文化村会議設置
平成 15～16 年度 有峰ハウス建替え

(事業)

活用事例に適用されている事業

H15 予算額 400,345 千円(うち国庫補助金 151,000 千円)
H16 予算額 88,725 千円

(関係主体)

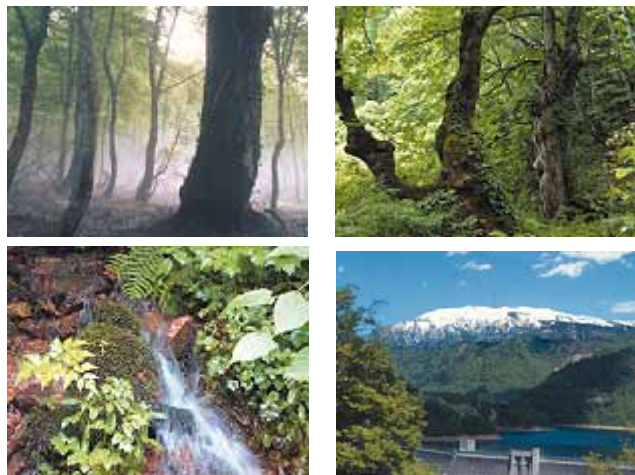
計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
有峰森林文化村会議(構成員:富山県、大山町、北陸電力(株))

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

単に自然と接するレクリエーション施設とするのではなく、俗化することを避け、基本理念に賛同する人々を新たな村民とする「村」として過去の森林文化を学びながら新しい森林文化を創造しようと取り組んでいる点は、特徴的として評価できると考えている。

図版・写真等



ホームページ「ありみネット」アドレス <http://www.arimine.net>

担当(紹介)部署

富山県農林水産部森林政策課

新潟県 佐渡市 トキのふる里再生事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名

佐渡市椎泊地内

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	椎泊谷平地すべり防止区域
種類	耕作田、耕作放棄地、森林
規模	地すべり防止区域（90ha）内

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

椎泊谷平地区は、耕作放棄などにより荒廃が進み、平成12年には大規模な地滑りが発生し、地すべり抑制のための集水ボーリングを実施中である。佐渡小佐渡東部は、かつてトキの生息地であり、特に当地すべり区域を含む区域は、通常、人や車の往来がなく、外界の影響を受けにくい、棚田や畑の放棄が進み、自然状態に還元しつつある、地形等から水が豊富で、トキの餌場に適しているなど、今後の野生復帰に向けた最適地とされている。

また、トキの人工増殖による繁殖の進捗にともない、環境省、農水省の調査事業などが進められており、トキの棲める島づくりへ向けた県の取り組みも地元の住民やNPO、学校、内水面漁協、行政を巻きこんで始まっている。

（目的）

「トキのふる里再生事業」は、再来する災害の防止、荒廃した自然の回復とともに、トキの野生復帰へ向け地すべり防止施設を間伐材などの自然素材を活用したもので整備し、餌場や隠れ場などトキも棲める環境すなわち生き物に優しい生息環境の復元を図るものである。

さらに地域住民の参加による環境づくり、保全育成を図ることをねらいとしていることから、地域住民の事業理解、事業計画への参加、環境づくりへの参加と意識を高めていく過程と一定の参加の成果を上げていくワークショップを実施している。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

地元住民とのワークショップの結果を踏まえ、谷平地区を「渓流再生ゾーン」「水辺とその緩衝ゾーン」「森林再生ゾーン」「自然活用ゾーン」「環境農業ゾーン」の5つのゾーンに区分し、トキのふるさと再生事業として整備を進めていくゾーンを「渓流再生ゾーン」「水辺とその緩衝ゾーン」とする。

「渓流再生ゾーン」については、基本的にはかつてのトキの餌場でもあった現地の良好な自然環境の保全を重視しなければならないことから、渓流内に設置する水路は必要最小限の範囲として、表流水の浸透が明らかな地すべり亀裂部等に水路工を設置し浸透の防止を図る。また、溪岸崩壊に対処するために、

崩壊箇所には床固工を3基設置する。材料として間伐材を使用する。

「水辺とその緩衝ゾーン」については、この箇所は地形的に集水しやすい形状であるため、貴重な水辺空間となる可能性が高い。溪流に一気に水を流さないための調整池的な役割を担う地すべり施設として遮水シートにより地下への浸透防止を図るとともに、自然環境にも配慮した水辺空間の整備として池の整備を実施予定。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成14年度：測量および実施設計 地元住民・県・市によるワークショップ 床固工1基

平成15年度：修正設計、地元住民・県・市によるワークショップ 床固工1基整備

平成16年度：池の基盤整備は県、池の廻りの整備は住民(植樹、植栽) 床固工、水路工、帯工の整備を実施 地元住民・県・市によるワークショップ

(事業)

活用事例に適用されている事業

「溪流再生ゾーン」「水辺とその緩衝ゾーン」の整備については、トキのふる里再生事業で実施。

「森林再生ゾーン」の松枯れについては、「トキ営巣木等保全整備事業」で対応

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

新潟県、佐渡市(両津支所)、地域住民(椎泊集落)、桜山会(地域住民団体)

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

平成14,15年度に合計9回のワークショップを実施して、今回の取り組みを現地に入って確かめながら、悩みながら地区全体の取り組みに育ててゆこう、という方向で緩やかに確認をしてきている。ワークショップに参加できない住民に対しても「ふれあいの里谷平」通信として毎回の実施内容を配布し情報の共有を図っている。

また、平成16年度には、地元とのワークショップで整備後の維持管理の方向等を検討することとしており、ソフト活動とハード整備のネットワーク化につなげていく予定となっている。

新潟県佐渡地域振興局地域整備部

トキのふるさと再生事業

椎泊谷平地区整備ゾーン区分図 椎泊谷平地すべり地域全景

住民と協働で計画づくりを進めます。

【椎泊谷平全景】 【床固工設置状況】

担当（紹介）部署

新潟県佐渡地域振興局地域整備部

富山県 イヌワシとの共生推進事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

上平村、婦中町（自然博物館ねいの里）ほか

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	イヌワシ
種類	天然記念物、生態系
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

イヌワシは国の天然記念物、種の保存法による国内希少野生動植物種に指定され、絶滅が危惧されており、近年、各種開発行為との摩擦等がみられる。

（目的）

生息数は全国で400羽ほどと推定され、県内には全国の約1割にあたる、45～65羽が生息するといわれ、とくに上平小瀬地区のイヌワシについては、古くから営巣地が知られており、イヌワシと人との共生を図るため、各種の取組みをしている。

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

（1）平成9年度

・ 巣の周辺850haを鳥獣保護区に設定するとともに、とくに巣に近い場所3haについて、イヌワシでは全国で初めて、特別保護指定区域に指定した。

（2）平成10年度

・ イヌワシモニタリングシステムを設置。ねいの里においてリアルタイムの映像を提供し、環境教育に活用

（3）平成11年度

・ イヌワシ保護指針及びイヌワシ生態ビデオを作成。

（4）平成12年度

・ イヌワシ営巣地の補修

（5）平成14年度

・ 鳥獣保護区を230ha拡大し、1,080haに。

（6）平成16年度

・ 繁殖（巣立ち）が成功すれば、生態ビデオの追録を補正予算計上する予定。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は県。

周辺で治山事業などの各種事業が行われていることから、映像等から得られる情報をもとに工事期間や工法についてイヌワシの繁殖が成功するよう配慮を求めている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

イヌワシの保護のために鳥獣保護区の特別保護指定区域を指定し、関係者の協力のもと、営巣環境の保全に努めており、さらに、モニタリングシステムの活用により環境教育を推進している。

図版・写真等



イヌワシ・モニタリングシステム

担当(紹介)部署

富山県生活環境部自然保護課

富山県 雷鳥保護対策

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

立山町ほか

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	ライチョウ
種類	希少な動物、特別天然記念物、県鳥、生態系
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

ア 富山県が国指定特別天然記念物ライチョウの管理団体に指定された。

イ ライチョウを県鳥に指定したが保護対策を図るデータがなかった。

ウ ライチョウの生活史や生活環境を含めた広範囲で長期的なデータが必要であった。

エ アルペンルートの開通（昭和46年）に伴う入り込み者の増大による人為的な影響が懸念され、継続調査が必要であった。

(目的)

富山県内の北アルプスには、絶滅のおそれのあるニホンライチョウの全生息数の約1/3が生息し、ライチョウの最大の生息地となっている。このため、ライチョウの生息分布と生息環境等を調査把握するとともに、ライチョウ生息環境への人による圧迫を防止するための保護対策を行うものである。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

(1) 調査項目

ア 生息数及び生息環境（植生）調査

・昭和47年度から県下主要山岳地域で実施

・立山地域では、5年ごとに調査を実施。ただし、前回調査（H13）で生息推定数が急減したため今年度（H15）補間調査を実施。

イ 病理検査（立山地域のみ）

・入山者による病原菌持ち込み状況の監視を昭和50年度から実施。（ライチョウの糞便を採取し、サルモネラ菌、大腸菌等を調査）

ウ 立山ライチョウ生態調査（同上）

・縄張りの消長、産卵数、フ化率、ヒナの生息状況の追跡調査を昭和52年度から実施。

エ 冬山ライチョウ生息調査（同上）

・冬季における生息状況の把握と越冬場所、採餌場所の調査を昭和 53 年度から実施。

(2) 保護対策

ア 雷鳥保護柵の設置

昭和 48 年度から立山、朝日岳、薬師岳で 9.7km 設置し、毎年維持管理を行っている。

イ スキーヤー等の侵入防止対策

昭和 50 年度から立山地域にスキー規制区域を設定してスキーヤー・スノーボーダー等がライチョウ繁殖地であるハイマツ帯等へ入らないよう保護看板、ポール、ロープ等を設置している。

ウ 植生復元事業

立山室堂地区の植生が荒廃した場所において、昭和 57 年度から実施している。

エ ゴミの持ち帰り運動

立山室堂地区において昭和 52 年度からゴミ箱を撤去し、平成 4 年度からはゴミの持ち帰り運動を実施して生息環境の浄化に努めている。

オ 保護思想の普及啓発

パトロール員及び山小屋関係者により、保護を啓発する看板の設置をはじめライチョウの保護思想の普及指導を行っている。(立山、大山、朝日、宇奈月の各地域)

カ 携帯トイレネットワークの運用の開始

野外排泄をなくするために平成 15 年 7 月より行っている。

今後の保護対策

(1) 調査計画

ア 生息数・生息環境調査

立山においては、北アルプスの生息状況の指標となるよう今後も継続調査を行う。

イ 病理検査

立山では、様々な要因から、ライチョウへの伝染性の病原菌等が繁殖する可能性が高く、今後も監視を強化し継続する。

ウ 立山ライチョウ生態調査及び冬山ライチョウ生息調査

これらの調査については、保護対策を行う上で必要な生態に関する資料を得るため、昭和 52 年度及び 53 年度から調査を実施しているが、いまだ解明途中であり今後も調査を継続する。冬期の分布についてはその把握が困難なためテレメトリーによる調査を継続する。

(2) 保護計画

ア 現在行っている前記(2)の保護対策は、今後とも継続する。

イ これまでの調査から、今後の雷鳥保護のための方向性を示す「富山県ライチョウ保護指針」を策定する。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は県。立山に関わる様々な人や機関が協力してライチョウをはじめとする自然環境の保全に努めている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴、評価できる点等

立山の自然環境の保全にあたっては、宿泊施設や交通機関をはじめ、様々な人、機関が協力しながら推進している。

図版・写真等



調査年度	調査期間	推定生息数(羽)	雄	雌	不明	性比
S 47(1972)	6.23 ~ 6.25	267	163	104	0	1.57
S 56(1981)	7. 5 ~ 7. 9	244	150	94	0	1.6
S 61(1986)	7. 5 ~ 7. 9	213	118	95	0	1.24
H 3(1991)	6.25 ~ 6.30	333	200	132	1	1.52
H 8(1996)	6.22 ~ 6.27	334	210	124	0	1.69
H 13(2001)	6.29 ~ 7. 3	167	94	73	0	1.29
H 15(2003)	6.13 ~ 6. 23	225	124	100	1	1.24

担当(紹介)部署

富山県生活環境部自然保護課

兵庫県 豊岡盆地 コウノトリと共生する地域づくりの推進
(コウノトリ野生復帰推進計画)

位置

豊岡盆地(豊岡市、城崎町、日高町、出石町)

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	豊岡盆地
種類	田園、河川、里山林
規模	2,584 ヘクタール(耕地面積のみ)

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

かつて日本に広く分布していたコウノトリは、明治時代の狩猟の解禁により乱獲され、分布範囲は但馬地域に限られてしまった。その但馬では、第二次大戦中の営巣木であるマツの木の伐採、戦後の土地改良や河川改修による生息地の減少、また有機水銀を含む農薬の使用による餌生物の減少やそれがコウノトリ自身に及んだ健康障害等によって急速に個体数が減少し、さらに個体数が小さくなることによる遺伝的劣化などによって 1971 年に絶滅した。

(目的)

国内の野生のコウノトリが但馬地域を最後に絶滅して以来、30 年が経過する中、県立コウノトリの郷公園を中心とした保護増殖の取り組みにより平成 15 年度には 106 羽を数えるに至っている。

このような状況下、兵庫県では、平成 15 年 3 月に「コウノトリ野生復帰推進計画」を策定し、平成 17 年度の試験放鳥に始まるコウノトリの野生復帰推進に向けて、環境創造型農業の推進、河川の自然再生、里山林の整備等を推進する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

転作田のビオトープ化、常時湛水稻作(コウノトリの餌場確保)
 田と排水路を繋ぐ魚道整備(水生生物の繁殖環境確保)
 ほ場整備事業の排水路に環境保全型工法を取り入れた排水路整備(水生生物の繁殖環境確保)
 生き物安全安心場所作り(田に素堀水路を設け、中干し時の水生生物の避難場所を確保)
 地域参加の森づくり(里山林整備)
 河川の自然再生(河川の自然再生、湿地の創出、河川の連続性の確保)
 電線類の地中化等(電線類の地中化、道路の美化)

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成14年6月	「コウノトリ野生復帰推進協議会」設置(計画策定)	
平成15年3月	「コウノトリ野生復帰推進計画」策定	
平成15年7月	「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」設置(事業の連携等)	
平成15～16年度	試験放鳥に向けての環境整備	準備
平成17年度～(5年間程度)	試験放鳥	短期的取り組み
以降～定着	本格的野生復帰	中期的取り組み
以降～	自然繁殖	長期的取り組み

(事業)

活用事例に適用されている事業

県単独事業(一部、国庫補助事業)

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

<p>平成15年7月に、学識者、関係団体、行政を構成員とする「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」を設置し、コウノトリの野生復帰推進事業の連携、野生復帰推進を図るための方策の総合調整を図っている。</p> <p>(構成団体)</p> <p>こころ豊かな但馬推進会議、但馬夢テーブル委員会、三江地区区長会、たじま農業協同組合、豊岡市農業委員会、豊岡市土地改良事業協議会、北但地域認定農業者活動連絡協議会、円山川漁業協同組合、北但東部森林組合、但馬地区消費者団体連絡協議会、たじま緑のネットワーク、コウノトリ市民研究所、但馬文化協会、但馬観光連盟、豊岡商工会議所、但馬地区商工会連絡協議会、但馬小学校長会、国土交通省豊岡河川国道事務所、豊岡市、城崎町、日高町、出石町、兵庫県但馬教育事務所、県立コウノトリの郷公園、但馬県民局、学識者3名(農業、河川、鳥各方面)</p> <p>豊岡市祥雲寺区：30戸、105人</p> <p>県立コウノトリの郷公園が所在する集落であり、コウノトリの野生復帰計画の拠点として、常時湛水稲作や転作田のビオトープ化などの自然再生に向けた取り組みを実施し、人と自然が共生する地域づくりを展開している。</p> <p>コウノトリ市民研究所：所在地豊岡市、会員70名</p> <p>コウノトリの野生復帰を支援するため、平成10年に立ち上げられ、豊岡盆地の生き物調査やビオトープづくりなど、一般市民が気軽に参加できる行事の開催や普及啓発活動を展開している。平成15年度田園自然再生活動コンクール農林水産大臣賞受賞。</p>

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

- 1 コウノトリと共生できる環境が人にとっても安全で安心できる豊かな環境であるとの認識に立ち、人と自然が共生する地域の創造に努め、コウノトリの野生復帰を推進する。
- 2 人里離れた地で野生復帰が試みられている他の鳥獣と異なり、コウノトリの野生復帰は、かつての生息地である自然豊かな人里に戻していこうという世界的にも例をみない取り組み。

図版・写真等



図 但馬地方におけるかつての生息状況

兵庫県但馬県民局コウノトリ翔る地域づくりページ：
http://web.pref.hyogo.jp/tajima/kikaku_tiiki/index.html

担当（紹介）部署

兵庫県但馬県民局企画調整部 コウノトリ翔る地域づくり担当

兵庫県 豊岡市 地域参加の森づくり

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

豊岡市三江地区

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等。

名称	豊岡市コウノトリの郷公園
種類	里山
規模	活動対象地 10ha (エリア500ha)

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

森林への関心が低下し、里山が活用されなくなり荒廃している。特にアカマツの枯死が目立ち、コウノトリの放鳥に向けて営巣木の確保が課題となっている。

(目的)

森林への関心を高めるため、地域住民や都市住民にボランティア活動としての森林整備に取り組んでもらい里山を整備し、営巣木の健全化を図る。また、松くい虫抵抗性品種である「ひょうご元気松」の植栽にも取り組む。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

歩道整備(平成14年度～18年度)

(施設の整備は実施・計画ともしていない。)

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成15年度には5回の活動イベントを実施し、ボランティアによる「ひょうご元気松」の植栽や、松林の腐葉除去作業をはじめ、竹林整備やクラフト作りを行った。平成16年以降も地域参加の森づくり実行委員会を中心に、年5回程度の活動イベントを実施していく。

(事業)

活用事例に適用されている事業

・地域参加の森づくり事業

森づくり参加への気運を高めるため、市町・非営利団体において取り組む植樹関連のイベントの開催への助成を行い、県民総参加の森づくりを推進する。

・ボランティアを活用した里山林の整備事業

コウノトリの野生復帰計画に基づき、かつてのコウノトリの営巣地において営巣木を再生するため、森林ボランティア実行委員会を立ち上げ、地域植栽イベントによる啓発活動に併せて林間歩道・松林の整備を行うことによりコウノトリ野生復帰に寄与する。」

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体：豊岡市

活動主体：豊岡市地域参加の森づくり実行委員会

コウノトリ市民研究所、コウノトリの郷公園パークボランティア、コウノトリの郷公園セイバーキッズ等関連団体とは、イベントの共催や、広報協力などで連携している。

特徴

実行委員会メンバーや関連団体とのネットワークにより、多彩な活動を行っている。大都市圏から離れた地域における行政主導による森林ボランティア活動、コウノトリの野生復帰に寄与する活動としてユニークである。

図版・写真等



ひょうご元気松

担当(紹介)部署

兵庫県但馬県民局地域地域振興部豊岡農林振興事務所

鳥取県 米子市 米子水鳥公園（中海／彦名干拓地）

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

米子市（中海／彦名干拓地）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	米子水鳥公園
種類	都市公園（都市緑地）
規模	供用面積 28.7 ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（概要）

- ・我が国 5 位の面積を持つ中海の彦名干拓地に当公園は位置し、コハクチョウの日本における集団越冬地の南限として貴重な地域となっている。
- ・昭和 40 年代の農地造成干拓工事等、中海周辺の自然環境の後退により、水鳥の生息適地は減少していった。昭和 56 年には、残された湿地を水鳥の生息環境として保全するため、水鳥公園を設置する要望が市民からあがり、平成 4 年に建設が着手され、平成 8 年から供用された。
- ・現在では、当公園と恵まれた自然環境を活かし、鳥を通じた国際交流や、野生鳥類に関する調査研究、自然に関する普及啓発活動等が積極的に行われ、中海のラムサール条約への登録を目指す等、様々な活動の拠点となっている。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

ネイチャーセンター、観察舎、駐車場、つばさ池、トンボ池

（事業）

活用事例に適用されている事業についてご記入ください。

- ・地域づくり総合整備事業

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO 組織、業界団体、民間事業者の関わり

（財）中海水鳥国際交流基金財団 米子水鳥公園 米子市観光課

図版・写真等



米子水鳥公園 <http://www.yonagomizudorikouen.or.jp/>

担当（紹介）部署

鳥取県県土整備部都市計画課緑地公園室（紹介）

富山県 氷見市 イタセンパラ保護増殖事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

氷見市

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	国指定天然記念物イタセンパラ
種類	希少動物
規模	氷見市万尾川、仏生寺川の流域

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

1 国指定天然記念物イタセンパラは、氷見市の万尾川と仏生寺川に生息する貴重な淡水魚である(全国では濃尾平野、淀川、氷見市の3地域のみが生息)

2 氷見市の河川では、外来魚のブラックバスが確認されたことから、イタセンパラへの重大な影響が懸念され、絶滅の危機を回避するために、氷見市において保護増殖事業を行うものである。

(目的)

- 1 イタセンパラの生息する河川からの一時的保護
- 2 保護増殖池における固体の増殖
- 3 イタセンパラ保護の普及啓発

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

イタセンパラ保護池(約400㎡、平成15年度造成、氷見市惣領地内)

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成15年度 イタセンパラの生息する河川からの一時的保護、保護増殖池における固体の増殖

平成16年度 保護池での固体の観察等、イタセンパラ保護の普及啓発

平成17年度 同上

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体 氷見市

関係者等 ブラックバス退治に地域住民や生徒が参加

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

希少な生物の保護に行政だけでなく、地域住民が参加しており、また、通常は水中に生息し見ることのできない淡水魚を、市民が間近に観察できる機会を提供する。

図版・写真等



<http://www.city.himi.toyama.jp/~60400/itasennpara/index.htm>

担当（紹介）部署

富山県教育委員会文化財課

富山県 氷見市 希少トンボの保護育成に向けたため池等周辺の環境保全の取り組み

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

氷見市宮田地内

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名 称	乱橋池周辺保全エリア
種 類	希少種トンボの保全
規 模	島尾大池と乱橋池の流域を合わせた面積 20 h a

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

希少種のトンボが多く確認(全国3位65種)された乱橋池等のため池は、耕作放棄田からの土砂流入や、生活様式の都市化傾向に伴う水質悪化等により、ヘドロの堆積、解放水面の縮小、陸地化現象などが進行し、健全で美しい自然環境が喪失するとともに、生態系にも多大の影響を及ぼしている。

(目的)

島尾池と乱橋池を中心とした自然環境の保全整備を行ない、豊かな動植物の生息空間を確保し、地域の人々に親しまれ、広く県民にも慈しまれる農村空間を創出するものである。特に本計画地及びその周辺のため池や小川の地形、水温、水質等がトンボ類の生育に適しており、富山県内での幻のトンボ「マルタンヤンマ」と「ネアカヨシヤンマ」を含めて65種類以上のトンボが確認されるトンボの宝庫であり、ため池の保全整備及び周辺の維持管理の適正化による地域の生態系システムの保全対策を図るものである。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

動植物育成施設：観察路 1,106m、トンボ誘致池 4 箇所、湧水池 3 箇所、奥の谷水路 400m、ヘドロ浚渫 2 箇所

利活用保全施設： 巡回管理橋 130m、学習管理棟 1 棟

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

ため池等周辺環境保全整備事業宮田地区の事業工期：平成7年度～平成15年度

・乱橋池周辺保全エリアについては、地域住民の活動も活発であり、平成8年に「宮田のトンボを守る会」が発足され、地域住民とともにトンボの環境を保全するために、「生態系実施委員会」や「保護管理委員会」を設置し、環境保全の活動を実施している。また、エリア内施設整備内容についても必要性

等の検討を行なっている。

・前述の主な施設に記載してある各施設については、平成15年度までに整備済みである。

(事業)

活用事例に適用されている事業

ため池等周辺環境保全整備事業 宮田地区 (国事業名：農村振興総合整備事業 (地域環境型))
ふるさと・水と土保全モデル事業 氷見地区 ... 遊歩道 L=1,100m

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

乱橋池及び周辺の自然を考える会 (地域住民団体) 会員 48 名。平成 8 年に発足した「宮田のトンボを守る会」から周辺地域住民のみならず、会の趣旨に賛同する住民 (県内全域：行政、学識経験者、趣旨賛同者) を追加し、平成 12 年に改名した。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

乱橋池及び周辺の自然を考える会では、行政 (氷見市) と連携を図りながら、地域住民や小学生が主体となったイベントや活動を毎年行なっている。

イベント又は活動名	地域住民等の参加人数	開催時期
親子トンボ教室	親子 30 組 × 4 回	5 月 ~ 9 月
宮田小学校の課外授業	2・3・4 年生	4 月 ~ 11 月
ホタル観察会	親子 120 名程度	6 月
宮田保育園の情操教育	30 人 × 4 回程度	4 月 ~ 11 月
草刈り等の清掃活動	100 名程度	6 月 ~ 7 月
県政バス	40 人 × 2 回	7 月 ~ 8 月
市政バス	40 人 × 2 回	6 月

図版・写真等



担当 (紹介) 部署

富山県農林水産部耕地課防災係

福井県 福井市 テクノポート福井ふれあい自然公園（仮称）整備事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区等

福井市川尻町・両橋屋町

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名 称	テクノポート福井ふれあい自然公園（仮称）
種 類	地区公園
規 模	約5 h a

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

本公園は、都市公園法により、地区住民の身近なレクリエーション施設としての「地区公園」として都市計画決定されている。一方、当該地は、海浜地特有の典型的な海洋性植物群落が見られ、また、多様な生態系が見られることから、地元、自然保護団体等から貴重な自然を保護するため、自然公園として整備するよう要望が相次いだ。

（目的）

テクノポート福井に立地する企業の生産能率が十分発揮されるよう、テクノポート福井で働く人々に憩いの場を提供するとともに、当該地は、砂浜植物群落等貴重な自然と生態系を有する土地であることから、公園を訪れた人々が自然観察をできるように、自然を活かし、環境に十分配慮した公園を整備する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、または計画施設等

計画施設：自然観察学習館1棟、観察舎3棟、観察池、観察デッキ・観察木道、散策路、植栽 等

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成14年度	用地測量、調査設計
平成15年度	工事着工（自然観察学習館、観察舎、観察池 他）
平成16年度	工事完成（観察デッキ・木道、駐車場、植栽 他）
平成17年度	福井市へ移管、供用開始

(事業)

活用事例に適用されている事業

--

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は、福井県企業局である。計画策定に当たり、環境省自然公園指導員、自然観察指導員の会、日本野鳥の会福井支部などの自然保護団体、地元等から意見聴取を行うとともに、移管先である福井市と協議を行っている。
--

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

当該地の特色である海洋性植物群落等貴重な自然と多様な生態系が見られるとともに、野鳥の飛来も多くバードウォッチングも楽しめるといった、自然を活かした公園整備という点で評価できる。 三里浜は、九頭竜川河口の西側に形成された、南北に細長い、全長約 12 km、幅約 1.5 km の小規模な海岸砂丘である。近年までは、海岸線沿いの防砂、防風林を中心に、マツ林を主とした林帯が形成され、聚落あるいは神社社叢の残存照葉樹林をあわせ、極めてすぐれた自然景観が構成されていた。 現在では、福井新港、臨海工業地帯の造設工事が急速に進展することによって、一部既存の林帯の保存は見られるが、企画された地域のほとんどにおいて、伐採、造成によって、植生の減退、破壊が進行し、近年来の砂丘地農業利用の進行ともあわせて、すっかり自然景観が変貌されるに到った。従って、海岸林を主とした基礎自然度も著しく低下した。 しかし、この三里浜砂丘川西地区に入る砂丘地では、現在なおマツ林及び海岸砂丘地植物群落が残存され、すぐれた植生帯とそれらによる相観が保持されている。
--

担当(紹介)部署

福井県企業局経営管理課

福井県 武生市 地域と連携した里地希少野生生物保全対策事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

武生市西部地域

緑地資源の概要

活用緑地資源の種類や規模等

名称	サンショウウオをはじめ、メダカやゲンゴロウ等の希少野生生物の生育・生息地
種類	里地里山自然環境
規模	武生市の面積 185k m ² (対象地区 約 3,624ha)

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

武生市西部地域にメダカ、ゲンゴロウ等の希少野生生物が多く生息・育成するのは、水路、溜池、水田が昔ながらの形態で維持され、里地里山の景観や自然環境が今も良好な状態で残されており、これらの生物の好適な生息環境となっているからである。このような農地は、整備が進んだ箇所と比較して作業効率が悪いため、このままでは耕作放棄や農地転用等が進み環境が変化することにより、希少野生生物の減少・絶滅が予想される。

(目的)

希少野生生物が多く生息している里地の景観や希少野生生物の生育生息環境を、地域の宝として将来にわたって維持していくためには、地域住民の誇りや環境意識を高めるとともに、素晴らしい自然環境や農林業等の「地域資源」を地域づくりに活かしていくことが必要である。そこで、希少野生生物と共生する里地里山の保全・活用を図るためのビジョンを策定する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

武生市西部地域を地域住民、専門家、関係団体、行政等が一体となって保全・活用していくための「人とメダカの元気な里地づくりビジョン」を策定する。なお、施設整備についてはビジョンの中に盛りこまれる可能性はあるが、今の状況では施設整備の計画は無い。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

ビジョンは平成 15～16 年度の 2 年間かけて策定する。

平成 15 年度は、計画策定のための調査・分析 地元住民、専門家、関係団体、行政等で構成する検討会を開催し、武生市西部地域の保全・活用を推進するための方針および具体的方法について検討する。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

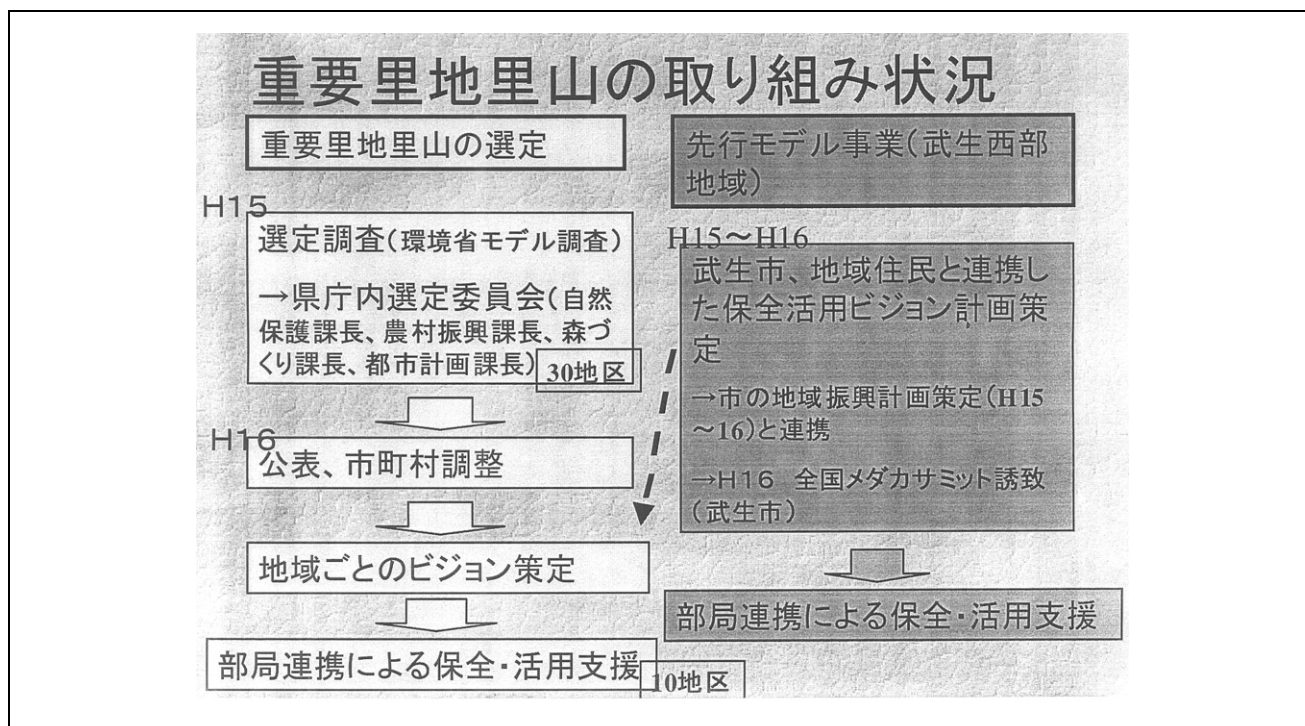
ビジョンの策定は県であるが、本地域の保全・活用は、市町村および地元住民が一体となって取り組むことが必要であり、連携して取り組んでいくことになる。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

ビジョンを策定するに当たり、地元調査を実施しているが、この調査については、地元住民が「ヨソ者」とともに見つけるという「地元学」の手法を用いる。この手法を取ることで、地域住民の環境意識高揚を図るとともに、住民自らの意見を積極的にビジョン策定に反映できることになり、評価できると考えている。

図版・写真等



担当(紹介)部署

福井県福祉環境部自然保護課

山口県 豊田町 ほたる飛び交うきらら川づくり調査事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村等

豊田町殿敷地区

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	国道435号道路改良工事
種類	橋梁架替工事に伴う河川護岸復旧工事
規模	河岸部クヌギ等植栽約30本、低水路部ユキヤナギ約100株

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

国道435号道路改良工事に伴う橋梁架替工事を施工するにあたって、地元から木屋川のゲンジボタルの生息に配慮した工法を採用するよう要望があった。

(目的)

ゲンジボタルに配慮した工法として、河川護岸に植栽工を採用したが、この植栽工がゲンジボタルの生息にどの程度の影響があるか追跡調査する。また、この調査結果を基に植栽工がゲンジボタルの生息へ与える有効性を検証し、併せて県内の他河川への適用の可能性を探る。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

河岸部クヌギ等植栽約30本、低水路部ユキヤナギ約100株

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

ほたる飛び交うきらら川づくり調査事業の事業期間は、平成13年度～平成15年度。
平成16年度以降も引き続き調査研究を行っていく。

(事業)

活用事例に適用されている事業

(関係主体)

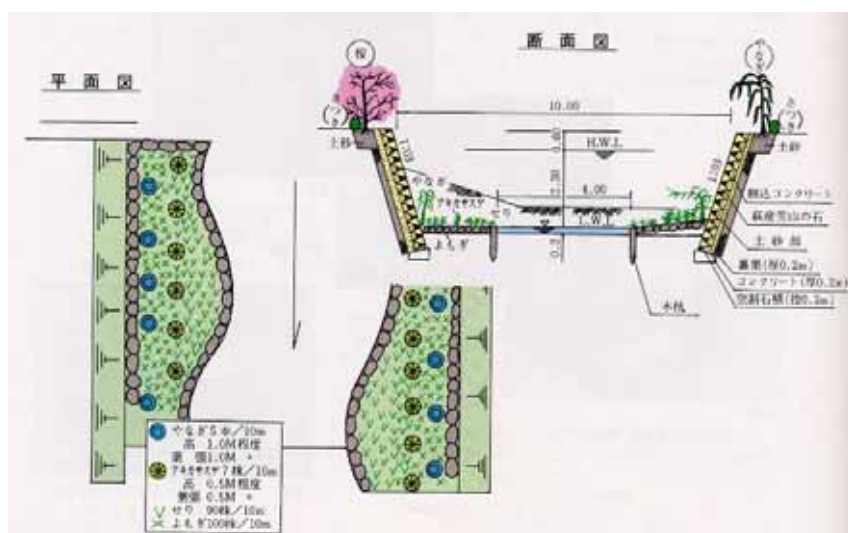
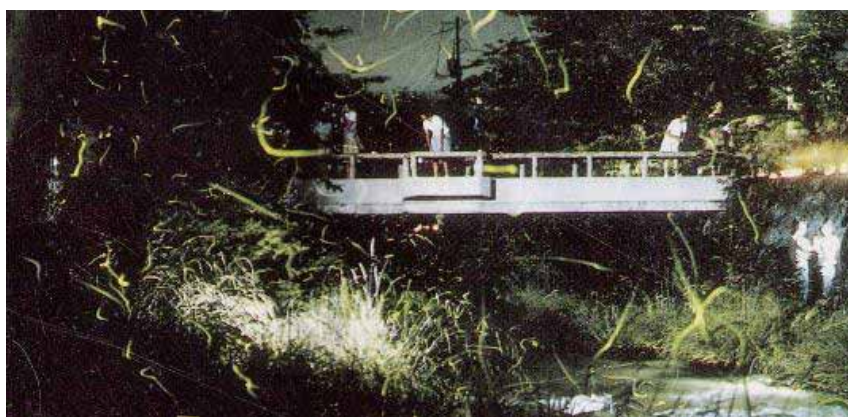
計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
事業主体は山口県。調査手法、調査結果のとりまとめにあたっては、河川課が事務局となって組織しているホタルプロジェクト会議で議論することとしている。ホタルプロジェクトは、山口大学助教授や豊田町のホタル研究委員会、山口ホタルの会、豊田町職員、山口市職員、県の他部局の職員から構成される。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

学識者や民間のホタルの専門家、市町村、県の環境部局等から構成されるホタルプロジェクトにより調査研究事業を進めていく手法は、評価すべき点である。

図版・写真等



<http://www3.japanriver.or.jp/~yamaguchi/hotaru.html>

担当(紹介)部署

山口県土木建築部河川課 担当者 末岡光樹 電話 083-933-3779

秋田県 五城目町 環境と文化のむら

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における

地区名等

五城目町

緑地資源の概要

活用緑地資源の、種類や規模等

名称	秋田県環境と文化のむら
種類	里山
規模	5.4 ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

国の環境基本計画においては、里山をはじめとする二次的自然環境については、多様な生物の生息・生育空間、自然とのふれあいの場、都市域の緑地などとして様々な機能をもっていることから、稀薄化した人と自然との関係の再構築という観点に立った保全の取組を推進することとされている。

また、全国各地の里山では、現に、様々なかたちで自然保護・ふれあい活動がなされており、この実態を踏まえた取組が必要である。

(目的)

昔から薪や柴を採ったり、炭焼き、山菜採りなど様々な形で人間によって利用されてきた里山という身近な自然環境を保全しながら、自然とのふれあいを通して自然教育の場、人間と自然とのかかわりを学習する場として整備する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

既存施設

・鳥獣保護舎

環境と文化のむら整備事業（環境省補助事業 国1/3、県2/3）

・整備期間 平成5年4月～平成7年3月

・施設概要

自然ふれあいセンター（研修ホール、工作室、ボランティアルーム）：自然のしくみ、人と自然との関わりを体験させながら指導できる職員を配置し、施設内の里山をフィールドに使った定期的な自然観察会や工作教室を開催。

文化の館：古代からの自然と人とのつながりや生活の様子を展示品、映像で紹介。中山遺跡、岩野山古墳等里山の文化を紹介。

自然ふれあい施設：ドンダリの森、キツキの森、愛鳥広場、昆虫広場、体験の里（林間キャンプ場、

冒険広場等)

愛鳥山荘：ふるさとの鳥を科学することを展示テーマとし、野鳥について学び、フィールドでの活動に役立てることをねらいとしている。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

鳥獣保護センター：野生鳥獣の保護及び野生復帰施設として活用

環境と文化のむら：県民一般を対象とした月1回の定期自然観察会・工作教室実施。その他不定期での自然観察会も実施。

平成14年度実績：定期観察会 308人、定期外観察会 111組 1,593人

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

実施主体：秋田県・秋田県環境と文化のむら協会

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

「環境と文化のむら」の里山を利用して、小中学校の総合学習や、一般向けの自然観察会などに活用され、また、四季を通して自然観察会を実施しており、幼児からお年寄りまで幅広い年齢層が気軽に自然とふれあえる施設として利用されている点が、特徴である。

図版・写真等



環境と文化のむらホームページ <http://www.kankyoubunka.jp/>

担当(紹介)部署

秋田県生活環境文化部自然保護課

山形県 鮭川村 エコパーク

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

鮭川村

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	鮭川村エコパーク
種類	自然環境の保護と活用
規模	約30ヘクタール

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

平成5年3月に策定された「最上エコポリス構想」の一環として整備が進められ、「人と自然にやさしい定住環境の整備を目指す」ことを基本理念とした。

(目的)

鮭川村エコパークは、本村、大久保沢地区の緑豊かな森林資源と優れた景観を活かして、最上エコポリス構想に基づく“人と自然との共生”を基調として整備された滞在型自然公園です。憩いの場として、文化の発信基地として、地域間交流の場として、そして自然を通じた子供たちへの教育の場として活用されています。

当施設は「自然」「健康」「文化」「交流」の4つのゾーニングでそれぞれ体験できる施設であり、県内外より年間5万人以上もの交流人口を生み出し、地域振興に大きな活力を与えています。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

中山間地域総合整備事業

ため池(堤長 L = 121m)、集落道(L = 936m)、木の子の森センター(A = 989 m²)、農村公園(A = 0.6ha)、鮭の子公園(A = 0.9ha)

まちづくり特別対策事業

準幹線道路(L = 975m)、散策トレールロード(L = 2,400m、東屋1棟、休憩所1棟、見晴台1棟)、マウンテンバイクコース(L = 540m)、オートキャンプ場(A = 0.7 ha 22区画 サニタリー1棟 炊事場1棟)、スロープガーデン(A = 0.9ha キッズアスレチック 炊事場1棟 親水路L = 178m)、きつつきコテージ(A = 59.08 m² × 5棟 A = 59.62 m² × 2棟)、木の子館(A = 362 m²)、鮭の子館(A = 365 m²)

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

開業は平成 11 年 7 月であり、本年 7 月に開園 5 周年を迎える。平成 15 年までに実施した事業
オートキャンプ場オープン記念もちつき大会・流しそうめん大会・きのこまつり・ピザ焼き・バームク
ーヘン焼き体験・炭焼き体験・そば打ち体験・きのこ学講座・スノーシューハイキング・イグルーつく
り

(事業)

活用事例に適用されている事業

- ・ 児童による学びの森体験 ・ 観光ボランティアによる森林整備
- ・ 松くい虫防除対策事業 ・ 青少年を主体とする体験プログラム事業の受け入れ

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は、鮭川村であるが、山形県からは事業採択及び活用推進についても支援を賜っている。
また、村商工会及び村観光ボランティア団体からは、各種イベント推進及び自然環境保護の観点より
協力を得て、近年その輪は確実に進展しています。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

年間 5 万人もの交流人口を産み出し、地域振興とさらなるイメージアップを育み、加えてこの施設を
中核として、ボランティア団体のネットワーク化が進んでいる点は注目できる。また、新庄・最上の中
心都市・新庄市より極めて近距離の滞在型自然公園として、リピーターも確実に増加しており、今後よ
り一層のサービスの充実が求められていくものと考えられる。

図版・写真等



担当(紹介)部署

山形県鮭川村総務課企画交流室交流推進係

山形県 朝日村中山間地域等直接支払制度 西大鳥集落協定

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

山形県東田川郡朝日村大鳥地区（松ヶ崎集落、寿岡集落）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	朝日村大鳥・松ヶ崎・寿岡地域一体となった「タキタロウ村」構想
種類	地域及び地域集落
規模	朝日村大鳥・松ヶ崎・寿岡地域一体（荒沢ダム上流）

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

・過疎化、高齢化に伴う担い手の減少及び地域の沈滞化。

（目的）

地域一丸となった地域づくり、地域の「よさ」を再確認し、地域の活性化に向けた取り組みを行う、大鳥の地域資源を活かし、地域はもとより村内外との交流を図る、地域資源を活用した様々な事業の展開、地域振興の大きな柱として「タキタロウ村」を構築する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

「タキタロウ村」の誕生（松ヶ崎集落、寿岡集落及び朝日村内外の希望者）：平成14年10月20日
組織：村長、助役、収入役、事務局、事業係、施設管理運営係、会計係、理事、タキタロウ村民

「タキタロウ村」運営における概略

- ・タキタロウ村民を村内外より募集し、村民制とする。タキタロウ村民には「村民証」を配布。
- ・村民税として、年間一家族500円。
- ・タキタロウ村の本拠地を大鳥新興企業組合隣に設置。
- ・各事業への参加は希望性で、実費を徴収し実施する。

取組状況

- ・年次的にそれぞれのゾーンを整備する。（農地の有効的活用を検討）

栗拾いゾーン、自然探索ゾーン、魚釣りゾーン、川遊びゾーン、ワラビ園、ナメコ園、栽培活動ゾーン、山菜販売、

- ・「蛍の里」づくりをめざして、水路の泥上げ等の管理
- ・ウサギや七面鳥を飼育し、生き物とふれあう機会の提供

村民になると料金(100円)を支払って自由に施設を使うことができる。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成 15 年 4 月現在、113 名が村民 (大鳥地区 24 名、地区外朝日村内 15 名、朝日村外 74 名) で、他市町村より問い合わせがあり、タキタロウ村民が大幅に増える可能性がある。

タキタロウ村民のアイデアを取り入れていく

春の山菜祭り、秋の芋煮会祭り、冬祭り

・今後ジュンサイの栽培、エビフナの養殖を計画

(事業)

活用事例への適用事業

中山間地域等直接支払制度

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO 組織、業界団体、民間事業者の関わり

中山間地域等直接支払制度により締結した西大鳥集落協定が主体となり、活動を実施。

(また、本制度の事業主体は市町村である)

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

マンガ釣りキチ三平にも紹介されたタキタロウ池こと大鳥池の下流に位置し、また荒沢ダムを横目に細長い隧道を二つ潜り抜け更に上流をめざすとその大鳥地域があり、秘境 (郷) と言ってもよい。

その集落で自主的に地域の今後のあり方について議論し、「自然環境を活かしたづくり」を打ち出し「タキタロウ村」という全く新しい「村民制」を発案し、実際に活動していることが評価できる。

村長、助役などは不慣れなところはあるが、地域を守っていく熱意が見られる。

図版・写真等



担当 (紹介) 部署

山形県農林水産部農政企画課

山形県 山形ニュータウン中核エリア整備事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

山形市

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	ミュージアムパーク
種類	公園（河畔林、自然林（雑木林）を含む）
規模	約19ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景） 近年、自然とのふれあいや文化・学習活動へのニーズの高まりを背景に、市街地に近接した身近な里山空間の利活用や保全の場、地域の歴史・文化とのふれあいの場、野外における様々な参加・交流の場の創出が求められている。このようなことから、山形市から上山市にかけての丘陵地約300haに整備を進めている山形ニュータウン「蔵王みはらしの丘」の中核エリアに、広域的公園機能、文化空間機能、交流空間機能を備えた拠点的なフィールドを整備する。

（目的） 県民に対し、地域資源の保全・利活用を通じた文化・学習活動の場、参加・交流の場を提供するとともに、山形ニュータウンの中心地区としての核形成の場、山形ニュータウンの自然環境を保全・活用する場としていく。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

県民参加により長い時間をかけ創り育てていく公園（県民参加型の公園）とするため、規模の大きい施設は計画していない。（計画施設）ビジターセンター、休憩所、トイレ、広場、園路 等

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成16～19年度で、最小限の面的な整備を実施していく計画。また、並行して公園づくりワークショップ等を実施し、県民等の参加のきっかけづくりを行うとともに、将来の運営・管理等に係る活動組織の立ち上げをサポートしていく。

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

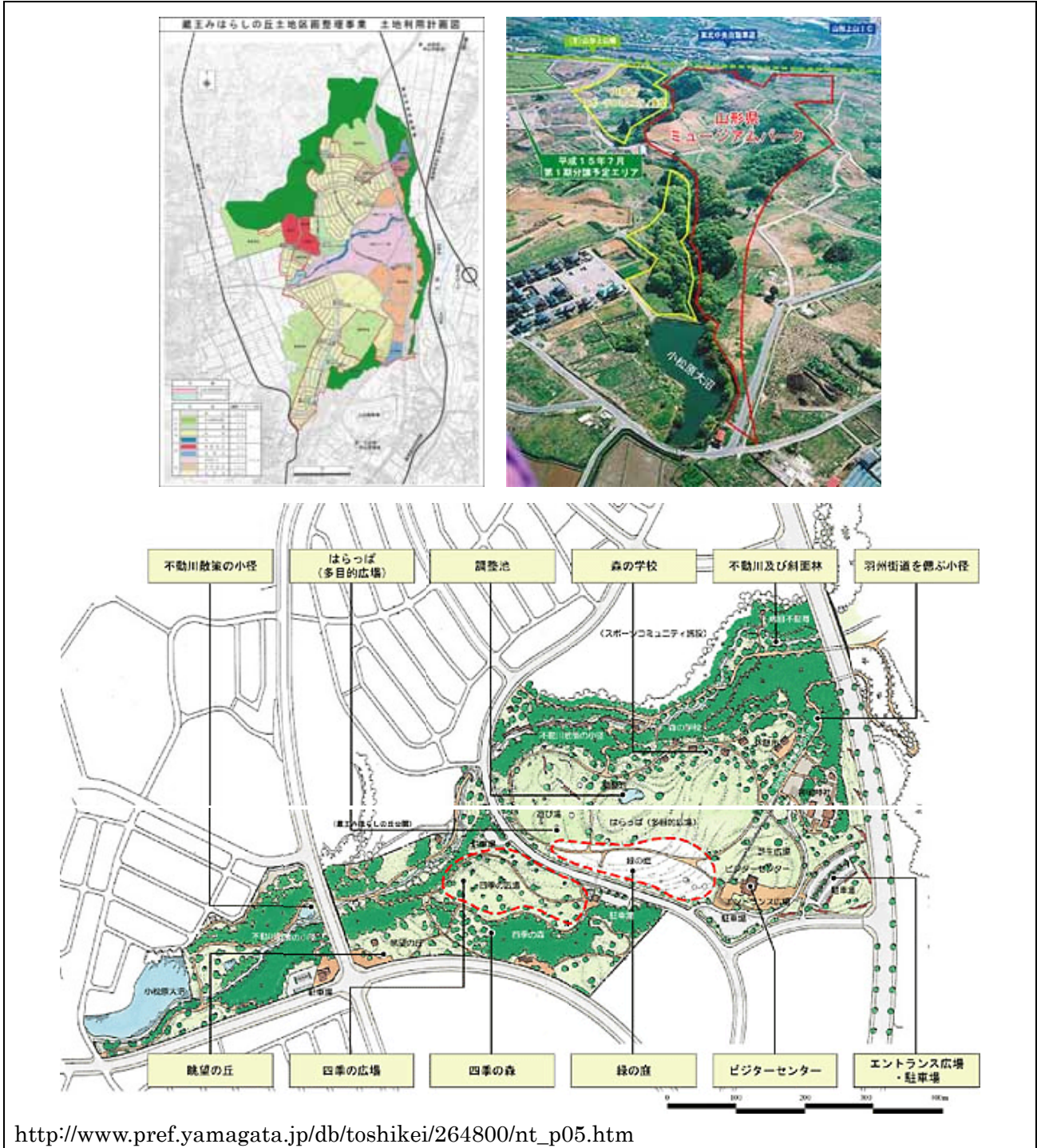
将来的には、NPOや県民ボランティア等が主体となって運営管理を行うことを目指しており、今後、整備と並行して、地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者等への参加を呼びかけていく。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

造られた公園ではなく、みんなで創り育てていく公園であること、対象となっている公園が県営の総合公園規模の公園であるという点では、他事例としてそれほど多くないものと思われる。

図版・写真等



担当(紹介)部署

山形県土木部都市計画課

富山県 婦中町 自然博物館ねいの里 ビオトープ事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

婦中町（自然博物館ねいの里）ほか

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	自然博物館ねいの里
種類	県民公園（自然公園）、鳥獣保護区
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）
 近年の都市化の進展などに伴い、身近な自然や生き物とのふれあう機会が少なくなっている。このため、地域の自然環境に十分配慮した各種開発行為の実施を推進するなど、より積極的に生き物のすみ環境の保全と創造を図り、生物の多様性を確保する。

（目的）
 自然博物館の放置された里山の再生に取り組むほか、森林地域と水辺地域のビオトープを整備し、県内のビオトープづくりのモデルとするとともに、ビオトープネットワークの拠点とする。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成8年度 「ふるさと生き物環境づくり（ビオトープマニュアル）」の作成
 平成9年度 「 ” ” 」の印刷製本
 平成10年度 ビオトープ庁内推進会議の設立
 平成11年度 ビオトープアドバイザーの委嘱
 平成12年度 自然博物館ねいの里で、「メダカと鉄魚の池」を整備
 平成13年度 学校ビオトープづくりモデル技術集作成
 ミニビオトープ「サンショウウオの託児所」の整備
 平成14年度 森のビオトープづくり（自然博物館ねいの里）
 平成15年度 水辺のビオトープづくり（自然博物館ねいの里、いこいの村）

平成16年度 森と水辺のビオトープづくり(自然博物館ねいの里、いこいの村)

(事業)

活用事例に適用されている事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は自然博物館ねいの里。

県民の手によるビオトープづくりを進めている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

身近な自然の保全や生き物とのふれあいの場を求める県民の関心の高まりに対応し、県民の手でビオトープづくりが進められている。

図版・写真等

担当(紹介)部署

富山県生活環境部自然保護課

富山県 朝日町 自然体験学校 やまびこの郷 夢創塾

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

朝日町蛭谷地内

緑地資源の概要

活用緑地資源の概要。緑地資源の名称、種類や規模等

名称	里山での炭焼き等
種類	里山
規模	20a

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

【地域の概要】 朝日町は、富山県の東端、新潟県と長野県に接し、町東南部には標高3,000m級の北アルプス、北側は日本海に面している自然が豊かな町で、山間地の集落はかつては炭焼きや和紙の里として栄え、日本では珍しい後発酵茶である「パタバタ茶」などの伝統文化が伝わっている。

【活動の経緯】 主宰者の長崎さんは、この町の山間地の小さな集落で、公務員として在職中の平成6年から「山仲間と夢を語り合う場所が欲しい」と独力で杉の間伐材で手作りの丸太小屋『夢創塾』の建設に取りかかった。最初は周囲には冷笑する人もいたが、「自分が楽しむために作るものに、周りがどう感じようが関係ない」と意に返さず取り組んだ。しばらくすると小屋のもの珍しさや興味を持った集落の人達が集まるようになり、平成8年に地元住民達と地域活性化を図る「やまびこの郷」グループを結成した。

結成後、白炭窯や休憩小屋、里山の生活技術を伝承する「匠の小屋」を建設したことにより、さらに地区の人や子供達、近隣の知人が集まり、山村の生業の技に話題が弾む「地域コミュニティの広場」と発展した。

その後、炭窯や紙すき小屋、露天風呂、イワナ、アイガモの養殖池、山羊小屋などを訪れる人達の協力を得て建設し、今年平成10年から幼稚園児や小中学生の力も借りて取り組んだ合掌小屋が完成し、雨天時でも野外活動ができるようになった。

【活動のテーマ】 夢創塾では、里山の豊かな自然の中で炭焼きや和紙、土器、小屋などの昔ながらの「もの作り」やキャンプ、木登り、山歩きなどの自然体験、山村の伝統的食文化が体験できる。指導者は、塾員と地元のお年寄りボランティアで行っており、訪問者とともに人が自然と共にあった頃の暮らしを楽しむほか、持続して生活できた里山の循環システムを伝承している。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

手作り施設

間伐材等を利用した体験山小屋6棟(内炭焼き窯2棟)木登りゾーン、和紙材料栽培畑等

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

原体験をテーマに、炭焼きや和紙づくりなどのもの作り等、身近な里山を利用して人が自然と共にあった頃の本物の暮らしを子ども達と体感している。

今後も、炭焼き、山小屋づくり体験等「もの作り」ね 食文化の伝承、山村技の伝承等「技の伝承」、山歩き・木登り・川遊び等の「自然体験」、アイガモや山羊、アジサイ、コウゾ栽培体験等の「動植物」をテーマに緑一杯の地域の里山・棚田を活用して、子ども達や地域の人と共に楽しみながら活動を展開していくこととしている。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

夢創塾の活動支援母体は全員が地域のボランティアで、地域のグループ等と連携を取りながら活動の輪を広げている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

緑豊かな里山にある「夢創塾」では、子ども達の五感を呼び起こす体験と相まって、地域の伝統文化が見事に甦り、地域の活性化が図られている。

図版・写真等



担当(紹介)部署

富山県農村環境課 朝日町農林水産課

富山県 自然解説員（ナチュラリスト）活動業務

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

立山町、婦中町、砺波市の1市2町

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

種類	立山（室堂、弥陀ヶ原、称名）、自然博物館ねいの里、頼成の森等 自然公園等
----	--------------------------------------

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

ナチュラリスト制度が発足した昭和40年代後半は、社会経済の高度経済成長に伴う公害問題が表面化し、開発による影響を及ぼすようになってきた。そのため、規制だけではなく、自然保護教育を併せて行う必要が生じてきている。

（目的）

この活動は自然公園等の利用者に対し自然への理解と愛情を深めることを目的とし次の業務を行う。
自然理解を深めるための解説 自然環境保全に関する知識の普及、思想の高揚

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

昭和49年から開始。平成14年度までに540名を富山県自然解説員に認定。平成15年度は、立山（室堂）地区、立山（弥陀ヶ原）地区、自然博物館ねいの里、有峰地区、称名地区及び頼成の森に、延べ829名を配置した。平成16年度は、立山（室堂）地区、立山（弥陀ヶ原）地区、自然博物館ねいの里、称名地区及び頼成の森に、延べ876名を配置予定。

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
事業主体は富山県。自然解説員活動業務には、ナチュラリストの協力が不可欠である。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

富山県ナチュラリスト制度は、昭和49年に、地方自治体として全国で最初に制度化され、認定者数、延活動人員数も全国最多である。

担当（紹介）部署

富山県生活環境部自然保護課

富山県 ナチュラリスト協会主催による自然観察会

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

立山町、黒部市、魚津市（平成14年度実施箇所）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

種類	県内自然公園等
----	---------

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

昭和49年から開始された富山県ナチュラリスト制度により認定を受けた者が中心となり、昭和51年に富山県ナチュラリスト研究会が発足、平成4年に富山県ナチュラリスト協会に改組発足した。

（目的）

会員のナチュラリストとしての資質の向上並びに自然環境の保全及び自然保護思想の啓蒙普及を図る事を目的とし、以下の事業を行う。

- ・自然環境の保全と自然保護思想の普及啓蒙のための調査研究と発表
- ・自然観察会や講演会等の自然保護思想の普及活動
- ・県内外及び海外の関係団体との交流及び情報交換

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成15年度 主催事業

- ・ネイチャーウォーク 「里山を歩く」(魚津市)
- ・全国一斉自然観察会(立山町)
- ・ネイチャーウォーク 「里山を歩く」(砺波市)
- ・秋の自然観察会(入善町)
- ・冬の雪上自然観察会(立山町)

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

昭和51年に富山県ナチュラリスト研究会として発足以来、県のナチュラリスト活動事業に参加し、また、独自に自然保護思想の啓蒙を行っている。

担当（紹介）部署

富山県生活環境部自然保護課

富山県 特定非営利活動法人 富山県自然保護協会主催による自然観察会

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

富山市、大山町、細入村、立山町、宇奈月町（平成15年度実績）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

種類	自然公園等
----	-------

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（目的）

富山県下の自然を調査研究してその景観上の価値を鮮明にし、かつ県土の自然的環境及び生物社会の保全、自然資源の保存等広く自然保護に努めるとともに、これに関する県民の認識を深め、県勢の発展に寄与することを目的とする。

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成15年度

- ・自然に親しむ緑の日の集い（富山市呉羽山）
- ・自然観察会（細入村笹津山、大山町有峰、立山町八郎坂、宇奈月町黒雑温泉）

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

立山のかげがえのない自然を守ろうということで昭和37年に発足し、立山での道路方線の変更、マイカーの乗り入れ禁止、ルート沿線の工事跡地の現地産植生による緑化復元の推進、環境教育のリーダーとしてのナチュラルリストの養成、その他県下の主要な自然環境の調査、野外自然教室等を計画的に進めてきている。

担当（紹介）部署

富山県生活環境部自然保護課

京都府 宮津市 地球デザインスクール

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

京都府宮津市波見地区（府立丹後海と星の見える丘公園（仮称）予定地内）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	府立丹後海と星の見える丘公園（仮称）
種類	都市公園
規模	約 142㍓

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

府立丹後海と星の見える丘公園（仮称）、通称丹後エコパークにおいては、平成9年度からの工事着手に併せ、府民参加型による公園整備と府民とのネットワークづくりを目指し地球デザインスクールを開設している。

（目的）

地球デザインスクールは、環境との共生が重視されていく時代にあって、豊かな自然環境に恵まれた丹後半島の特性を最大限に生かしながら、学生や社会人が丹後において地球とともに生きる自然を学び、地球環境と共生する生産技術を習得する場として活動する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・ 木造小学校(廃校)を改装した20名宿泊可能な学習拠点を整備。
- ・ 今後の計画として、公園予定地内に地球デザインスクールの活動拠点となる宿泊機能を備えたセミナーハウス、尾根筋を生かした展望、周遊施設群として「風の砦、大地の天文台」、子供を伴う家族が遊べる施設群として「こども自然の森」、散策・自然観察が楽しめる「共生の森」の整備を予定。

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成17年度末一部供用開始目処

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体＝京都府。事業実施は、スクール活動参加者が中心になって平成14年に設立されたNPO地球デザインスクールが環境関連企業等とネットワークを組みながら行う。（平成16年度から：予定）

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

丹後海と星の見える丘公園（仮称）では、自然との共生、府民参加による手づくり、ソフト重視といった新しい視点で、他の公園にない魅力的な公園づくりを目指している。

この地において全国に先駆けて地球デザインスクールという体験型のソフト事業を先行させたことにより、府民参加や手づくりという新しい手法による公園整備の考え方が生まれ、環境への関心を高め、日常生活での行動に結びつけられる人材の育成が図られている。

このことから、本公園は、丹後半島の特性を最大限に生かして、四季折々の豊かな自然を単に見せるのではなく、自然の中で楽しみながら体験や環境学習の機会の提供をあわせて行い、自然と調和した持続可能な未来社会づくりのモデルとなることを目指している。

図版・写真等



<http://www.e-ds.jp/>

担当（紹介）部署

京都府企画環境部企画総務課

兵庫県 美方町 里山林の整備活用（おじろの森）

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

美方町大谷地区

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	里山林
種類	森林公園整備
規模	33ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

遊歩道と林相整備、簡易施設等を設置し、美方町の観光の中心であるスキー場、ゴンドラリフト、温泉保養館との連結を図り、冬だけでなくその他のシーズンの観光客の集客を図るとともに、地元住民の健康増進も図る。

（目的）

環境教育、健康増進等の利活用を目的に、特に利用が期待できる里山林において、森林を整備するとともに間伐材などを利用した簡易な施設を配置し、高齢者や子供が気軽にふれあえる森林の整備を推進する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

平成15年度下記の整備を実施した。

- ・歩道整備（歩道開設、階段工）
 - ・ベンチ、標識、案内板、解説板の設置
- ・林相整備、本数調整伐

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・つちのこ探検隊
- ・自然教室、自然学習、山菜ハイク（尼崎市立美方高原自然の家等）

（事業）

活用事例に適用されている事業

里山林再生事業：県民の自然とのふれあいや環境教育の場として、また、生物の多様性の確保など生

態学的な視点からも里山林の重要性が再認識されるようになってきたことから、環境機能に加えレクリエーション、アメニティ、景観、人と自然の共生、教育など文化機能にも配慮した森づくりを進める。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
事業主体は兵庫県である。事業の実施はひょうご緑公社が委託を受けて実施。

事業に先立ち森林所有者と町長、また、事業実施後町長、公社理事長、知事の間で20年間の協定書を締結し、町及び森林所有者が協力して整備地の適正な維持管理を行う。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

図版・写真等



担当(紹介)部署

兵庫県但馬県民局地域振興部豊岡農林振興事務所

兵庫県 日高町 里山林の整備活用（上郷・植村直己里山林）

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

日高町上郷地区

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	里山林
種類	森林公園
規模	32ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

世界的な冒険家植村直己の生誕地であり、周辺には植村直己ふるさと公園などが整備されている。また、但馬ではここにしかない希少なトンボや、希少な植物であるミズトラノオが自生しているが周辺の里山の利用が進んでいない。

（目的）

気軽に散策できる里山林を整備し、自然とのふれあいや子供の環境教育、高齢者の健康増進を目指す。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

平成14年度下記の整備を実施した。

- ・歩道整備（歩道開設、木道、転落防止柵）
 - ・観察デッキ、ベンチ、標識、案内板、解説板の設置
- ・林相整備、本数調整伐

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・地元地区主催のほたるまつり
- ・管理道、遊歩道等の草刈り作業
- ・コープこうべ日高の会と日高町マロニエの会との交流会

（事業）

活用事例に適用されている事業

快適の森整備事業

広く県民が森林との関わりを实践・実感することを通じて里山の再生を図り、里山の持つ環境機能に加

え、レクリエーション、アメニティ、景観、人と自然の共生、教育といった文化機能を重視した森づくりを進める。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
事業主体は兵庫県である。事業の実施はひょうご緑公社が委託を受けて実施。

事業に先立ち森林所有者と町長、また、事業実施後町長、公社理事長、知事の間で20年間の協定書を締結し、町及び森林所有者が協力して整備地の適正な維持管理を行う。

特徴

他事例にはないと考えられる特徴、評価できる点等

図版・写真等



担当(紹介)部署

兵庫県但馬県民局地域振興部豊岡農林振興事務所

富山県 立山黒部アルペンルート

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

富山県立山町～長野県大町市

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	中部山岳国立公園
種類	山岳地帯
規模	千寿ヶ原（立山駅）～扇沢（長野県） 約40km

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景・目的）

3,000mを超える北アルプス立山連峰や世界にも比類のないV字溪谷の黒部峡谷が広がる立山・黒部地域は、長く秘境と呼ばれてきたが、電源開発を目的に建設された黒部ダムが昭和38年に完成し、一方、山岳信仰や本格登山の立山も山岳観光地として開発され、昭和46年に、立山の直下をトンネルで貫き、黒部ダムを結んだ山岳観光ルートとして立山黒部アルペンルートが開通。今では、年間百万人が訪れる世界的な山岳観光地となっている。

また、全国に先駆けてルート内へのマイカー乗入れを禁止し、国内唯一のトロリーバスを導入。自然環境への影響を押さえるなど、環境保全面でも先進的な山岳観光ルートとなっている。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

交通手段：ケーブルカー、高原バス、トロリーバス、ロープウェイ

活用状況

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

運輸事業主体は、主に立山開発鉄道(株)及び立山黒部観光(株)。

ルートの除雪や国立公園内の環境美化、周辺の動植物情報の提供などの事業として、県、道路公社、民間事業者が関わっている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

年間100万人を超える観光客が訪れる本県を代表する観光地となっており、本県の観光振興に大いに貢献している。

図版・写真等



観光ナビゲーター（富山県のホームページからアクセス可能）

<http://www.kanko.toyamaken.jp/>

担当（紹介）部署

富山県商工労働部観光課

富山県 中部北陸自然歩道の整備

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

群馬県、新潟県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、滋賀県及び富山県（7市16町6村）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	中部北陸自然歩道
種類	自然環境、公共公益施設
規模	総延長 4,029 km 県内分 412 km（一日コース：30コース）

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

県民（国民）の健康及び福祉を増進するため、健全な心身の育成の場を確保する。

（目的）

国土を縦断、横断または循環する自然歩道で、四季を通じて手軽に、楽しく、安全にすぐれた風景地等を歩くことによって、沿線の豊かな自然や歴史、文化にふれあうとともに、国民の健全な心身を育成するとともに、自然保護思想の高揚に資する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

次の施設が整備されている。

歩道、公衆トイレ、路傍休憩所

コース案内標識、利用マップ

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

整備期間：平成7年度～平成12年度

（事業）

活用事例に適用されている事業

長距離自然歩道整備事業

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

整備主体：富山県


管理主体：関係市町村（管理委託）

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等


気軽に楽しめる歩くコースとして、30コースが有機的に整備されたことにより、利用者から、県内の自然や歴史、文化が再認識されている。

図版・写真等




富山県内の自然歩道ネットワーク

コース番号	コース名	起点	終点
1	雄山と七重滝をめぐるみち	朝日町宮崎	朝日町横尾
2	舟長・愛本・旧北陸道を歩くみち	入善町舟長	宇奈月町下立
3	新川牧場から富山湾を望むみち	宇奈月町富山	富山市山田
4	松島古城をめぐるみち	魚津市大谷	海川市長輪
5	兼重寺町と川口の台地水を訪ねるみち	奥川市兼輪	上志摩郡日
6	大野山田石舟と武家の湯を訪ねるみち	上志摩郡日	立山町白石
7	長中瀬戸とアレンパークを結ぶみち	立山町白石	立山町宮崎




富山県内の自然歩道ネットワーク

コース番号	コース名	起点	終点
8	立山山麓あむすの平を歩くみち	大野町あむすの平	大野町小長
9	赤前山と麓の谷を訪ねるみち	大野町東風沢	能入村住津
10	神通峡と雲龍山を訪ねるみち	能入村住津	八尾町新行
11	大黒山と猿丸土手を訪ねるみち	八尾町新行	八尾町布谷
12	越中八尾がわらの町を訪ねるみち	八尾町布谷	八尾町上野
13	千景と水とんぼを訪ねるみち	八尾町上野	山田町富
14	ぬいとの里と古跡の池を訪ねるみち	越中町吉住	山田町富



富山県内の自然歩道ネットワーク

コース番号	コース名	起点	終点
24	眞玉山を訪ねるみち	横光町才代	横光町法林寺
25	光徳寺と安徳の館を訪ねるみち	横光町法林寺	小次郎町安養寺
26	雲龍山を訪ねるみち	小次郎町石敷	小次郎町石敷
27	雲龍山を訪ねるみち	小次郎町石敷	横光町小野
28	ふくおか集落旅行村を訪ねるみち	横光町小野	横光町五位
29	二上山万葉の歴史を訪ねるみち	富山市二上山内	富山市城山(二上山)
30	朝日山と光久寺を訪ねるみち	氷見市真尾	氷見市真尾



富山県内の自然歩道ネットワーク

コース番号	コース名	起点	終点
15	太閤山ランドへのみち	山田町富	越前市法隆寺
16	越前市を訪ねるみち	越前市正徳寺	越前市東谷
17	水鏡公園と夢の平を訪ねるみち	越前市東谷	井波町東谷
18	八乙女山と赤野山を訪ねるみち	井波町東谷	越前町東谷
19	つばね森林公園と真が谷を訪ねるみち	越前町東谷	越前町林道
20	神前平をしのぶ石敷のみち	越前町林道	平村上野
21	山の神を訪ねるみち	平村上野	利根村岡田
22	そばの郷と合掌文化村を訪ねるみち	利根村岡田	利根村中村
23	越前合掌集落を訪ねるみち	平村上野	上平村東谷

http://www.pref.toyama.jp/sections/1709/shizenhodo.htm

担当(紹介)部署

富山県生活環境部自然保護課

富山県 大品山自然歩道の整備

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

大山町本宮

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	大品山
種類	山
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

県民の健康及び福祉を増進するため、健全な観光レクリエーションの場を確保する。

(目的)

恵まれた自然環境を活用し、主として家族旅行者を対象とした野外レクリエーション施設を整備する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

次の施設が整備されている。

展望台

ベンチ

便所

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・自然歩道補修工事
- ・鍬崎山登山会の開催
- ・雪上ハイクの開催

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

県が整備。立山山麓レクリエーション開発(株)に管理委託。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

4人乗りゴンドラを通年運行する立山山麓スキー場など立山山麓周辺観光施設と連携した利用、イベントの開催。

図版・写真等



担当（紹介）部署

富山県生活環境部自然保護課

青森県 森田村 生活環境保全林整備事業(森田地区)

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

青森県西津軽郡森田村

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	つがる地球村
種類	森林(保安林)
規模	事業対象区域 A = 8 . 1 3 h a

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

つがる地球村は宿泊・研修施設やスポーツ施設、オートキャンプ場といった文化・レクリエーションなど多様な活動に対応可能な施設が整備されている。今後、村では地球村の自然資源の充実に力を入れていく方針で、郷土の自然を実感・体験できる空間づくりとして「水辺の里」事業を導入し、自然とのふれあいを求める地域住民の期待に応えるべく、地球村周辺の森林整備による豊かな生態系の再生は重要な課題となっている。

(目的)

このような背景や計画地の持つ特徴を受けて、当該事業においては、計画地の保健休養機能の向上を目指し、特に「身近な自然の再生・復元」を行うことで生態系が豊かになるとともに、「人と森林とのふれあいの場」として、将来にわたって保全・利用がなされていく森林となるよう、各種整備を行うものである。

具体的な保健休養機能の向上としては、地域住民にとって利用しやすい森林の造成や、地域の風土が感じられる親しみやすい森林景観の育成を図り、より多くの人が利用できるバリアフリー型の森林空間の整備を行うものである。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

森林整備

- ・自然林造成(植栽工) A = 6 . 6 9 h a
- ・自然林改良(植栽工) A = 0 . 5 7 h a
- ・管理車道 L = 1 6 0 . 0 m
- ・管理歩道 L = 1 , 0 3 6 . 0 m
- ・案内標識類 1 式
- ・作業施設(休憩所) 1 棟

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・事業期間は平成14年度から平成16年度(3カ年)
- ・平成15年度までに各種施設の実施設設計及び施設整備
- ・平成16年度には各種施設整備の実施

(事業)

活用事例に適用されている事業

他事業の実施状況

- ・都市公園整備事業(国土交通省補助事業)「オートキャンプ場整備」
- ・環境保全施設整備事業(環境省補助事業)「自然学習公園整備及び水辺の里整備」

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

- ・事業主体は県であるが、事業完了後の維持管理は森田村が行う。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

- ・総合レクリエーション公園と森林公園が一体となった整備を行うことで、利用者の保健休養機能の向上が図られる。

図版・写真等



担当(紹介)部署

青森県林政課

富山県 大山町 立山山麓家族旅行村の整備

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

大山町本宮字花切割

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	立山山麓家族旅行村
種類	レクリエーション施設
規模	19ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

県民の健康及び福祉を増進するため、健全な観光レクリエーションの場を確保する。

(目的)

恵まれた自然環境を活用し主として家族旅行者を対象とした野外レクリエーション施設を整備する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

次の施設が整備されている。

広場

キャンプ場

オートキャンプサイト

ケビン

多目的ハウス

パークゴルフコース

シャワー棟

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・炊事棟の建替え。
- ・立山山麓地域の他施設と連携した各種イベントの実施。

(事業)

活用事例に適用されている事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
県が整備。立山山麓レクリエーション開発㈱に管理委託。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

図版・写真等



<http://www.kazokumura.co.jp/>

担当(紹介)部署

富山県生活環境部自然保護課

富山県 福岡町 とやま・ふくおか家族旅行村の整備

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

福岡町五位

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	とやま・ふくおか家族旅行村
種類	レクリエーション施設
規模	80ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

県民の健康及び福祉を増進するため、健全な観光レクリエーションの場を確保する。

(目的)

恵まれた自然環境を活用し主として家族旅行者を対象とした野外レクリエーション施設を整備する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

次の施設が整備されている。

芝生広場、カリヨン展望塔、森林学習展示館、ケビン、プレイランド、スケート場、キャンプ場、スケート場、薬草・薬樹園、ファミリーゴルフ場、バーベキュー、宿泊施設、温泉、ゲートボール場

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

親子ふれあいハイキング、親子バーベキュー大会、焼き芋・餅つき大会、長靴アイスホッケー大会


(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
県、福岡町が整備。(財)とやま・ふくおか家族旅行村公社に管理委託。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

図版・写真等



The map shows a park area with a dam on the left and a lake at the bottom. 19 numbered points are marked: 1 (picnic site), 2 (picnic site), 3 (picnic site), 4 (picnic site), 5 (picnic site), 6 (picnic site), 7 (playland), 8 (playland), 9 (playland), 10 (playland), 11 (playland), 12 (playland), 13 (playland), 14 (playland), 15 (picnic site), 16 (picnic site), 17 (picnic site), 18 (picnic site), 19 (picnic site).

- ロッジ山ぼうし
- 管理棟
- プレイランド
 - アイススケート(冬)
 - ローラースケート(春～秋)
 - ちびっ子多目的広場
- 森林学習展示館
- ファミリーゴルフ
- 自転車障害物コース
- 五位キャンプ場
- カリヨンの塔
- 休憩棟
- ピクニカル広場
(バーベキュー場)
- ピクニック緑地
- ケビン
- せせらぎの小川
- かえる池
- ゲートボール場
- 自転車周遊コース
 - ダム湖畔コース 5.0km
- ダム湖

<http://www.town.fukuoka.toyama.jp/>

担当(紹介)部署

富山県生活環境部自然保護課

富山県 砺波市 県民公園頼成の森の整備

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

砺波市頼成

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	県民公園頼成の森
種類	森林公園
規模	110ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

富山県置県百年を記念し、県民の健康と福祉の増進に寄与するため、県民のすべてが利用できる総合的なレクリエーションの場を確保する。

(目的)

県民に森林を生かした休養の場を提供する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

次の施設が整備されている。

樹木園地、遊歩道、水生植物園、芝生広場、フィールドアスレチック、バーベキュー広場、森林科学館

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・水生植物園の土壌改良(平成14～17年度)
- ・花しょうぶ祭り開催支援。
- ・ナチュラリストによる自然解説。
- ・森林科学館での月例行事(野鳥観察会など)の実施。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

- ・県設置。(財)花と緑の銀行に管理委託。
- ・頼成の森花しょうぶ祭り実行委員会が、毎年、「頼成の森花しょうぶ祭り」を実施している。(平成15年度 第18回 会期6月20日～29日 入場者59,000人)

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

- ・全国森林浴の森百選の一つである。
- ・全国有数の規模を誇る花しょうぶ(580品種、70万株)

図版・写真等



担当(紹介)部署

富山県生活環境部自然保護課

富山県 上平村 桂湖野外活動施設の整備

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

上平村桂

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	桂園地
種類	自然公園
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

桂湖は白山国立公園内に位置し、水と緑に恵まれた優れた自然環境を有する。

(目的)

県民の健康及び福祉の増進に寄与するため、自然とのふれあいを体験できる野外レクリエーションの場を県民に提供する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

次の施設が整備されている。

ビジターセンター、オートキャンプ場、漕艇場、コテージ、休憩所、芝生広場

活用状況

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
県、上平村が設置。(株)上平観光開発に管理委託。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

- ・2,000メートル級の漕艇場
- ・カヌーの貸し出し。



<http://www.vill.kamitaira.toyama.jp/>

担当（紹介）部署

富山県生活環境部自然保護課

富山県 滑川市 東福寺野公園整備事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

滑川市東福寺野

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	滑川市東福寺野辺地
種類	公園
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

交通、経済等、条件不利地である滑川市東福寺野辺地は、少子高齢化等様々な問題を抱えている。

(目的)

当公園は昭和 52 年に開園し、開園当時は盛況を博していたものの、施設の老朽化や時代の潮流にあわなくなってきたことから、公園のリニューアル化を図り、豊かな自然景観との調和を図りながら来園者の利用しやすい施設整備を行い、地域の活性化を図る。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・ 宿泊施設
- ・ 園路、植栽、広場、防護柵、駐車場
- ・ 給水工事
- ・ 電気工事
- ・ 遊具施設
- ・ トイレ整備

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

H13～H17年度事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

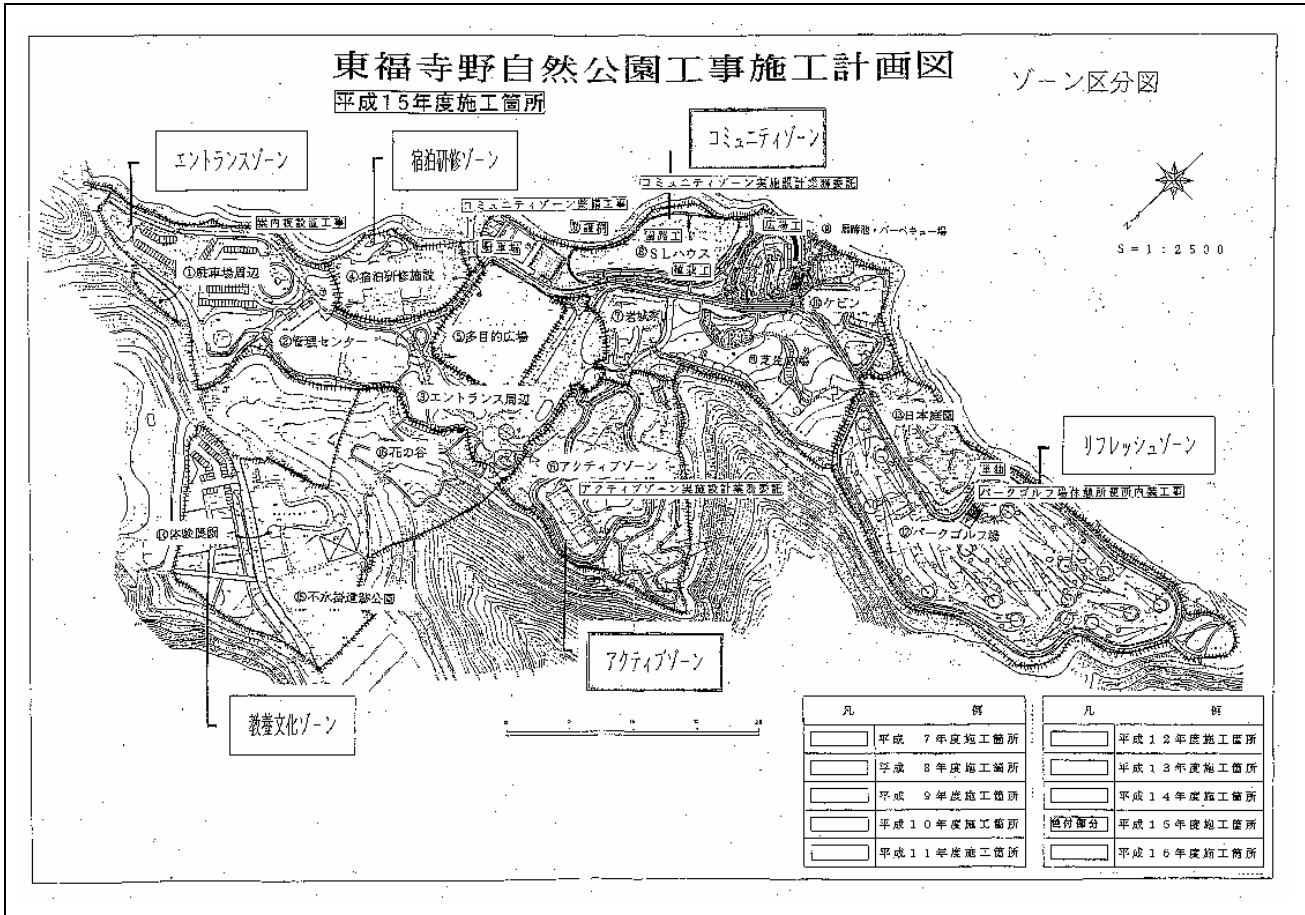
滑川市

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

・特色ある公園整備を図るとともに、様々な年齢層・目的の来園者が期待される。

図版・写真等



担当（紹介）部署

富山県市町村課

石川県 山中町 石川県県民の森（森林公園）

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

山中町

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	石川県県民の森
種類	森林公園
規模	面積 808ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

石川県政100周年記念事業の一環として、昭和49年7月に設置される。

（目的）

県民が森林の持つ優れた自然環境との接触を通じ、健康でおいしいのある生活が出来るよう設置される。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

遊歩道、バーベキュー舎、ログハウス、ケビン、バンガロー、テントサイト、森林浴センター（軽食等）、茅葺きの民家（民具展示等）、自然の溪流（幼児・小学生が安全に遊ぶことが出来る） 外

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・主に県内から年間約3万人が訪れている。
- ・自然資源を活用した体験イベントを年間約5回程度実施している。

（事業）

活用事例に適用されている事業

生活環境保全林整備事業、林業構造改善事業、森の学園整備事業 他

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は施設整備については県、体験イベントについては（財）石川県林業公社等。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

主に県内の家族連れ等を中心に利用されており、自然の中で気軽に親しめる憩いの場を、県民に提供している。

図版・写真等



担当（紹介）部署

石川県農林水産部中山間地域対策総室

石川県 輪島市 石川県健康の森

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

輪島市

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	石川県健康の森
種類	森林公園
規模	面積 5 9 4 h a

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

能登地区における保健休養林施設として、平成 6 年 1 1 月に設置される。

(目的)

県民が森林の持つ優れた自然環境との接触を通じ、健康でうまいのある生活が出来るよう設置される。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

芝生広場、遊歩道、各種山野草、バーベキュー舎、ログハウス、バンガロー、オートサイト、総合交流センター（各種体験施設、グリーン・ツーリズム情報発信施設等）、ハウスあすなろ（紙漉き体験、炭焼き体験）ソフトボール場 外

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・能登地区を始め、県内外から年間約 3 万 5 千人が訪れている。
- ・自然資源を活用した体験イベントを年間約 3 0 回程度実施している。
- ・当該施設より車で 5 分のところに、平成 1 5 年 7 月に能登空港が開港したことから、今後都会からの入り込みを増加していきたい。

(事業)

活用事例に適用されている事業

林道事業、造林事業、山村振興等農林漁業特別対策事業等

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
事業主体は施設整備については県、体験イベントについては主に健康の森振興会。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

県内を始めとして関西方面の家族連れや能登地区の保育園、小中学校等を中心に利用されており、能登地区において、自然の中で気軽に親しめる憩いの場を提供している。

図版・写真等



担当(紹介)部署

石川県農林水産部中山間地域対策総室

石川県 河内村・鳥越村 白山ろくテーマパーク

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

石川県石川郡河内村吉岡、吉野谷村吉野、鳥越村河合・下野、上野・釜清水

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	都市公園（広域公園）
種類	地域の自然・文化資源の活用
規模	約128.2ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

白山ろくテーマパークは、総合保養地整備法（リゾート法）における「南加賀・白山麓総合保養地整備構想」（H2年度）の承認と平行して、白山及び山麓地域の固有資源の保全活用方策を図るため、山麓における地域活性化拠点公園の構想・計画（H4年度）の策定を行い、広域公園として位置付けた。

（目的）

地域性豊かな白山麓のポテンシャルを活かし、近年の週休2日制の定着や学校週休2日制に伴う自然体験及び環境学習関心の高まり等、余暇指向の多様化に応えるため、観光・レクリエーションにおいて多目的利用が可能な公園整備を行い、山麓の活性化に資する施設として活用を行うこととしている。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

計画決定区域 約128.2haのうち4拠点地区において事業認可受けた約33.67haを整備し、平成15年10月に吉岡地区で一部を供用している。

吉岡地区	整備面積 A=8.3ha(4.6ha 供用)、公園センター、多目的広場、藤棚、花木園、大型休憩舎他
吉野地区	整備面積（オートキャンプ場）A=9.7ha、管理棟、サンタリー(炊事所、トイレ施設)、キャンプサイト、芝生広場、吊り橋他
河合・下野地区	整備面積 A=13.2ha、野外学習棟、自然体験園、野外体験広場、ビオトープ他
上野・釜清水地区	整備面積 A=2.5ha、多目的広場、アスレチック広場、駐車場

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

「白山ろく、花、雪、人」を地域の整備テーマとし、各拠点地区のうち整備順度の整った順に着手している。平成5年度から事業着手にした吉岡地区は平成16年度の完成供用。吉野谷地区は、9年度から

着手し、一部供用の後 21 年度に完成。河合・下野地区他は 15 年度着手で 24 年度完成を予定している。

(事業)

活用事例に適用されている事業

都市公園整備事業(国土交通省・県)

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

地域の活性化と施設の有効活用を図るため、地元村や民間団体と連携し、各種の集いやイベント活動のPRに努め発展的に観光・交流事業の定着化を図る予定。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

白山ろくテーマパークは、白山ろくの豊かな自然資源や歴史・文化資源などの恵まれた地域資源を保全し、さらにそれらと調和した地域の活性化を図るため、金沢小松都市圏と白山の自然をつなぐ地域一帯の基盤施設として位置づけられている。

図版・写真等



全体計画図



吉岡地区・開設区域図



ロックガーデン



修景池

石川県営都市公園探索マップ <http://www.pref.ishikawa.jp/kouen/map/park/hakusanroku/index.html>

担当(紹介)部署

石川県土木部公園緑地課

福井県 今立町・武生市・鯖江市 三里山自然と文化の公園整備事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

今立町・武生市・鯖江市

緑地資源の概要

名称	
種類	山地および山村集落
規模	三里山は、今立町・武生市・鯖江市に隣接した周囲約 12 k m、高低差約 300mのなだらかな独立山である。

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

--

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

三里山自然公園の整備（遊歩道（L=2,500m）、休養施設、展望台等）

展望台整備

花筐公園整備（広場工、休憩施設、便所等）

歴史の道シンボルロード（L=180m）

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は、平成 14 年度から 17 年度

16 年度は、遊歩道（L=600m）、便所等を整備予定

17 年度は、花筐公園広場工、遊歩道（L=1,300m）、展望台、休憩施設等を整備予定

（事業）

活用事例に適用されている事業

--

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は、今立町である。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

町の中心部に位置する三里山には、「薄墨桜」や「花筐公園」など数々の観光資源が存在しており、それらを有機的に結びつける散策コースの整備や広場の整備を行うことにより、観光客の利便と観光資源の魅力の向上につながる点が評価できる。

図版・写真等



担当（紹介）部署

福井県産業労働部観光振興課

鳥取県 鳥取市 森林公園「とっとり出会いの森」整備

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

鳥取市桂見 293

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	森林公園「とっとり出会いの森」
種類	森林公園
規模	77ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

平成10年、鳥取県で開催された第22回全国育樹祭の式典会場となった「とっとり出会いの森」を、式典後に整備し、平成11年4月に開園。

(目的)

四季折々の豊かな自然の中で、森林と気軽にふれあい、森林の大切さを感じてもらう。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

出会いのゾーン	センター施設、出会いの広場、環日本海交流の森
思い出の森ゾーン	育樹記念の森、
学びのゾーン	二十世紀梨の故郷 女性の森
遊びの森ゾーン	水遊びの広場、かくれんぼの広場、緑の大すり鉢、
創作の森ゾーン	みんなの森、ドングリ広場、鳥たちの森

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

整備期間は平成5～10年。

平成11年開園後、幼稚園から高等学校の遠足、高齢者福祉施設のデイサービス等、森林ボランティア団体等の活動の場等、各種団体のイベント会場として幅広い内容、年齢層に利用されてきた。

平成15年には、より森林を楽しみ、理解を深めてもらうため、小学生親子を対象とした「出会いの森」森林探検隊(木工クラフト、きのこ鑑定会、探鳥会等)を開催した。

平成16年度から、来園者の多い休日に実施する自然観察会等の企画、運営等をNPO等ボランティア団体に委託し、来園者サービスを充実させる。

(事業)

活用事例に適用されている事業

とっとり出会いの森管理運営費

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

鳥取県・鳥取市。森林公園とっとり出会いの森は「鳥取県立とっとり出会いの森」と「鳥取市出会いの森公園」からなっている。ほか、出会いの森地内に「とっとり女性の森グループ」が整備、管理している「女性の森」と、「広葉樹文化協会」が整備、管理している「四季の森」があり、それぞれのグループの活動拠点となっている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

市街地から車で約15分と、気軽に訪れることが出来き、多くの方に森林に親んでもらう森林公園としては、最高の立地条件と考える。

図版・写真等



担当（紹介）部署

鳥取県農林水産部林政課

新潟県 安塚町 雪を資源とするまちづくり

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

新潟県東頸城郡安塚町

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	雪の宅配便、雪活用イベント、雪のリゾート開発、雪冷熱エネルギー活用
種類	雪
規模	安塚町面積 70.23平方キロメートル

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

安塚町は、役場付近で最大積雪深が2メートル程度、豪雪時には4メートルを超える全国有数の豪雪地である。宿命である雪の生活や産業にかかる重荷は、人口減・高齢化が進む当町にとって、過疎の元凶といわれ、何より住民の地域への誇り、自信を奪ってきた。

一方で、「耕して天に至る」と言われる棚田の天水田農業を支えてきたのは、「雪」がもたらす水資源であり、古くから人々は雪と調和して暮らしてきた。怖いのは「人口減」の過疎よりも「心の過疎」であるという危機感が「雪の活用による地域活性化」をめざした要因である。

(目的)

まず、住民が雪と仲よくしようというイベントの開催に始まり(遊雪)イメージアップのために「雪の宅配便」をスタート(CI)。この時点から今まで「消す」ことしか考えなかった雪を「保存する」必要が生まれ、保存した雪の冷熱利用につながった(雪冷熱エネルギー)。

重荷でしかなかった雪が、実は非常に豊富な自然資源であるという価値観の逆転、マイナスをプラスに転化することが、安塚のまちづくりの大きな目的になっている。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

ハード整備については、「雪冷房導入施設」がすでに8箇所整備されている。

雪だるま物産館・雪室そば家「小さな空」:雪室は別棟、共有。そば・野菜・酒などの貯蔵庫を持つ。

雪のまちみらい館:建物本体に雪室施設を組み込んで建設。

ほのぼの荘・やすらぎ荘:廃校となった校舎を福祉施設に活用。雪室は別棟、共有。太陽熱給湯システムを併設。

安塚小学校:体育館部分に雪室を増設。給食室とランチルームに冷房を供給。

安塚中学校:体育館部分に雪室を増設。全教室に冷房供給。太陽光発電施設も併設。

JA米貯蔵施設:米専用の雪温貯蔵庫。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は、昭和 61 年度からの継続。平成 15 年度までの実施項目は以下のとおり
昭和 61 年度「雪の宅配便」スタート。全国で初の雪そのものを商品化
昭和 61 年度「サヨウナラ後楽園球場スノーフェスティバル」。ダンプ 450 台分の雪を運んで。
平成 2 年度 初のスノーリゾート「キューピットバレイ」オープン
平成 4 年度 雪だるま物産館雪室
平成 8 年度 雪のまちみらい館
平成 11 年度 ほのぼの荘・やすらぎ荘雪室
平成 13 年度 安塚小学校雪室
平成 15 年度 安塚中学校雪室 JA 米貯蔵施設
(今後の展開)
各施設への「雪」追加供給用拠点整備、一般住宅への普及、夏の遊雪施設整備

(事業)

活用事例に適用されている事業

(主なもの)

個性と活力に満ちた雪国創造事業(国土庁) 豊かで快適な雪国づくり推進事業(新潟県)
農林県単総合振興事業(新潟県) 地域新エネルギー導入促進事業(NEDO)

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

安塚町は、雪そのものをはじめ雪国の生活・産業・文化の研究、実践組織として、財団法人雪だるま財団を平成 2 年に設立。特に雪のエネルギー活用分野では、国内で最先端の情報と実績、ネットワークを駆使し、同時に地域密着の強さをシンクタンクとして発揮している。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

克雪から雪と雪国のイメージアップのための「遊雪」事業、そして雪の産業利用の実現まで「雪国自身が考え、行動すること」の実践を重ねてきた。特に、雪だるま財団というシンクタンクを設立し、他の雪国自治体とのネットワークの形成を積極的に展開。太陽光、風力などのエネルギーとは同等に扱われなかった雪エネルギーを平成 14 年によろやく「新エネルギー」として位置付けることができた要因には、この雪国ネットワークの存在が大きく寄与している。

図版・写真等



安塚町ホームページ <http://www.yukidaruma.or.jp/>

担当（紹介）部署

安塚町役場 ふれあい交流課

山形県 最上地方 「巨木の里最上」づくり

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村を総称して最上地域

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	最上の巨樹、巨木
種類	杉、松、カツラなど樹種一般
規模	1,803k m ² (最上地域全域)

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

次の少子化、農業、企業誘致、雪などの問題により人口の減少が続き、最上地域全域で過疎化が進展している。また、交流人口を増やす手段としての観光資源も乏しい地域である。

- ・全国的な傾向である少子化が最上地域においても進展している。
- ・農業経営を取り巻く環境の厳しさから後継者が少なくなって地域外に職をもとめ流失している。
- ・企業誘致が進まず、地元での働く場が少ないため地域外に流失している。
- ・最上地域は豪雪地帯であり、高齢化などから地域外に人が流出している。

(目的)

人口が減少している中で、最上地域を活性化させるためには、交流人口を拡大する必要に迫られている。交流人口を拡大する手段の中でもっとも有効と考えられているのが観光振興であり、雇用の拡大、地元食材の消費による農業振興など様々な分野への経済的波及効果が期待されている。

そのため、観光振興を図る上で、最近相次いで発見されている巨樹・巨木を観光資源の核として利用することが必要である。最上地域は「最上エコポリス構想」を策定しており人間と自然との共生を理念としており、最上の自然の豊かさの象徴である巨木を利用することはこれに合致しており、最上地域特有の観光資源として期待されている。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

自然との共生の上に巨木を利用した観光振興が成り立っているため、巨木周辺への施設整備や遊歩道の整備などは必要最小限にとどめている。

自然保全型整備 女甌のブナ二次林の中に避難小屋(整備済) エコトイレを整備(一部整備済)

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は、平成13年度～で複数の事業を展開している。平成15年度までに、以下の事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none">・巨木シンポジウム・巨木を語ろう全国フォーラム・巨木の森コンサート・巨木観察バス「巨木の森号」運行・巨木案内ガイド養成講座	平成16年度には以下の事業を予定 <ul style="list-style-type: none">・巨木の森コンサート・巨木案内標柱整備・巨木案内ガイド養成講座・巨木観察バス「巨木の森号」運行・巨木を巡る定額観光タクシーの運行支援
--	---

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

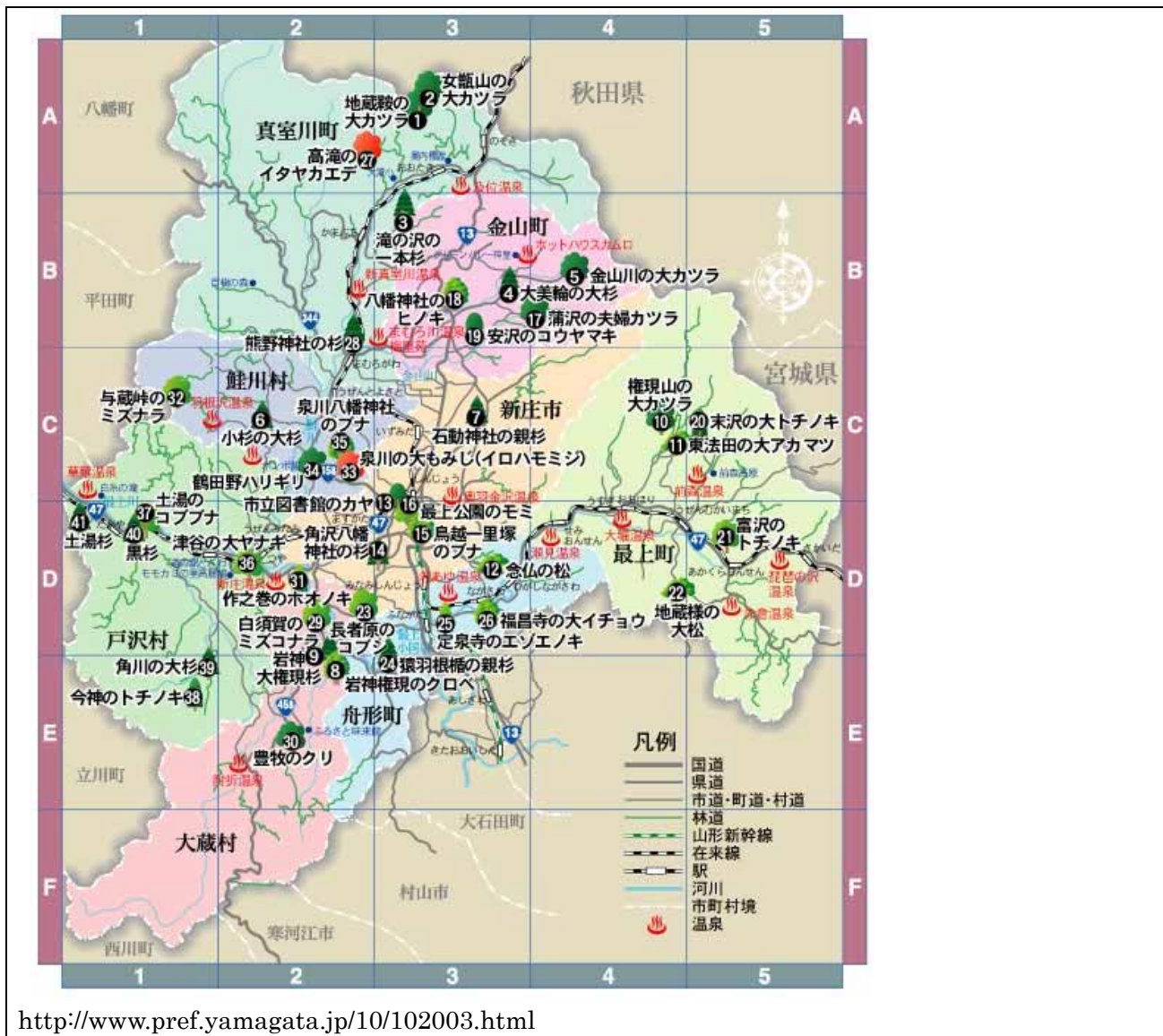
- ・最上地域観光協議会は広域的な観光の核となる団体で、巨木観察バスの運行企画などを行っている。
- ・もがみ地域ボランティアガイド協議会は管内のガイド団体からなる協議会で、今後巨木を中心とした観光ガイドを展開する予定。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

- ・巨木は一部地域に偏らず、最上地域全域に点在する観光資源であることから、最上地域が一つになって取り組める観光素材である。
- ・巨木を利用した広域的な観光振興は、人間と自然との共生を理念にする最上エコポリス構想の理念に合致しており、この地域の発展の方向を示すものである。
- ・巨木とクラシック音楽との組み合わせが新鮮であり、観客の評価も高く継続を望む声が多数ある。

図版・写真等



1	地蔵鞍の大カツラ	15	鳥越一里塚のブナ	29	白須賀のミズコナラ
2	女甕山の大カツラ	16	最上公園のモミ	30	豊牧のクリ
3	滝の沢の一本杉	17	蒲沢の夫婦カツラ	31	作之巻のホオノキ
4	大美輪の大杉	18	八幡神社のヒノキ	32	与蔵峠のミズナラ
5	金山川の大カツラ	19	安沢のコウヤマキ	33	泉川の大もみじ(イロハモミジ)
6	小杉の大杉	20	末沢の大トチノキ	34	鶴田野のハリギリ
7	石動神社の親杉	21	富沢のトチノキ	35	泉川八幡神社のブナ
8	岩神権現のクロベ	22	地蔵様の大松	36	津谷の大ヤナギ
9	岩神大権現杉	23	長者原のコブシ	37	土湯のコブナ
10	権現山の大カツラ	24	猿羽根楯の親杉	38	今神のトチノキ
11	東法田の大アカマツ	25	定泉寺のエゾエノキ	39	角川の大杉
12	念仏の松	26	福昌寺の大イチョウ	40	山ノ内黒杉
13	市立図書館のカヤ	27	高滝のイタヤカエデ	41	土湯杉群生地
14	角沢八幡神社の杉	28	熊野神社の杉		

担当(紹介)部署

山形県最上総合支庁産業経済部商工労働観光室

山形県 やまがた花咲かネットワーク推進事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

山形県内

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	山形県民の花緑に関する高い意識、深い愛情、豊富な知識
種類	
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

平成 14 年度の都市緑化フェアは、入場者数 119 万人を数え、大成功であった。その成果としての緑化フェアの開催によって培われたの花と緑への意識の高まりを生かし、花や緑を取り入れた県民のゆとりある暮らしや自然豊かで美しい県土づくりを進め、更には、花卉産業、観光等を通じた地域の活性化につなげていく必要があると考えている。

新聞等においても、「一過性ではない本物の財産としていくため、街を花と緑で飾る運動の継続」を求める声が多く、県民が主役としての活動の場や情報交換の場が求められている。

(目的)

都市緑化フェアの効果として県民の緑化への高まりを継続し、一過性ではない緑花の推進、緑花運動の継続と地域産業活性化を図るため、緑花運動への支援や情報の収集・発信を行う。特に緑化に関心のある人の受け皿、集う場を提供することに主眼を置き、活動の主役は県民であることを基本とする。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

緑花による美しいまちづくりを行うボランティアについての活動する人々と活動する場の情報一元化
市町村の主催する花フェスタへの支援 : アフターフェアとして新庄市と寒河江市で行う花フェスタへの花苗等の支援。将来は花と緑の銀行の活動による花で支援

やまがた花咲かネットワーク(3本柱による緑花推進活動)

A. 緑の相談ネットワーク: インターネット上での県民からの緑の相談受付、回答。回答者は、フェアで活躍した人やガーデニングに詳しい県民。

B. オープンガーデンネットワーク: 素敵な庭を取材し、ホームページなどで紹介。また、将来は、オープンガーデンとして見学会等を開催予定。良い庭をより多くの人に見てもらい、県民の手で美しい山形を。

C. 花と緑の銀行: 都市公園、市町村、一般の県民が大事に育てている緑花の種や苗を出資。その種や苗をほしい人に配布し増やしてもらい、配布した種や苗以上に返してもらう。これを繰り返し、緑花を

街に増やすことを目的とする組織を育てる。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

H15新規事業として、優れた庭の取材、花の種採取や苗の育成、ホームページの作成などを行ってきた。H16年度は、H15年度の内容を拡充するとともに広報活動に力を入れ、花と緑のフリーマーケットの開催やポスターでの広報を予定している。

(事業)

活用事例に適用されている事業

花と緑の環境形成・活用

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

現在、財団法人 山形県総合運動都市公園公社が主体となって進めている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

行政側から押し付けるのではなく、県民が主役のソフト事業として、参加する人の意思により広まっていくための場を準備することを行政としての初期の役割と考えている。

図版・写真等



オープンガーデン



種子採取活動

<http://yamagata-sportspark.or.jp/hanasaka/>

担当(紹介)部署

山形県土木部都市計画課

新潟県 『にいがた「緑」の百年物語 木を植える県民運動』

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

新潟県全域

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	里山、海岸林などの森林や河川、公園、道路などのオープンスペースなど
種類	
規模	それぞれの資源に対して、緑の百年物語県民運動として様々な森づくりや緑化活動が行なわれている。

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

- ・20世紀、地球は人間活動のために汚染され、傷つき、また、人々の心も疲れ、すさんできた。
- ・緑は減少し、山村や森林も荒廃しつつある。また、地球温暖化など様々な環境問題が現れてきた。
- ・21世紀の新潟県のあるべき姿を考えると、長い間人類が守ってきた自然との共生をもう一度取り戻すことが重要である。
- ・21世紀には自然環境と調和した持続可能な社会の実現に向け、新たな行動が望まれている。

(目的)

- ・21世紀の百年をかけて、すべての地域で、すべての世代が協力して、木を植え緑を守り育て、いっそう豊かな緑あふれるふるさとづくりをおこい、22世紀へ「緑の遺産」を残すこととする。
- ・緑の遺産とは、
 - ・緑豊かな美しいふるさと
 - ・緑といのちをはぐくむ心
 - ・世代をこえた緑の絆 としている。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

緑の百年物語県民運動では、「今ある里山や海岸林などを対象とした森林整備活動」や「公園、河川、道路などを対象とした植樹活動」、更にこれらの活動を推進するための啓発活動など、緑を増やす又は、守り育てるあらゆる活動を対象にしている。

春・秋の緑の百年物語推進月間中のこれらの活動実績は、平成14年度には、全県で122件、参加者13,964人、植樹本数8,505本、平成15年度は、272件となっており、年々活動の輪が広がっている。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

緑の百年物語県民運動について、より多くの県民が関心を寄せ、参加できる仕組みとするため、分かりやすい事業の展開や取り組みを行なっていくこととしている。

運動の輪を広げるため、各種団体、専門家組織と強調・連携して各種の緑化事業を県内全域で進めること。

県民運動を呼び掛ける県が、リーディング事業(学校の森づくり、シンボルロードの整備等)を通じて運動の気運を高める。

県民運動の中心的役割を果たす、(社)にいがた緑の百年物語緑化推進委員会の人的、財政的基盤が不十分であるため、当分の間県が支援し、事業の拡充や運動の定着を図ること。

(事業)

活用事例に適用されている事業

新潟県：にいがた「緑」の百年物語県民運動事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

この県民運動の主役は、新潟県民であるが、県民の活動を支援し、運動の中心的な役割を担う組織として(社)にいがた緑の百年物語緑化推進委員会が組織されている。

本団体は、県民からの会費収入及び緑の募金などを原資にして運動の推進を図っている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

21世紀の100年という長いスパンの目標を持った県民運動は、他に例が無いと思われる。

図版・写真等

百年物語内容については、(社)にいがた緑の百年物語緑化推進委員会のホームページ

<http://www.midori100.com>

担当(紹介)部署

新潟県総合政策部企画課緑の百年物語推進班

富山県 さくらの名所づくり

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

富山市、高岡市、氷見市、魚津市、婦中町、小矢部市、立山町、宇奈月町、八尾町、小杉町、城端町、庄川町、新湊市、黒部市、砺波市、大沢野町、大山町、入善町、朝日町、山田村、大門町、井波町、井口村、福野町、福光町、福岡町等

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	富山のさくら普及啓発事業
種類	サクラ
規模	さくらの名所選定箇所を含むさくらづくりに取組む県下全域

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

緑化推進プランに基づいて、県民が主役となって花と緑に満ちあふれた快適な環境づくりがすすめられ、県内には数多くのさくらの園が造成されてきました。

一方、富山には元々サクラの基となる野生種が全種(9種)そろっているにもかかわらず、特に人々から人気の高い園芸品種を中心とした、県外産のサクラが数多く導入されたため、ソメイヨシノに偏った植栽がおこなわれてきた状況となっています。

「富山さくら整備基本方針」(平成14年度策定)に基づき、平成15年度にさくらの名所を選定し、サクラを保護育成するさくら守の養成を実施している。

(目的)

富山のさくらの特徴である観賞時期の長さ、種の豊富さ等をを活かしたさくらの普及をすすめ、富山の気候風土にあった苗づくりを行い、さくらの名所や、地域のさくらの保護育成を担うリーダー(さくら守)にその技術を伝承し、富山らしいさくらづくりを進める。

また、併せて、名所に選定した箇所について県民がより一層親しめるよう施設整備を行う。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

・富山さくらの名所選定箇所に、県民がより一層親しめるよう解説看板の設置、ライトアップ、アクセス道、駐車場、休憩施設などを平成16年度から整備することとしている。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

地域のさくらの保護育成を行うリーダーを平成17年度まで30名を養成することとしている。

富山の気候風土にあったさくらの苗づくりを行い平成19～20年に合計2,000本の苗木を配布すると共にさくら守などへ技術を普及する。
富山さくらの名所に選定した箇所について県民がより一層親しめるよう5カ年計画で施設整備を行うこととしている。

(事業)

活用事例に適用されている事業

さくら守の養成事業
さくらの苗づくり事業
富山さくらの名所整備事業

(関係主体)

さくら守の会(平成15年度に養成した12名)

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

・県内にはさくらの名所とされる箇所が数多く造成されてきたが、老木化、病害虫の発生、整枝剪定施肥など不十分な維持管理の状況にあり、サクラの保護育成に関する取り組みが今後の課題とされているが、地域にあったさくらづくりや、さくら守などによる保護育成活動が推進されるとともに、人材の育成、地域コミュニティの発展、住民と行政とのパートナーシップづくりなどにつながる。

図版・写真等



担当(紹介)部署

森林政策課 みどり企画係 仲田副主幹

兵庫県 但馬地域全県花いっぱいモデル助成事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

豊岡市、城崎町、香住町、日高町、出石町、但東町、村岡町、浜坂町、美方町、温泉町、八鹿町、養父町、関宮町、生野町、和田山町、山東町、朝来町

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	
種類	各地区の小規模緑地公園、沿道の緑地帯・法面、花壇 など
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

淡路花博を契機にその理念を継続し、全県で花を活かしたまちづくりを県民運動として推進するため、現在、県及び市町等で個別に実施されている各種支援事業や県内各地の活動団体との連携・強化を図ることにより、「全県花いっぱい運動」として展開し、美しい兵庫の実現を目指す。

(目的)

花と緑を愛し育てることを通じ、住民主体の魅力ある「花のあるまちづくり」を進め、花と緑の空間を点から線、さらに面へと広げていき、美しい風景、生活環境の形成を図る。

住民の自発的機運を醸成し、住民の参画と協働による主体的な取り組みを誘導する起爆剤とするため、「花いっぱいモデル助成事業」として選定したモデル箇所、積極的な花づくりを展開する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・ 国道、県道、町道等沿道
- ・ 花壇

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成14年度17箇所、平成15年度11箇所をモデル箇所として選定した。今後、平成18年まで毎年5箇所程度モデル箇所を選定する予定。

モデル助成事業としては平成18年度まで実施予定である。それ以後は、住民が主体となる花いっぱい運動が展開される。

(事業)

活用事例に適用されている事業

県単独事業(花いっぱいモデル助成事業)

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特、地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

契機づくりは県が行い、事業は花づくり団体、老人会、婦人会等住民の参画と協働により継続していく。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

モデル箇所で、積極的な花づくりを展開することにより、住民の自発的気運を醸成し、住民の参画と協働による主体的な取り組みを誘導するとともに、これを契機とした環境・景観に対する意識高揚を図ることができる。

図版・写真等



担当(紹介)部署

兵庫県但馬県民局県土整備部まちづくり担当

兵庫県 南但馬地域の花と緑による景観構想

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

養父郡八鹿町、養父町、大屋町、関宮町（養父市）及び朝来郡生野町、和田山町、山東町、朝来町

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	
種類	田園及び森林
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

郡域を単位とした町合併進む南但馬地域は、平成18年度には阪神・播磨地域と高速ネットワークで結ぶ北近畿豊岡自動車道の和田山までの開通、のじぎく兵庫国体のハンドボール等の地域内での開催、茶すり山古墳を核とした南但馬歴史・文化ミュージアム構想（仮称）の推進など地域づくりに大きなインパクトを与える催しやプロジェクトが計画されている。

こうした機会に、但馬の玄関口である南但馬の景観に着目して南但馬の活性化を図ることは、コウノトリの野生復帰に代表される環境の復元と合わせ但馬地域における重要な課題である。

（目的）

南但馬地域の豊かな地域資源を活用しつつ、交流人が「歩きたくなるような地域づくり」を目指し、地域が一体となって花と緑による魅力ある農山村の景観づくりを進め地域の活性化を図る。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

1 拠点施設（コア）

構想対象地区のうち南但馬地域に乗り入れる高速道路網の主要な起終点となるIC付近、休憩施設付近を拠点施設位置づけ、景観づくりにより南但馬地域に乗り入れる多くの人々を誘引することができる魅力溢れた地域として推進する。

北近畿豊岡自動車道山東PA・茶すり山古墳周辺 同和田山IC周辺 同八鹿IC
播但自動車道SAフレッシュあさご周辺

2 サテライト地区

各地域にある交流施設の周辺や環境づくりを進めている地域を「サテライト地区」に指定し交流人や地域の住民の心を引きつけるような景観づくりを進める

朝来郡：3カ所、養父郡：5カ所 設定

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

1	平成15年度	構想策定		
2	平成16年度	実践計画	景観モデル展示	コア・サテライトの周辺集落が計画策定
3	平成17～18年度	実践	実践集落	30地区(南但馬地区の10%)
4	平成19年度以降	拡大	森林・里山林整備・花木等永年生の景観創出	一村一景観づくり啓発 南但馬独自の景観創出を但馬全域へ

(事業)

活用事例に適用されている事業

県単独事業(一部国庫補助事業)

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

構想策定等の契機づくりを県・町主導で行うほかは、維持管理、その他について地域・集落組織が主体的役割を果たすよう仕掛けていく。

農村集落の組織

多様な年齢層の参画

地域内に存在する多様な主体の参画の基に合意形成を図り、持続的な協働を得る

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

自然環境・田園風景などの但馬らしさを全面に押しだし、地域の豊かな緑資源を活かした森林・里山・河川・田園が一体となった景観の創出を行う点は過去の手法とは異なる。

図版・写真等

担当(紹介)部署

兵庫県但馬県民局地域振興部和田山農林振興事務所

青森県 三厩村 増川川ふるさと砂防モデル事業（増川地区）

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

青森県東津軽郡三厩村大字増川

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	みんなやすらぎ公園
種類	溪流空間及び砂防指定地内
規模	A = 31,920 m ²

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

背後に海浜地が控え、前面に国道280号が通り、さらに国道の反対側には山地が間近に迫っているといった当地区に暮らす住民を土砂災害の危険から解放させるとともに、狭隘な地形ゆえに難しかった地域の集団活動に資するための整備が必要である。

（目的）

狭隘な居住地に近接した溪流空間において、周辺山間部の景観との調和を図りながら、土砂災害防止施設と地域交流施設を一体的に整備し、もって地域社会の安全で快適な生活基盤づくり推進するとともに、地域住民等が水に親しむことができる環境を整備する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

1. 保全施設整備

堤防工、植石法枠工、親水護岸工、砂防施設工、流路工、管理橋

2. 資源活用型整備

多目的（芝生）広場工、園路、砂防環境広場工（避難小屋）、休憩所、遊戯広場工、利用施設（四阿、ベンチ、遊具等）

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は、平成2年度～平成12年度である。

- ・流域住民、小中学生のアンケート調査
- ・各種施設の実施設計及び施設整備

(事業)

活用事例に適用されている事業

増川川ふるさとの砂防モデル事業(平成2年度～平成5年度)
増川川地方特定河川等環境整備事業(平成4年度～平成12年度)

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
流域住民、地元小中学生

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

河道空間及び砂防指定地内の整備面積が県内他地区に比較して大きい。
土砂災害防止施設と周辺山間部の景観と調和がとれている。
小学生の自然体験学習等その他イベントが開催されている。

図版・写真等



担当(紹介)部署

青森県県土整備部河川砂防課
青森県青森県土整備事務所

富山県 朝日町 ハーブ公園 ハーバルバレーおがわ

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

朝日町

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	ハーブ公園 ハーバルバレー小川
種類	河川
規模	2.4ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

朝日小川ダム建設にあわせ整備したもの

(目的)

ダム周辺の遊歩道、パークとあわせ、周遊機能を持ったリラクゼーション施設である。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

ラベンダー等のハーブ5万株

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

毎年6月にハーブによるリース作りを行っている。

(事業)

活用事例に適用されている事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

朝日町

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

北アルプスに抱かれた大きな自然とのふれあいのなかで、ハーブとゆっくり楽しめる場である

図版・写真等



朝日町 <http://www.town.asahi.toyama.jp/>

ハーブ園 <http://www.town.asahi.toyama.jp/site/box/harben.html>

担当（紹介）部署

朝日町建設課

石川県 鳥越村 溪流再生事業・うるおい空間整備事業 上出合川

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

石川県石川郡鳥越村

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	であいふれあい公園
種類	親水空間
規模	L = 270m

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景・目的)

上出合川は、国指定史跡である「二曲城跡」の西側に沿って流れる川で、その城跡の登り口には地元の偉人である「任誓」を祀った任誓墓地公園があり、また、下流部には「一向一揆歴史館」「農村文化伝承館」「道の駅」を取り込んだ、「鳥越 一向一揆の里」の計画などがある。

このような、歴史・伝統に満ちた上出合川を、溪流再生事業(国庫補助事業)及びうるおい空間整備事業(県・村事業)で整備を実施した。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

下流部の任誓墓地公園に隣接するゾーンは「任誓墓地公園ゾーン」として、遊砂池機能としての池泉と魚道機能としての急流(滝)を設け、日本の伝統的な庭園造りの手法を用いて、歴史・伝統に満ちた水と語らう「静」の空間として整備した。

また、上流部は自然観察や自然体験ができる「レクリエーションゾーン」として、憩いの芝生広場を中心に林間遊歩道や生態系にやさしく親水性の高い緩傾斜の自然石護岸など、快適で潤いのある水と遊ぶ「動」の空間として整備した。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

溪流再生事業は平成8～12年度、うるおい空間整備事業は平成12～13年度に実施しており、平成13年度までに以下の事業を実施した。

- ・各種施設の設計及び施設整備
- ・地元住民のアンケート調査
- ・検討委員会の開催

また、下流域では、「一向一揆歴史館」や「農村文化伝承館」を整備済みであり、平成17年度までに

「道の駅」を整備する予定である。

（事業）

活用事例に適用されている事業

溪流再生事業 うるおい空間整備事業

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

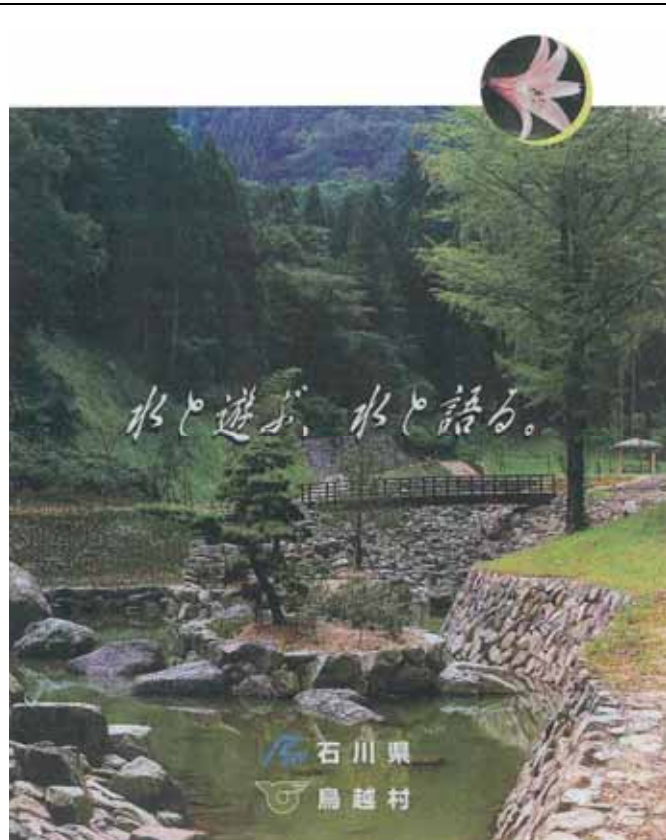
実施主体は石川県及び鳥越村で、地元住民の意見を取り入れている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

県・鳥越村が協力しながら、地元住民からアンケート調査等により意見を取り入れて、上出合川の歴史・伝統や地域計画踏まえて、整備を行ったこと。

図版・写真等



であいふれあい公園



二曲城跡（国指定史跡）



任誓墓地公園

担当（紹介）部署

石川県土木部砂防課

山口県 長門市 頭振川砂防・河川環境整備による地域づくり

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

長門市

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	頭振川みどりの砂防公園
種類	砂防公園（砂防林）
規模	全体面積 13,000m ² （うち砂防林 3,400m ² ）

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

頭振川は、近年の豪雨により、流域の荒廃が急激に進んでおり、土石流発生の危険性が高まっている。一方、周辺地域では、山や川など自然環境が優れており、俵山温泉、俵山多目的交流広場といった観光、運動施設が多数存在している。

（目的）

土石流災害から住民の生命、財産を守り、安全で安心な暮らしを享受できる快適な生活の確保に向けて、その基盤づくりを推進した。

また人々が集い憩える水と緑豊かな空間を創出し、自然の音色が聞こえる豊かな環境を確保した。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

以下の施設を整備した。

- 1 砂防設備：鋼製透過型砂防えん堤、常水路、床固工（沈砂池）、砂防林
- 2 公園施設：トイレ、休憩所、展望棟、野鳥観察小屋、芝生広場（ローラーすべり台、ターザンロープ他）

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は、平成7年度から事業着手し、平成12年度に事業完了している。

平成13年度には近隣の小学生によるスケッチ大会等を実施した。

（事業）

活用事例に適用されている事業

頭振川通常砂防事業、頭振川地方特定河川等環境整備事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
事業主体は、山口県であるが、公園の管理については長門市と委託契約を結んでいる。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

特に野鳥や昆虫に配慮した砂防林として整備されており、樹種もクリ、アラカシ、カキ、クヌギ、ブナ、ケヤキ他14種類に及ぶ。

これにより、多くの野鳥や昆虫、樹木を観察することができるという点について、他の砂防公園にはない特徴として評価できると考えている。

図版・写真等

事業の諸元・頭振川みどりの砂防公園概略平面図

- 諸元
 - 事業名 ● 頭振川通常砂防事業
 - 事業箇所 ● 山口県長門市佐山地区
 - 事業主体 ● 山口県
 - 全体面積 ● 約13,000㎡
(うち砂防林 約3,400㎡)
 - 事業期間 ● 平成7年度～平成12年度
 - 事業費 ● 約700百万円
 - 主要施設 ● 堰堤(堰高=10m, 堰幅=49.5m)
沈砂池(貯砂容量=2,700㎡)
公園施設
トイレ、休憩所、展望橋
野鳥観察小屋、ローラースベリ台
ターザンロープ橋
- 緑の砂防ゾーンとは
通過型ダムの場合、土石流時に土砂等の小型流出物は下流に流れるため、それらを堆積させる空間(砂溜工または遊砂地とよばれる)を確保する必要があります。砂溜工においては、在来の樹木を利用するか、新しく樹木を植栽することにより、土砂の堆積や流木を捕捉する効果を高めることができます。
このように砂防上の効果を期待して樹林を配置した土砂堆積空間を「緑の砂防ゾーン」と呼びます。
- 砂防林種
木の美の森ゾーン…クリ、アラカシ、カキ、ザクロ、ヤマモモ
生態観察ゾーン…ムクノキ、カキ、ナンキンハゼ、イチジク
ヤマモモ、ブナ、クヌギ、ナラ、ケヤキ
カシ、コナラ

▲ 県道側から見た頭振川みどりの砂防公園

頭振川
みどりの砂防公園
© 1998-2012 山口県長門市佐山小学校区によるものです。

担当(紹介)部署

山口県土木建築部砂防課 担当者 宮原 宏夫 電話 内線 3754

福井県 大野市 真名川水辺の楽校

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

大野市南新在家

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	一級河川 真名川
種類	河川堤外地
規模	約 1.4 km ²

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

大野市を南北に流れる真名川には、現在も豊かな水環境が残されており、近年減少傾向にある貴重な水辺の生態系を見ることができ、現在は未改修で高水敷には雑木、雑草が繁茂し、水辺へ近づけない状態となっている。

(目的)

「ふるさとの川 真名川の魅力ある水辺の復元」を基本理念に、(1)生物がすむ場(2)ふれあい、遊び、学び、育てる場(3)安心して豊かな場、を目指して整備を行い、実際に河川を身近に見て、ふれあい、親しむことのできる親水活動、自然学習の場や、多種多様な動植物が生息生育できる水辺空間の保全と創出を図る。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

市が主体となり、水の学習・親水活動の場の提供や生態系の保全を目的とした「大野市親水公園基本計画」を策定しており、現在では、市の健康保養施設、公共下水道施設が整備されている。

真名川河川敷は、この計画の中で「自然体験ゾーン」と位置付けられ、白河原の復元や瀬、淵、遊歩道等の整備を計画している。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は平成13年度～平成17年度(予定)である。

平成14年度までには、全体整備基本計画を策定し、平成15年度は、基本計画に基づき、導入施設の詳細設計を行い、一部工事着手しており、今後は、施設整備と同時に、周辺環境調査を行いながら、段階的施行を実施していく。

(事業)

活用事例に適用されている事業

統合一級河川整備事業(利用推進): 親水や舟運等の河川利用の推進を図るため必要な、河道や施設等の整備を図るもの。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は、福井県であるが、整備計画策定にあたっては、幅広く意見を集約するため学識経験者、学校関係者、地域住民、地域団体、行政関係者の協力が必要であり、実際にもこれらの方に参加してもらい、協議会および研究会を開催し、計画策定を行っている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

マネジメント計画として、整備後の施設の有効利用、環境の維持活動など管理運営を継続的に行う体制づくりを行い、利用のための広報活動や、施設の維持管理等について、教育機関や、地元住民、行政が一体となった管理運営団体を構築し、相互に連携し運営していく。

図版・写真等



昭和30年頃撮影

みお筋が右岸左岸に蛇行し、砂れきの河原が見られます。植生は高い木が無く、低い草木が茂っている程度です。洪水によるかく乱と再生を繰り返していた様子うかがえます。



平成13年11月撮影

みお筋以外は、ほとんどヨシやツルヨシなどの植物に覆われ、砂れきの河原が全く見られません。高い木が多く見られ、陸地化が進んでいることが分かります。

http://www.city.ono.fukui.jp/web_ono/view/view_h.asp?ID=305(大野市ホームページ)

担当(紹介)部署

福井県土木部河川課

兵庫県 和田山町 水辺の楽校 円山川（竹田）

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

兵庫県下全域（和田山町）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	各河川河川敷等
種類	河川敷、公園 など
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（目的）

瀬や淵、せせらぎなどの河川環境を保全、創出する中で、緩傾斜護岸の整備などを通じて、子供たちが自然と出会える安全な水辺空間を作るとともに、地域の人々が協力しながら、水辺を自然体験の場、遊び場として活用されるような取り組みを進めていく。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

（但馬地域の事例）

・円山川「水辺の楽校」（和田山町竹田）

（主な施設）県施工：低水護岸 600m、階段工、スロープ工、池・せせらぎ水路など
町施工：芝生広場、散策路、トイレ、駐車場など

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・平成 8 年度 「水辺の楽校プロジェクト」に登録
県：平成 8 年度～ 1 2 年度（国庫補助事業・広域基幹河川改修事業）
町：平成 1 1 年度～ 1 3 年度
- ・平成 1 4 年 4 月 開校

（事業）

活用事例に適用されている事業

上記のとおり

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

整備は県及び地元町が実施し、地域住民、小学校、その他来訪者等が活用している。

また、管理上も一部清掃等について地元ボランティアが役割を担っている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

河川等の自然環境の整備や自然との共生と青少年等の健全育成のための融合施策として展開した。

担当(紹介)部署

兵庫県但馬県民局県土整備部企画調整担当

秋田県 雄物川カヌー観光交流推進事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

湯沢市、雄勝町、羽後町、十文字町、雄物川町、大森町、大雄村、大曲市、南外村、神岡町、西仙北町、協和町、雄和町、秋田市の14市町村

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	雄物川及び流域14市町村の観光資源
種類	雄物川でのカヌークルージングと流域市町村の観光資源との連携
規模	国際カヌークルージング場「雄物川」(区間120km)及び流域14市町村(別紙位置図参照)

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

最近の観光ニーズは、依然周遊型が多いものの、その土地ならではの自然を満喫することができるアウトドアやグリーンツーリズム等、自然体験型などへ多様化してきている。

雄物川は、米国のカヌー場事業者団体、パドルスポーツ協会から「国際カヌークルージング場」として平成11年に日本ではじめて認定されるとともに、自然環境に配慮した護岸整備などが評価され、「世界の河川賞」を平成15年に受賞するなど、自然景観を楽しみながら安全にカヌー体験ができる川として注目されつつある。

(目的)

雄物川流域の市町村やNPO等が主体となって、カヌー体験と他の観光資源との連携や旅行エージェントによる旅行商品づくりへの支援、「カヌーの川～雄物川」のPR強化などを行い、観光を軸とした地域振興を推進する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

雄物川流域の23カ所にカヌー発着場を国土交通省が整備を行っている。景観や安全性に配慮するため、コンクリートを使わず、天然石などの素材で作った施設である。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

雄物川観光交流推進協議会(仮称)準備会を平成15年7月に設立。

「雄物川カヌー観光交流推進事業計画書(案)」を事務局会議により現在策定中。

近々、当該協議会の設立総会を開催し、計画書(案)を承認、国土交通省の「観光交流空間づくりモデ

ル事業」に平成16年度応募する予定である。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
NPO法人雄物川国際カヌークルージング場、NPO法人流域「水・環境」経営研究東北、湯沢市、雄勝町、羽後町、十文字町、雄物川町、大森町、大雄村、大曲市、南外村、神岡町、西仙北町、協和町、雄和町、秋田市の14市町村、秋田県、(社)秋田県観光連盟等

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

当該地域は従来からの観光地ではなく、最近の観光ニーズを反映した体験型観光資源等による地域活性化への新たな取り組みである。

図版・写真等

雄物川観光交流地域活性化協議会(仮称)設立準備会 対象市町村位置図

担当(紹介)部署

NPO法人流域「水・環境」経営研究会東北 電話：0187-62-3511

山形県 最上川夢の桜街道

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

山形県全域

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	最上川夢の桜街道
種類	河川・河畔林
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

山形県内を貫流する最上川は、県民の母なる川として愛されている。かつては舟運で栄えたものの、現在は川へ気軽に近づけるポイントも少なく、必ずしも身近なものとなっていない。この最上川を貴重な地域資源として、再び光を当て、観光をはじめとした地域振興・地域再生に結びつけるため、沿川に桜等を植樹する。

(目的)

桜並木整備により他の河川との差別化を図り、観光をはじめとする県内産業の振興につなげていくことを目指す。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

平成15年度においては、県内9市町において植栽等の事業を実施している。

《実施市町》米沢市、酒田市、新庄市、長井市、村山市、東根市、大石田町、高畠町、白鷹町

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成14年度：県内5市町において、本事業を推進する上での課題を整理。

平成15年度：県内9市町において、植栽事業等を実施。また、本事業が全国都市再生モデル調査事業に採択され、現在、今後の展開方策等を調査検討を実施している。

平成16年度：平成15年度に引き続き植栽事業等を実施する予定。また、啓発事業として「夢の桜街道写真コンテスト」及び「桜フェスティバル(仮称)」を開催する予定。

(事業)

活用事例に適用されている事業

夢の桜街道写真コンテストの実施

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

最上川夢の桜街道は、最上川をシンボルに美しい山形づくり運動を推進する「美しい山形・最上川フォーラム」が推進している。同フォーラムは、平成13年7月に設立され、平成14年7月「美しい山形・最上川100年プラン」を策定した。趣旨に賛同し参画する県民、事業者、大学、行政機関(国、県、市町村)が、様々な課題の解決や夢の実現のための話し合いを重ね、具体の取り組みを実践している。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

本事業は、地域が主体となる取り組みである。各地域が工夫を凝らしながら展開する活動であるが、それらが最上川を軸に繋がることにより、相乗的に広がり生まれ、交流が拡大されるとともに、最上川流域のアイデンティティーが確立される。

図版・写真等

《最上川夢の桜街道の推進イメージ》

最上川夢の桜街道推進地域活動支援事業について
【各実施市町の事業概要】

- (1) 米沢市 (助成元：山形県)
《概要》最上川の支流である掘立川に桜並木を整備し、地域の河川に対する関心を高めるとともに、市民に憩いの場を提供する。なお、事業は米沢商工会議所女性会と連携を図りながら、維持管理や地域振興の方策も併せて検討していく。
《現況》米沢総合公園東側の掘立川河川敷にオヤマザクラ13本を植栽。11月11日に米沢市商工会議所主催の植樹祭が開催された。今後、米沢商工会議所及び地域との検討会の開催を予定している。
- (2) 酒田市 (助成元：株式会社ヤマザワ)
《概要》地域の貴重な資源である最上川の利活用を、市民参加により整備を行い、親しみもてる空間づくりに取り組む。植栽や管理について、東北公益文科大学等の学生や地域と協力しながら、植栽や維持管理を行う。
《現況》16年3月にソメイヨシノ7本を植栽する予定で、東北公益文科大学及び国土交通省酒田河川国定事務所と植栽地及び植栽時期を協議中。植栽は同大学の学生が行う予定。
- (3) 新庄市 (助成元：山形県)
《概要》本合海地区内に、地域団体と協力して、新たに桜を植栽する。また、この事業を通じ、地域の景観をさらに向上させ、地域振興を図る。なお、次年度以降も、順次、植栽を予定(希望)している。
《現況》10月22日に本合海さくら会の主催により植樹式を開催、ソメイヨシノ(開光)10本を植樹した。
- (4) 村山市 (助成元：株式会社ヤマザワ)
《概要》桜の植栽や維持管理を通して、クアハウス基点を核としたその周辺地域の活性化や最上川左岸の景観の美化を促進する。
《現況》10月19日に最上川交流フェスティバルの実施に併せて、記念植樹式を開催、基点橋下流左岸にソメイヨシノ20本植樹。また、地元基点振興会等との協議をこれまで3回実施。今後も維持管理方法等についての検討を行う予定。
- (5) 長井市 (助成元：株式会社ヤマザワ)
《概要》館町地区に建設中の「さくら大橋」(最上川)のたもとに、千本桜と連続する形で、植栽を行う。なお、桜の植栽や管理は、同地区が中心となって行い、最上川やその利活用に対する関心を高める。
《現況》協議の中で、当初の予定地では、土地の面積が狭いということになり、再度植栽地の調整をしている。植栽は3月頃になる見込み。
- (6) 大石田町 (助成元：山形県)
《概要》最上川両岸にある、「さくらロード」(左岸)と桜堤(右岸)について、一部、生育不良が見られる。これらの桜並木について、施肥を行い、健康な桜への回復を目指す。また、草むしりや落ち葉拾い等の維持管理活動を実施する。
《現況》クリーンアップおおいしだ in 最上川の実施に合わせ、9月30日に約120本の桜に施肥を行った。また、11月14日に右岸側(あつたまりランド付近)に、最上川を愛する町民会議によって新たに1本植樹した。
- (7) 高森町 (助成元：山形県、美しい山形・最上川フォーラム)
《概要》桜街道の維持管理等を担う組織づくりについて、地域住民、団体、企業等から委員を選任し、検討を行う。また、離野目本辺の染校(最上川)に繋がる砂川河川敷について、既存の桜並木の再生等を含めた利活用の基本計画を作成する。
《現況》10月31日に第1回委員会を開催し、基本計画づくりに着手した。今後、5回程度検討会を開催し、活用方法等も含んだプランを策定する予定。植栽やその維持管理を担う地域組織の立ち上げも行うこととしている。
- (8) 白鷹町 (助成元：山形県)
《概要》14年度の検討に引き続き、より具体的な調査・検討を行うとともに、プランの実現に向けた植樹事業を実施する。
《現況》第1回検討委員会(7/10)、第2回検討委員会(9/22)、第3回検討委員会(11/19)を各々実施。今後、管理体制等について検討を詰め、16年3月頃に植樹を予定している。
- (9) 東根市 (助成元：美しい山形・最上川フォーラム)
《概要》最上川支流乱川の上流の高崎地区は啓翁桜の産地であるが、同地区石崎山に、地域団体と協力して桜の植栽を行う。植栽面積は約4ヘクタールを予定しており、植栽本数は約200本となる見込みである。
《現況》11月23日に高崎山植樹祭を実施し、地区民により約200本の桜が植樹された。

H15年度 実施状況

担当(紹介)部署

山形県文化環境部文化振興課

山形県 河川アダプト導入モデル事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

山形県内の河川及び海岸の 88 箇所（54 河川及び 2 海岸、29 市町村）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	県管理の河川及び海岸
種類	河川及び海岸
規模	事業実施河川延長 75.8 km（H15、海岸延長を含む）

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

河川・海岸管理における住民と行政との連携（パートナーシップ）は、良好な河川・海岸環境を形成するため重要な課題となっており、河川・海岸清掃や環境美化を目的とした地域住民や企業等の団体、NPO、ボランティア団体等によるアダプト・プログラムの実施が全国的な広がりを見せている。

（目的）

地域住民及び企業等の団体が、県や市町村の支援を受け、清掃美化活動や啓発活動等のボランティア活動を通じて、地域共有の公共財産である河川・海岸環境をより身近で良好なものにしていくことを目的とする。

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は、平成14年度～平成16年度である。

《平成14年度》

- ・活動団体数 44
- ・会員数 3,413人
- ・参加者数（延べ） 11,296人
- ・対象河川及び海岸数 34（河川） 2（海岸）
- ・事業実施市町村数 21
- ・活動実施河川及び海岸延長 46.1 km（河川） 0.5 km（海岸）

《平成15年度》

- ・活動団体数 88
- ・会員数 6,521人
- ・対象河川及び海岸数 54（河川） 2（海岸）
- ・事業実施市町村数 29

・活動実施河川延長 73.4 km (河川) 2.4 km (海岸)

平成17年度以降は新しい形で事業を継続する予定。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は地域住民やボランティア団体、企業等の団体であり、河川や海岸の清掃美化活動(草刈り・植栽等)を行うとともに啓発活動や河川環境学習等を実施する。

県は、活動団体を認定し、これらの団体への助成金の交付や活動箇所への看板(アダプトサイン)の設置、その他県民へのPR活動を行う。

市町村は清掃活動で出た一般廃棄物の処理や県と活動団体との連絡調整、市町村民へのPRなどを行う。この3者(活動団体・県・市町村)の間で協定書を締結し、それぞれの役割分担を明確にすることとしている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴

河川・海岸管理を住民と行政がそれぞれの役割分担にしたがって実施できる点は評価できる。参加する住民にとっては、身近な河川や海岸への関心や愛着が生まれ、「河川は地域の財産」という認識や環境保全に対する関心が高まった。

県が交付する助成金は各団体で有意義に活用され、また県が設置した看板(アダプトサイン)も活動への誇りや地域への啓発・PRで大いに役立っている。

図版・写真等



担当(紹介)部署

山形県土木部河川砂防課

兵庫県 たじまの森・川・海再生プランの推進

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

円山川流域豊岡盆地周辺流域、但馬西部河川のうちの竹野川流域及び矢田川流域の3河川流域
--

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	円山川流域豊岡盆地周辺モデル地区事業（豊岡市、出石町、日高町）
種類	円山川下流、田園集落、里山

名称	但馬西部河川・竹野川流域モデル地区事業（竹野町）
種類	竹野川、海、森林・里山、渓谷

名称	但馬西部河川・矢田川流域モデル地区事業（香住町、村岡町、美方町）
種類	矢田川、海、森林・里山、渓谷、棚田

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

<p>（背景）</p> <ul style="list-style-type: none">・高度経済成長期以降の急激な都市化の進展などの背景から、森林荒廃や宅地開発等による土地の保水力の低下に伴い、上流に降った雨は、短時間で河川、海に注いでいる。・生活排水対策（流域下水道整備）の進展に伴い、都市部等を流れる河川流量が低下し、河川における人と水・自然との触れあいや水生生物の減少など、河川での健全な水循環の機能が失われつつある。・森や川や海は、私たちの日々の営みの関わりの中で、循環～再生を繰り返している。また、国土のおよそ7割を占める森の変化は、そのまま森とともに暮らしてきた私たちのふるさとの変化を表している。・こうしたことから、森や川や海の再生は、水がつなぐ人の営みの再生、人と自然の「環」を回復させることから、平成14年5月に策定された「ひょうごの森・川・海再生プラン」に基づき、「たじまの森・川・海再生プラン」を平成15年5月に策定した。 <p>（目的）</p> <p>このプランは、自然再生や健全な水循環や人と自然との豊かな触れあいの回復などの観点から、森・川・海の再生に係る施策・事業について、行政部局間の緊密な連携のもと事業推進するとともに、流域に暮らす人々と豊かな自然との関わりを回復させながら、参画と協働のもと、流域ぐるみで特色ある取組を進める。</p> <p>特色ある取組例としては、田んぼの学校による自然環境学習会、海の学校・自然観察交流会、河川最上流での広葉樹林の植樹活動・森の自然観察会、環境水質調査と水生生物調査など。</p>
--

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

ハード施策事業（H14 年度末）

- 円山川流域
 - ・間伐実施面積 2,019ha、・里山林整備面積 160ha
 - ・河川改修多自然型整備及びその割合 0.92km 及び 88.5%
 - ・海岸環境整備 0.2ha
- 但馬西部河川流域
 - ・間伐実施面積 834ha、・里山林整備面積 163ha
 - ・河川改修多自然型整備及びその割合 0.84km 及び 70%
 - ・稚魚等の保護育成場整備 19.9ha

ソフト事業（H14 年度末）

- 円山川流域
 - ・メダカやカエルなど生物多様なビオトープづくり
- 豊岡盆地周辺
 - ・里山自然観察会や植樹の実施など
- 竹野川流域
 - ・カエル卵塊探しとビオトープづくり
 - ・海辺の漂着物調査と植生調査など
- 矢田川流域
 - ・最上流での広葉樹林の植樹、森の自然観察会など

共通ソフト事業（H14 年度末）

- ・環境づくりフォーラム、但馬こども環境会議など

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

たじまの森・川・海再生プランでは、1950 年前後の環境を回復することを目標に、当面 10 年後の森・川・海の関連施策事業目標やその流域の成果指標及び達成に向けた取組を掲げ、行政・県民等の参画と協働により、美しい森～川～海の再生作りを進める。

【推進体制等】

- ・但馬地域推進本部・幹事会により、森・川・海の再生に係る施策・事業の行政部局間連携のもと事業を推進する。
- ・森・川・海の再生に係る流域での特色ある取組活動については、流域協議会によりモデル地区事業を計画・実施する。
- ・毎年 5 月末にこれら再生プランに係る施策事業の実績及び実施予定事業報告を取りまとめ、その進捗状況を把握する。

(事業)

活用事例に適用されている事業

すべて県単独事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

森・川・海再生・回復を果たすには、行政施策事業の推進と共に、県民・事業者・NPO組織などの参画と協働による取組活動が不可欠である。そのため、河川流域協議会を設けて、活動の核となるNPO組織、流域住民、流域関係市町で組織して、特色ある環境づくり事業を展開している。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

住民、NPO等環境活動団体の参画と協働による森・川・海の再生に向けた取り組みを進め、共に成果を確認することにより、森～川～海再生(失われた自然の再生・回復<生態系>、健全な水循環の再生・回復<水>、人と自然のつながりの再生・回復<人>)への関心が高まる。

また、環境教育を進めるうえで、人と教育の関わりを体験しながら学べる、格好のフィールドである森・川・海での「体験型体験学習」や「上・下流の交流型環境学習」を子どもから大人までが参加できて点と点、地域と地域を結ぶつなげる「交流」が活性化する。

担当(紹介)部署

兵庫県但馬県民局県民生活部環境課

兵庫県 但馬地域 円山川水系自然再生計画

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

但馬地域（一級河川円山川水系：豊岡市～生野町）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	一級河川円山川
種類	河川、河川敷、各地の河川敷公園等
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（目的）

国土交通省及び兵庫県では、コウノトリをシンボルとした地域づくりを進める中で、円山川水系における生態系の多様性を保全・再生・創出することを目的として、「円山川水系自然再生計画」を策定することとした。

この計画の策定に当たっては、専門的知識を有する学識経験者、地元住民なども参画した委員会を設置し、概ね豊岡盆地を対象とした地域における河川の自然再生計画について、様々な観点からの審議、助言を得たうえで、コウノトリの野生復帰に向けての総合的な取り組みの一環となる生物の多様性の保全・再生・創出に取り組む。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

「円山川水系自然再生計画検討委員会」（事務局：国土交通省豊岡河川国道事務所）で検討中

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

自然再生計画については、「円山川水系自然再生計画検討委員会」において、平成16年夏頃にとりまとめられる予定。

（事業）

活用事例に適用されている事業

- ・ 検討委員会：国直轄事業
- ・ 関連事業：国庫補助事業（河川環境整備事業）

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

検討委員会には国・県・市町のほか地元の自然環境保全に係る任意団体の参画も得ており、これまでの保全活動を元にした意見や具体的取組の事例・提言をいただいている。

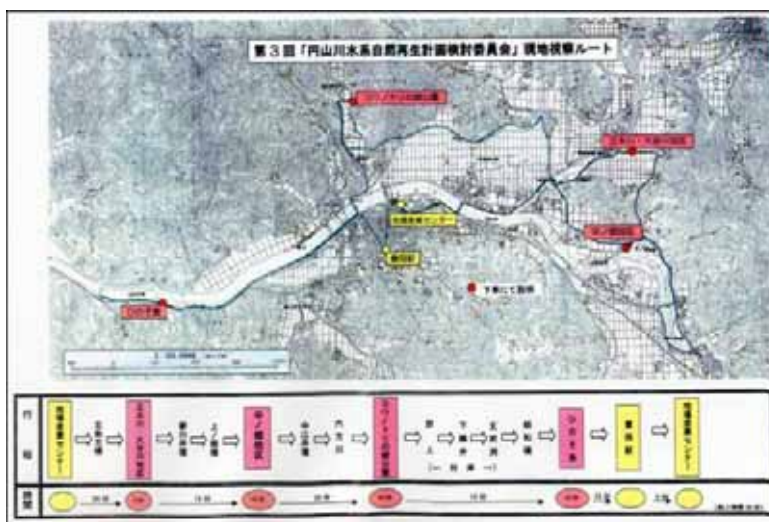
特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

円山川は、朝来郡生野町円山に源を発し、但馬地方の中央部を北に流れ、豊岡市の津居山で日本海に注ぐ一級河川であり、河口から支川出石町域までの円山川沿いは、低湿地で、昭和30年代までは、コウノトリ等の餌場となっていた。

豊岡市内には、「県立コウノトリの郷公園」があり、国の特別天然記念物であるコウノトリを保護・増殖し、その野生復帰を図る取り組みが行われているが、「郷公園」で人工飼育されたコウノトリは、現在100羽を越えており、平成17年度から試験放鳥を実施する予定である。

図版・写真等



担当(紹介)部署

兵庫県但馬県民局県土整備部企画調整担当

山形県 南陽市 白竜湖周辺田園風景保全事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

南陽市赤湯

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名 称	白竜湖とその周辺植物群落
種 類	湖 沼
規 模	約 9 ha (湖水面積約 6 ha)

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

県立公園にも指定されている白竜湖であるが、近年の社会経済活動などによる水質悪化等、その形態は植生を含め大きく変貌してきている。そのような中、平成 13 年度に地元南陽市民 20,350 名から、「私たちの心の原風景『白竜湖』を守る陳情請願書」が知事宛に提出なされ、白竜湖の環境保全に対する地域の盛り上がりがあった。それを受け、平成 14 年度から置賜総合支庁と南陽市により、白竜湖を考えるワークショップを開催するなどして、今後の保全のあり方を検討してきている。

(目的)

置賜の原風景である「白竜湖と周辺田園風景」の保全を目的にしているが、次世代に伝えたい白竜湖の姿を考えるワークショップなどの開催を通して、住民の主体的な保全活動への参加を促す。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

景観にそぐわない施設等の撤去

- ・老朽化した旧ボート小屋、棧橋の撤去
- ・湖面を覆う植物（ヒシ）の試験的な除去

白竜湖を見るための展望場の整備

- ・ベンチの設置（北側の山の中腹）【別途事業により整備】

ワークショップによる提案施設等（将来）

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間：平成 14 年度～平成 15 年度

- ・平成 14 年度 ワークショップの開催（現状認識についての共有化）
- ・平成 15 年度 ワークショップの開催（保全に向けて、官民の役割分担の意識付け：2 回）

- 水質状況の把握など水質改善に向けた調査
景観に不釣り合いな施設の撤去など
- ・平成 16 年度 ワークショップの開催（住民主体の保全活動に向けたきっかけづくり）
学識者を交えた水質浄化策と整備方向の検討会
- ・平成 17 年度 住民主体の保全活動と保全整備など
保全整備の評価

（事業）

活用事例に適用されている事業

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
南陽市、市内地区長会、周辺地区住民（農業従事者、温泉旅館関係者、商業者など）

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

永続的にその美しさを保つことができるように、行政と住民との連携、特に住民主体による環境保全活動の実施を目指している。

図版・写真等



担当（紹介）部署

山形県置賜総合支庁総務企画部企画振興課

山形県 鶴岡市 庄内自然博物館（仮称）構想に係る大山下池地区地域用水環境整備事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

山形県鶴岡市大字大山地内「大山下池地区」

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	庄内拠点都市地域「大山都沢地区」を含める庄内自然博物館（仮称）構想（主体：鶴岡市）
種類	大山下池及び周辺湿地帯へ生息する野鳥（渡り鳥）及び自然動植物の生息環境
規模	大山下池を中心とする周辺を含め50ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

以下の事由で、対象区域が住民に憩い親しまれており、鶴岡市にも保存計画がある。

- ・本地域は古来より野鳥の飛来地となっており、また湿地帯を好む動植物が豊富に生息している。
- ・鶴岡市では下池周辺をポイントに庄内拠点都市「大山都沢地区」の策定し、これを含め広範囲に「自然博物館（仮称）」構想を計画して自然環境保全を図っている。
- ・都市開発の進展や遊休地の減少に伴い、野鳥や動植物を観察する教育の場が急速に減少しており本地域は後世に残しておく貴重な資源と考えられる。

（目的）

大山下池は古来より農業用水ため池（A=220ha）として活用されてきたが、豊かな自然環境を背景に、ため池の機能性と共に野鳥の飛来地や希少動植物の生息地として、地域の人々の憩いの場や子供達の教育の場として親しまれている。また、鶴岡市では大山下池や湿地帯を庄内拠点都市「大山都沢地区」として、また背後の高館山を含め広範囲な部分を庄内自然博物館（仮称）と位置付け自然保護と共に環境整備を行う構想がある。

今回、下池及び付帯構造物を整備するにあたり「大山下池地区地域用水環境整備事業」により、機能性の保持と同時に上記構想に沿った整備を行うよう地域推進協議会や地区住民と協議を重ね工事を進めている。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・ため池堤防の管理道路は遊歩道を兼ねてカラークッション舗装とし、安全柵も景観に配慮した。
- ・管理道路沿いに野鳥観察所（A=30m²）を設置した。
- ・大山都沢地区内を通過する水路は玉石積みの水路として動植物の生息や環境に配慮した。
- ・玉石積み水路沿いに遊歩道を設け小川の観察が可能な自然教育の場所を提供した。
- ・広範囲な来訪者を想定して、駐車場整備やトイレを整備する計画である。

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・「大山下池地区地域用水環境整備事業」は平成 7 年着工～平成 17 年完了
- ・庄内拠点都市「大山都沢地区」は計画策定中(鶴岡市)
- ・自然博物館(仮称)構想は計画(鶴岡市)

(事業)

活用事例に適用されている事業

- ・大山下池地区地域用水環境整備事業(事業主体:山形県)は平成 17 年完了予定で現在継続中

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

- ・大山下池地区地域用水環境整備事業(事業主体:山形県)
- ・庄内自然博物館(仮称)構想地域推進協議会

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

- ・大山下池は地形的に高館山の南に位置し、裾野を集水ポケットとして里山の形態をなしている。又池周辺は比較的湿地帯となっており野鳥や動植物の生息には希少で貴重な条件となっている。

図版・写真等



担当(紹介)部署

庄内総合支庁産業経済部鶴岡農村整備課・工事担当

石川県 小松市 木場潟水と緑のふれあいパーク

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

小松市

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	木場潟水と緑のふれあいパーク
種類	水質浄化機能のある野菜や花を栽培・収穫することによる水質浄化施設
規模	施設面積 2,500 m ² (内水耕水路面積 800 m ²)

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

木場潟は、平成2年度には、全国の湖沼で水質が第2番目に悪い状況となり、平成5年には生活排水対策重点地域に指定された。小松市では、平成6年3月に木場潟流域生活排水対策推進計画を策定し、下水道や合併処理浄化槽、汚濁水路浄化施設などの施設整備、家庭でできる生活排水対策の普及推進など、ハード、ソフトの両面から浄化対策を進めている。しかしながら、依然として環境基準は未達成となっており、水質浄化に対する市民の関心も高い。

(目的)

木場潟は、県内では唯一の干拓されていない湖沼であり、潟周辺は、木場潟公園として、ボート乗り場や釣り桟橋、レンタサイクル等の施設が整備されており、多数の利用者が訪れている。

木場潟水と緑のふれあいパークは、訪れた人が自由に出入りできる親水施設であるとともに、水質浄化能力のある野菜(クレソン)や花(ルイジアナアヤメ、ミソハギ、ワスレナクサ)を栽培・収穫することで、木場潟の水質浄化を図るとともに環境に対する関心・理解を深めてもらうことを目的としている。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

木場潟公園の中に、木場潟水と緑のふれあいパークを建設した。

施設概要：施設面積 A = 2,500 m² (内、水耕水路面積 A = 800 m²) 処理能力 2,400 / 日

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・平成11年度に施設の整備を行い、平成12年4月23日に開園式を行った。
- ・平成12年度以降は、市内の小学校の児童や県政バスに参加する多くの人々が、水質浄化の仕組みを学習しながら、クレソンなどの収穫を楽しんでいる。

(事業)

活用事例に適用されている事業

県単独事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は石川県である。本施設の機能を十分に発揮するためには、良好な維持管理を行うことが重要である。本施設は、木場潟公園の中にあり維持管理も(財)木場潟公園協会に管理委託を行っている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

木場潟水と緑のふれあいパークでは、自分たちで野菜や花を収穫するという体験を通じて水質浄化の仕組みや環境に対する関心や理解を深めてもらうため、講師や市民ボランティアの方々による講演や収穫されたクレソンを利用した料理を紹介している。このように、単なる施設整備のみではなく、施設を活用したソフト的な事業も展開している。

図版・写真等



石川県土木部河川課木場潟水と緑のふれあいパーク：<http://www.pref.ishikawa.jp/kasen/kiba/index.htm>

担当(紹介)部署

石川県土木部河川課

鳥取県 鳥取市 湖山池公園湖山池自然再生公園整備事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

鳥取市（湖山池）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	湖山池公園（鳥取市立）
種類	都市公園（総合公園）
規模	供用面積 44.16 ha（都決面積 684.7 ha）

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（概要）

・天然の池では日本一の広さを有する湖山池とその周辺地域は、高度成長とともに、水質汚濁、人工護岸整備等、かつての水辺の原風景は消えていった。

・平成4年に策定された「湖山池公園基本計画」をもとに公園整備が進められていたが、自治会等による清掃活動等、地域住民の湖山池再生の願いが芽生える中、平成13年に、これまでの基本計画を見直した「湖山池周辺地域公園構想“霞の里構想”」が策定され、続いてその具体的な基本計画が策定された。また、同時に周辺地域の大学・NPO・小学校・市民有志等による湖山池再生に向けた各種取組の活発化により、地域一体となった湖山池づくりが進み始めた。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・平成4年 湖山池公園基本計画策定
- ・平成13年 湖山池周辺地域公園構想（霞の里構想）策定
- ・平成15年 湖山池周辺地域公園基本計画策定
- ・平成15年 湖山池地域連携懇談会 発足（平成16年 湖山池自然再生協議会に改名）

（事業）

活用事例に適用されている事業

- ・都市公園整備事業

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

- ・湖山池自然再生協議会（鳥取大学教官・学生、NPO、自治会等の市民有志、小学校の教諭）
- ・鳥取大学教育地域学部
- ・湖山池石がま漁を伝承する会（NPO法人）
- ・周辺地域の小学生
- ・鳥取市都市建設課、公園街路課

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

・地域の様々な主体が、湖山池の再生を目指し、湖山池という資源を活用しながら、池そのものの環境改善や周辺地域のあり方等を様々な活動を通じて検討、実践している。

図版・写真等



- コンクリート護岸
- アシ・ガマ等
- 石積み護岸

鳥取市ホームページ 湖山池研究所

http://www.city.tottori.tottori.jp/cgi-bin/odb-get.exe?WIT_Template=AC020000&Cc=7d42130a3139251&DM=jopvfzptijjxsub&TSW

担当（紹介）部署

鳥取県県土整備部都市計画課緑地公園室（紹介）

鳥取県 東郷湖羽合臨海公園（東郷湖）

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

東郷町、羽合町（東郷湖）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	東郷湖羽合臨海公園（鳥取県立）
種類	都市公園（広域公園）
規模	供用面積 61.4 ha（都決面積 55.4.2 ha）

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（概要）

- ・平成 11 年に当公園において、地盤沈下による水たまりで絶滅危惧種のメダカが確認され、地域住民を中止とした東郷湖メダカの会が結成されたことを契機に気運が高まり、地域住民の参画協力を得ながら施設の内容検討や、植栽作業等を行い、メダカのピオトープが完成したものの。
- ・既存の水たまり周辺は、良好なメダカの生息環境となるよう、周辺に自生している水生植物の植栽を始め、田圃やあぜ道、雑木の植栽等の整備がなされ、地域の里山環境のモデルになることを意識して管理されており、メダカを通じた自然環境保護の意識啓発や環境学習の場として利用されている。
- ・平成 15 年には、「全国めだかシンポジウムとっとり in 東郷湖」が当地で開催され、全国や地元から多数の参加があり、自然豊かな水辺の保全と再生について語られた。
- ・現在は、メダカの保護育成活動の他、浄化をはじめとした、東郷湖全体の環境問題にも目を向けた活動に発展している。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・メダカの生息池

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・昭和 59 年 公園供用開始
- ・平成 11 年 公園内の水たまりでメダカ発見
- ・平成 12～14 年 メダカの生息池の計画・設計・施工
- ・平成 15 年 全校メダカシンポジウムの開催
- ・平成 16 年 東郷湖の環境を考えるシンポジウム開催

（事業）

活用事例に適用されている事業

・都市公園整備事業（都市計画課） ・ビオトープ保全・再生事業（環境政策課）

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

東郷湖メダカの会

東郷湖ネエブンチャの会

(財)鳥取県観光事業団

鳥取県（中部県土整備局 都市計画課 環境政策課）

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

・地域に生息している生き物を通じて、地域住民等の発意により、周辺地域全体の環境改善への取り組みに発展した活動が展開されはじめたこと。

図版・写真等



東郷湖羽合臨海公園 <http://www7.ocn.ne.jp/~rinkai/>

担当（紹介）部署

鳥取県県土整備部都市計画課緑地公園室（担当）

秋田県 能代海岸砂防林「風の松原」

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

秋田県 能代市

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	「風の松原」
種類	能代市の海岸砂防林（日本海から吹く強風と飛砂を防ぐために造られた松林）
規模	面積 7 6 0 ha（南北 1 4 km、東西 1 km）のクロマツ林

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

- ・能代海岸には、かつて米代川が運んだ砂が強風に吹き上げられて、砂浜が広がっていたが、住民は、飛砂で住宅や田畑が埋まるなどの被害を受けていた。この飛砂から街や農地を守るために、300年位前の藩政時代から砂浜にクロマツを植え、失敗を繰り返しながら、現在の森林ができあがってきた。
- ・これらの森林は、先人が造ってくれた「緑の遺産」として、地域の住民が現在も守り続けている。

（目的）

- ・この森林は、砂の移動を抑え、飛砂による被害を防ぐことを目的として植えられ、育てられてきた森林で、市街地に吹く風を弱め、塩害による作物の生育不良を防ぎ、地震時の津波の被害を最小限に抑えてくれ、最近では、憩いの場所として、多くの市民に親しまれている。
- ・近年、松くい虫による被害が見られるようになり、市民は「風の松原に守られる人々の会」を組織して、行政と連携を図りながら、森林の保全に努めている。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・「風の松原」、飛砂防備保安林、保健保安林、鳥獣保護区特別保護区

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・昭和62年 能代市民からの愛称公募により「風の松原」と命名
- ・平成8年 能代市で松くい虫が発生、平成12年に「風の松原」で松くい虫の被害が散見、以後本格的に防除が始まる。
- ・平成13年 松くい虫の北上を防ぐため、能代市南部の町に防除帯（幅2km）を設置

（事業）

活用事例に適用されている事業

- ・ 国有林：海岸防災林造成事業 等
- ・ 民有林：保安林整備事業、海岸防災林造成事業、松くい虫防除対策事業 等

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
国、県、能代市、風の松原に守られる会(H13.3 発足)

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

- ・ 日本五大松原の一つ（風の松原、三保の松原、気比の松原、天橋立、虹ノ松原）
- ・ 21世紀に残したい日本の自然100選（1983年）、21世紀に引き継ぎたい日本の名木100選（1983年）、森林浴の森日本100選（1986年）、21世紀に引き継ぎたい日本の白砂青松100選（1987）、残したい日本の音風景100選（1996年）、かおりの風景100選（2001年）

図版・写真等



<http://www.city.noshiro.akita.jp/kankyo/>

担当（紹介）部署

秋田県農林水産部 秋田スギ振興課 企画調整班

山形県 庄内砂丘海岸林における住民参加による海岸林保全活動

位置

実施位置、生活圈域名、市町村名、市町村における地区名等

鶴岡市・酒田市・遊佐町

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	庄内砂丘の海岸林
種類	クロマツの海岸砂防林（飛砂防備保安林等）
規模	約 2,500 h a

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

日本海に面する庄内砂丘は、現在は緑豊かな海岸林（クロマツの砂防林）で覆われている。庄内砂丘はかつて自然林に覆われていた時代があったものの、戦国時代、人為的な破壊等により裸地化した。そして、強風と飛砂、河川の埋没による洪水等に苦しんだ先人の努力により、300年かけて現在の海岸林が形作られてきたものであり、それは今も庄内の暮らしと産業を守る歴史的遺産となっている。

しかし燃料革命以降、暮らしとのかかわりが薄れ手入れ不足となるとともに松くい虫被害も多発し、生活様式も森林所有者の管理意識も変化した今日において、多様な公益的機能を発揮しているこの海岸林を保全していくためには、新たな管理の仕組みを構築する必要がある。

（目的）

「公益」をキーワードにした地域づくり

- ・地域の遺産である海岸林を、多様な主体の協働により守り育て、公益の息づく地域づくりをめざす。
- ・海岸林をフィールドとして活用し、住民参加の森づくり運動と森林環境教育を推進する。
- ・各種施策とボランティア活動により、松くい虫被害の終息をめざす。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・砂防林整備ボランティアのフィールドとして、住民の手により整備が進んだ森林（H12～15）
酒田市光ヶ丘松林（光ヶ丘公園：都市公園、万里の松原：国有保安林）
酒田市飯森山西地区飛砂防備保安林
- ・「出羽庄内公益の森整備事業」による学習林整備
（学区内の身近な森林を学習林として設定・整備し、森林環境教育の場として活用する）
酒田市立十坂小学校学習林（H14 整備 学習林名「ふれあいの森」「学びの森」）
遊佐町立西遊佐小学校学習林（H14 整備 学習林名「元気林林」）
鶴岡市立西郷小学校学習林（H15 整備 学習林名「なかよし森」）
遊佐町立稲川小学校学習林（H15 整備 学習林名「いなほっ子の森」）

平成 16 年度も 2 校について整備を計画している。

- ・林道事業による砂丘地の林内道路網整備（松くい虫対策や森林整備活動に資する）

H15 森林管理道 1 路線整備、H16 新規路線整備予定

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・市民参加による砂防林整備ボランティアは、年 5 回程度継続して実施予定。
- ・設定した「学習林」では、児童や P T A、地域住民等による、枝打ち、つる切り、下刈り、植林等の各種体験学習や、自然観察等の活動を、各学校が主体となって展開していく。活動に際しては、県の林業普及指導事業の一環として、林業改良指導員等を派遣し、活動を支援していく。
- ・整備した森林管理道を活用し、公共事業としての松くい虫対策や森林整備を進めるとともに、住民参加の保全活動も展開していく。

（事業）

活用事例に適用されている事業

- ・出羽庄内公益の森整備事業
- ・林業普及指導事業
- ・林野関係公共事業（治山事業・林道事業・造林事業・森林病虫害等防除事業）

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、N P O 組織、業界団体、民間事業者の関わり。

歴史的遺産である庄内砂丘の海岸林を、関係団体等が連携し、一体的かつ健全に保全して未来に引き継ぐための方策について話し合うために「出羽庄内公益の森づくりを考える会」を組織化し、年 3 回程度会議を開催し、意見や情報を交換している。平成 16 年 2 月現在の参加団体は下記のとおり。

（行政機関）

国：林野庁東北森林管理局庄内森林管理署・国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所

県：山形県庄内総合支庁・山形県森林研究研修センター

市町：鶴岡市・酒田市・遊佐町

（教育機関）

山形大学農学部・東北公益文科大学・庄内教育事務所・酒田市立十坂小学校

鶴岡市立西郷小学校・遊佐町立西遊佐小学校・遊佐町立稲川小学校

（森林ボランティア団体）

特定非営利活動法人庄内海岸のクロマツ林をたたえる会・万里の松原に親しむ会

砂丘地砂防林環境整備推進協議会・「森の人」講座実行委員会

（林業関係団体）

出羽庄内森林組合・酒田森林組合・遊佐森林組合

会 長：山形大学農学部 中島勇喜教授（会長は会員の中から選出）

専門部会：「ゾーニング」「保全活動」「環境教育」の 3 つの専門部会を設けている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

- ・公益的な地域づくりのテーマとしては、地域の生活や産業上の切実な問題であり、多様な主体が連携せざるを得ない状況があることに加え、多数の共感を得る哲学や、地域の誇りを甦らせる歴史的ストーリーが存在すること。
- ・苦闘の植林の歴史を踏まえ、伝統的方法をヒントに、現代の課題に合う新しい技術・制度・ルールをつくり、自然の循環的利用と保全の課題に取り組んでいること。
- ・特定の機関の活動ではいずれも限界があり、協働による役割分担をしながら、地域全体の力で、地域の遺産である森林を守ろうという機運が醸成されつつあること。
- ・行政機関だけでなく、海岸林の保全に関わる様々な主体が一同に会し、平等な関係で議論できる公的なテーブルができたことにより、各主体間の交流と協働の動きが加速されてきていること。

図版・写真等



庄内砂丘と庄内平野 砂丘地には砂防林が配置され砂丘地農業が発展している。

担当（紹介）部署

山形県庄内総合支庁産業経済部森林整備課

山形県 飛島クリーンアップ作戦

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

山形県酒田市飛島（酒田市の北北西約 39.3km 沖に位置する有人離島）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	鳥海国定公園 第二種特別地域
種類	離島、国指定天然記念物ウミネコ生息地、渡り鳥中継地
規模	面積 2.70 k m ² 、周囲 10.2km 海拔 50m

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

周囲を対馬暖流が流れ、飛島の西海岸には魚網や木材、樹脂製品など、非常に多くのゴミが漂着しており、過疎化・高齢化の進む島民だけでは環境維持が困難な状況になっている。

（目的）

鳥海国定公園に指定されている飛島の自然環境を保全するとともに、参加者の環境保全意識の醸成を図る。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

なし

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・事業は平成 13 年度から実施され、平成 15 年度までの状況は次のとおりである。
 - 第 1 回 平成 13 年 9 月 1 日(土) 参加者数 250 名
 - 第 2 回 平成 14 年 7 月 7 日(日) 参加者数 344 名
 - 第 3 回 平成 15 年 8 月 30 日(土) 参加者数 356 名
- ・平成 16 年度予定 第 4 回 平成 16 年 5 月 29 日(土)

（事業）

活用事例に適用されている事業

- ・産業廃棄物啓発支援事業（社団法人山形県産業廃棄物協会）
- ・公益のふるさと出羽庄内・公益実践活動支援事業（山形県庄内総合支庁）

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO 組織、業界団体、民間事業者の関わり

- ・実施に係る事業主体は、NPO を中心とする実行委員会であり、実際の活動の主体となるのは、一般

のボランティアである。

- ・本事業は、住民、各団体の連携の下、自発的な善意の発露として行われるものであり、行政は、活動支援を行っているものである。
- ・実行委員会の構成は次のとおり。NPO法人パートナーシップオフィス、NPO法人庄内海浜美化ボランティア、東北公益文科大学、社団法人山形県産業廃棄物協会、酒田海上保安部、酒田航路標識事務所、酒田市、山形県庄内総合支庁。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

- ・対馬暖流などの影響からか、漂着するゴミの量が非常に多く、過疎・高齢化が進む島民だけの対応は困難となっている。
- ・本事例は、島外からの人的な協力があればこそ出来る取り組みであり、本土からのボランティアによる離島海岸の清掃は全国的にも稀である。
- ・離島という地理的条件から渡航や収集ゴミの搬出などで課題も多いが、先進的な事例として評価される。

図版・写真等



担当（紹介）部署

山形県庄内総合支庁企画振興課（担当：公益のふるさと創り推進室）

山形県 鶴岡市 油戸地区魚の森づくり

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

山形県鶴岡市油戸地区

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	油戸共有山林
種類	海岸林
規模	流域16ha 植栽面積約1ha

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景) 鶴岡市油戸の魚の森の流域は、16haと小さく、その沢の途中には人間の生活がないため、「森・川・海」のつながりを考えるうえでモデル的な地区であった。
(目的) ・「森・川・海」のつながりを考えるモデル的な森作り。 ・ボランティアによる緑化運動の拡大

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

平成9年度植栽本数660本		参加者256人
平成10年度植栽本数754本		参加者271人
平成11年度植栽本数170本	2回の下刈作業	参加者243人
平成12年度植栽本数19本	2回の下刈作業	参加者136人
平成13年度植栽本数100本	2回の下刈作業	参加者233人
平成14年度植栽本数350本	1回の下刈作業	参加者408人
平成15年度植栽本数320本	1回の下刈作業	参加者459人
植栽樹種：クロマツ、アキグミ、イタチハギ、ハマナス、カシワ、エノキ、イタヤカエデ等		

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

・平成9年度 県単事業(鶴岡市事業主体)で植栽開始(平成10年度まで行った)
・平成11年度～平成15年度 年に1～2回のボランティア活動により植栽や保育活動を行う
・平成14年度～小学校、高校の森林教室での植栽や下刈りの体験の場
・今後も同様な活動を継続して行う予定

(事業)

活用事例に適用されている事業

なし

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

魚の森づくりの会がH15年度から発足。会長、副会長を地元油戸地区の方から引き受けていただき地元中心の活動へ転換していく予定であるが、事務局を鶴岡市の農山漁村整備課内に置き、全面的に協力している状況である。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

ボランティアによる森づくりということで、小学生からお年寄りまで、また地元住民を中心としながらも市内また近隣の市町村からの参加もあること。

当初は補助金で始まったが、作業の継続が目的なので出来るだけ予算をかけずに活動を行っていること。

図版・写真等



担当（紹介）部署

庄内総合支庁森林整備課（担当：鶴岡市農山漁村整備課林務係）

富山県 朝日町 自然公園環境整備事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

朝日町

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	ヒスイ海岸
種類	ヒスイ
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(目的)

ヒスイ海岸として注目を集め、観光客などが集まる区域の玄関口としてヒスイ公園を整備することで、観光地としてのイメージアップを図るとともに、地元住民にとっての憩いの場を創出する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

ヒスイ公園
・モニュメント
・東屋
・パーゴラ
・歩道
・植栽等
・公共トイレ

活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間：平成12～13年度

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は、朝日町である。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

自然、文化、歴史など地域の特性を活かし、優れた景観をもつまちづくりのために実施する小公園等公共空間の整備である。

図版・写真等



担当（紹介）部署

富山県経営企画部市町村課

但馬・因幡広域 「私のお薦めビューポイント」写真コンテスト

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

豊岡市、城崎町、竹野町、香住町、浜坂町、温泉町、因幡地域（鳥取県東部1市5町1村）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	山陰海岸
種類	対象地域の自然、景観等
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（目的）

因幡・但馬地域の共通資源である世界自然遺産の候補にも挙げられた山陰海岸をはじめとする豊かな自然、美しい風景を両地域の内外へ広くPRする事業として、兵庫県・鳥取県の広域観光促進事業の一環として実施した。

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成15年度～平成16年度に写真コンテストを実施し、優秀作品を選定後、平成16年度に入賞作品の写真展を行う。これらの作品をもとに因幡・但馬両地域の「私のお薦めビューポイント」を選定し公表する。

また、これを活用して同地域への観光誘客等を促進する。

因幡・但馬おすすめビューポイント写真コンテスト

秋・冬部門	H15.9～H16.2	写真募集
	H16.3	審査会・表彰式
春・夏部門	H16.3～H16.9	写真募集
	H16.10	審査会・表彰式

（事業）

県単独事業

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

実施主体は、鳥取・兵庫両県をはじめ因幡・但馬地域の市町村、民間団体等で組織されている「因幡・但馬観光キャンペーン実行委員会」である。

また、写真コンテスト実施にあたっては、写真家連盟、新聞社、フィルム業者等の協力を得ている。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴

県域をこえた広域的な観光の促進が図られる。

図版・写真等



担当（紹介）部署

兵庫県但馬県民局地域振興部商工労政課

福井県 福井市 国見岳風力発電事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

福井市国見岳森林公園内（福井市国見元町）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	国見岳風力発電所
種類	エコ発電
規模	900kW×2基

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

地球温暖化など地球環境問題に対する社会の関心が高まっており、新エネルギー等の環境負荷の少ないエネルギーの導入等が求められている。このような状況の中、福井県では平成12年3月に「新エネルギービジョン・省エネルギービジョン」を策定し、新エネルギーの導入・省エネルギーの推進を図ることとした。

（目的）

環境にやさしいクリーンなエネルギーの導入と普及啓発を図り、石油代替エネルギーを確保する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

本事業で整備した施設は2基の風車であるが、建設場所は地元市により以前から整備されている国見岳森林公園内（標高約640m地点）で、バンガロー、バーベキュー広場、芝生広場、オートキャンプ場、バウンドテニス、マレットゴルフ、サイクリングロードが設置されている。

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成13年10月 着工

平成14年12月 営業運転開始

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は、福井県である。建設場所は福井市が地元自治会から土地を借り受けて整備した森林公園内であり、福井市および地元自治会に建設の同意をいただいた。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

平成15年11月には、第11回福井市都市景観賞(魅力ある都市景観の実現に寄与している福井市内の建築物、工作物などや良好な都市景観の維持向上に努めている団体、個人を対象としたもので市民から募集)を受賞した。(応募名称は「国見岳風力発電付近風景」)

図版・写真等



福井県企業局電気課ページの中の [国見岳風力発電所の紹介]

<http://info.pref.fukui.jp/denki/index.html>

担当(紹介)部署

福井県企業局電気課

福井県 環境に配慮した住宅設備（太陽光発電設備等）への補助

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

県下全域

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	太陽光発電等
種類	地球環境対策活用（太陽光発電等）
規模	300戸に補助（H15）

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

地球温暖化ガスについては近年家庭部門での増加傾向が著しく、CO₂ 全排出量の 1/8 を占めているなど、この部門での環境への負荷低減を図ることが急務となっている。

（目的）

地球環境への負荷を軽減し、地域に適応した快適な住生活を実現するため、環境に配慮した住宅の普及を促進する。（CO₂ 排出削減、水資源の有効利用など）

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

補助を受けて設置された住宅における（住宅用）太陽光発電設備、屋根融雪・雨水再利用設備、雨水再利用設備、太陽熱温水設備、風力発電設備

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成13、14年度、住宅用太陽光発電設備の導入に対する補助制度を実施

平成15年度から対象設備の種類を拡充した補助制度を実施

（事業）

活用事例に適用されている事業

太陽光発電等住宅設備設置促進事業

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

補助主体は県および各市町村、補助対象は一般住宅（一戸建）。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

市町村と連携し（県と市町村が 1/2 づつ負担）各市町村がその地域に応じて必要とする対象設備に対して各市町村が窓口となり補助を行うことにより、各地域に応じた環境負荷の低減と併せて地域に適應した快適な住生活を実現する。

図版・写真等

自ら居住する戸建住宅に対象設備を設置する県民
年間所得が1200万円以下の方県民

対 象 と な る 設 備 お よ び 補 助 金 額

設備の種類	補助の金額	限度額
太陽光発電設備	設置費×1/3－NEF 補助可能額 出力(kW)×15万円の低い方の額	60万円
屋根融雪・雨水再利用設備	設置費×1/3	60万円
雨水再利用設備	設置費×1/3	30万円
太陽熱温水設備	設置費×1/3－NEF 補助可能額	30万円
風力発電設備	設置費×1/3	30万円

<http://info.pref.fukui.jp/kentiku/taiyou.html>

担当（紹介）部署

福井県土木部建築住宅課

兵庫県 但馬地域 環境グリーンロード作戦の推進

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名

但馬地域全域（実施中：日高町、香住町、浜坂町）

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	小水力発電 太陽光発電 温泉排湯熱
種類	
規模	

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（目的）

地球温暖化をはじめとする地球環境問題が顕在化する今日、環境負荷の少ない石油の代替エネルギーの導入促進が課題となるとともに、開発事業の自然環境への軽減が課題となっている。

そこで、但馬管内の道路整備においては、国道482号村岡道路（蘇武トンネル）を始め、鳥取豊岡宮津自動車道（香住道路、余部道路、東浜居組道路）等において、多様な自然エネルギーの活用など環境創生の取り組みを「但馬・環境グリーンロード作戦」として積極的に推進する。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- （1）小水力発電施設設置：国道482号 蘇武トンネル（日高町）
湧水を活用した小水力発電装置の整備によるトンネル照明への電力供給
- （2）太陽光発電施設設置：香住道路 長見寺トンネル（香住町）
道路南側法面を活用した太陽光発電施設の整備によるトンネル照明への電力供給
- （3）温泉排湯熱を利用した無散水融雪施設の歩道への設置：県道浜坂温泉線（浜坂町）
温泉の排湯熱を利用した歩道の無散水融雪の実施

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- （1）小電力発電：蘇武トンネル 平成15年11月完成済み
- （2）太陽光発電：長見寺トンネル 平成16年度完成予定
- （3）温泉排湯熱：県道浜坂温泉線 平成16年2月完成

(事業)

活用事例に適用されている事業

- (1) 県単独事業
- (2) 県単独事業
- (3) 交付金事業(雪寒道路対策事業)

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
特になし

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

(3) 従来、単なる廃湯として排出していたものを、豪雪地帯かつ温泉地のいう特性を活用した県内でも初の取り組みとして実施した。

図版・写真等



(5-4)

小電力発電：蘇武トンネル

太陽光発電：長見寺トンネル

担当(紹介)部署

兵庫県但馬県民局県土整備部企画調整担当

島根県 多伎町 キララトゥーリマキ風力発電所整備事業

位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

島根県簸川郡多伎町大字多岐・久村地内

緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	キララトゥーリマキ風力発電所及びキララトゥーリマキ公園
種類	自然の丘と自然エネルギー（風力エネルギー）
規模	面積約6ha、風力発電施設850kW2基

活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

当町は、「海と光・緑と水」に象徴される自然豊かな地です。この自然を保全・活用していくため、下水道整備や海岸を活用した道の駅などの海辺の交流舞台整備などに取り組んできた。

このような中、更なる自然資源の活用を検討していたところ、地球規模での課題である地球温暖化防止が叫ばれるようになり、自然豊かな多伎町だからこそできる事業ととして、自然エネルギーの活用に取り組むこととした。

まず、多伎町地域新エネルギービジョンを策定し、その中で「海風プロジェクト」として、多伎町に吹く海風を活用して風力発電を行うこととした。

（目的）

地球温暖化の原因のひとつである二酸化炭素を発生しないクリーンなエネルギーを作り出す風力発電施設を建設し、地球温暖化問題解決に寄与する。

また、風力発電所を自然や景観と調和した形で建設すると共に、周辺を公園として整備することにより、風力発電機を見た人たちあるいは公園を利用した人たちに地球温暖化などの環境問題や自然の活用に関心を持ってもらえることを期待し整備した。

主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

キララトゥーリマキ風力発電所（発電所出力1700kW）

キララトゥーリマキ公園

【フィンランド語で「トゥーリ」は風、「マキ」は丘の意味】

活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成12年度

多伎町地域新エネルギービジョン策定

町内4箇所での風況調査実施

平成13年度

見晴らしの丘風力発電施設整備基本計画策定

平成14年度

キララトゥーリマキ風力発電所建設（発電開始平成15年2月）

キララトゥーリマキ公園整備

（事業）

活用事例に適用されている事業

地域新エネルギー導入促進事業（新エネルギー・産業技術総合開発機構）

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業実施主体は、町である。風力発電事業は、発電するのみでなく環境問題に関心を持ってもらうことも重要であり、そういうことでは、地域住民や訪れる人全てが必要である。

また、発電したクリーンエネルギーを安定して利用してもらうためには、一般電気事業者である中国電力㈱との協力は必要不可欠である。

特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

風力発電施設を整備した地は、国道9号に面した小高い丘の上であり、行き交う多くの人に環境問題の普及啓発を行っている。

また、このような自然エネルギーの活用と共に、省エネへの取り組みも展開しています。自然環境の保全と活用、そして、地球に優しいまちづくりにも取り組んでいます。

図版・写真等



<http://www.web-sanin.co.jp/local/taki/> 多伎町 <http://www.kirara-taki.co.jp/> 道の駅 多伎

担当（紹介）部署

島根県簸川郡多伎町地域振興課